

解説報告書

ナオミ・クエンク & ジーン・クメロウ 著 園田由紀 監訳



CPP, Inc. | 800-624-1764 | www.cpp.com



Japan Psychologists Press, Inc.

JPP, Inc. | 03-5363-0517 | www.jpjapan.com

解説報告書

ナオミ・クエンク & ジーン・クメロウ 著 園田由紀 監訳



CPP, Inc. | 800-624-1764 | www.cpp.com



MBTI®

このSTEP II™の報告書は、あなた自身が回答された内容から、あなたの心の各指向の詳細について報告するものです。この中には、STEP I™の結果(4文字のMBTI®のタイプ)も含まれますが、このSTEP IIの結果とあわせて分析をすると、同じMBTIのタイプでも、個々人の現れ方が異なることがより理解できるきっかけになることでしょう。

MBTI®は、ユングの心理学的タイプ論の応用として、イザベル・ブリッグス・マイヤーズとキャサリン・ブリッグスによって開発された性格検査です。この理論は、エネルギーを得ること(外向あるいは内向)、情報を集めるもしくは情報に気づくこと(感覚あるいは直観)、情報に基づいて決定するもしくは結論を出す(思考もしくは感情)そして、私たちの日常の過ごし方(判断的態度あるいは知覚的態度)に、私たちは対極をなすやり方をもっていることを、提案します。

- | | |
|---|--|
| ■ もしあなたが、外向を指向する場合 、他者とかかわること、およびあるいは、ものごとに関わったり行動することを通じて、エネルギーを得るために、外界に焦点をあてます。 | ■ もしあなたが、内向を指向する場合 、内的な世界に焦点を当て、自分の考えなどを反芻することで、エネルギーを得ます。 |
| ■ もしあなたが、感覚機能を指向する場合 、事実や、ものごとの詳細や、現実にもとづく情報をとらえ、それを信頼します。 | ■ もしあなたが、直観機能を指向する場合 、ものごととの関連や概念や起こりうる未来、仮説に焦点をあてて、それを信頼します。 |
| ■ もしあなたが、思考機能を指向する場合 、論理にもとづき、客観的にものごとを分析して判断を導き出します。 | ■ もしあなたが、感情機能を指向する場合 、一人ひとりを中心においた価値観を適用することで、調和をつくり出すように決定します。 |
| ■ もしあなたが、判断的態度を指向する場合 、スケジュールを立てたり秩序だてたり、外を決めようとする傾向があります。 | ■ もしあなたが、知覚的態度を指向する場合 、臨機応変に対応しながら、最後の最後まで判断を待とうとする傾向があります。 |

これら8つの心は、誰もがもっていますので、誰もがこれらすべてを使っています。しかし、手に利き手があるのと同様、人は自分にとってより自然な心のほうを使う傾向があると考えられています。したがってどちらかの指向のほうが、他方よりも優れているとか望ましいということは一切ありません。

MBTIは、特定の分野におけるその個人のスキルレベルや能力を測定するものではありません。あなたの独自の物事のとらえ方や判断において、一人ひとりが自分の特有のスタイルに気づくようになるでしょう。

この報告書は、次の内容が含まれます。

- あなたが回答したMBTIのSTEP I™ (Form M)の結果
- あなたの回答をもとに算出されたSTEP II™の各ファセットにおける指向の結果
- あなたのSTEP II™の結果を、日常のコミュニケーションに活用するための指針
- あなたのSTEP II™の結果を、効果的な意思決定に活用するための指針
- あなたのSTEP II™の結果を、チェンジマネジメントに活用するための指針
- コンフリクトに対処するためにSTEP II™を適用する
- あなたが指向するタイプのそれぞれがどのように互いに相互作用しているかについての説明
- STEP I™とSTEP II™の結果を統合してとらえた場合の見方
- ものごとをより理解するためのタイプの使い方
- あなたの報告結果の概要

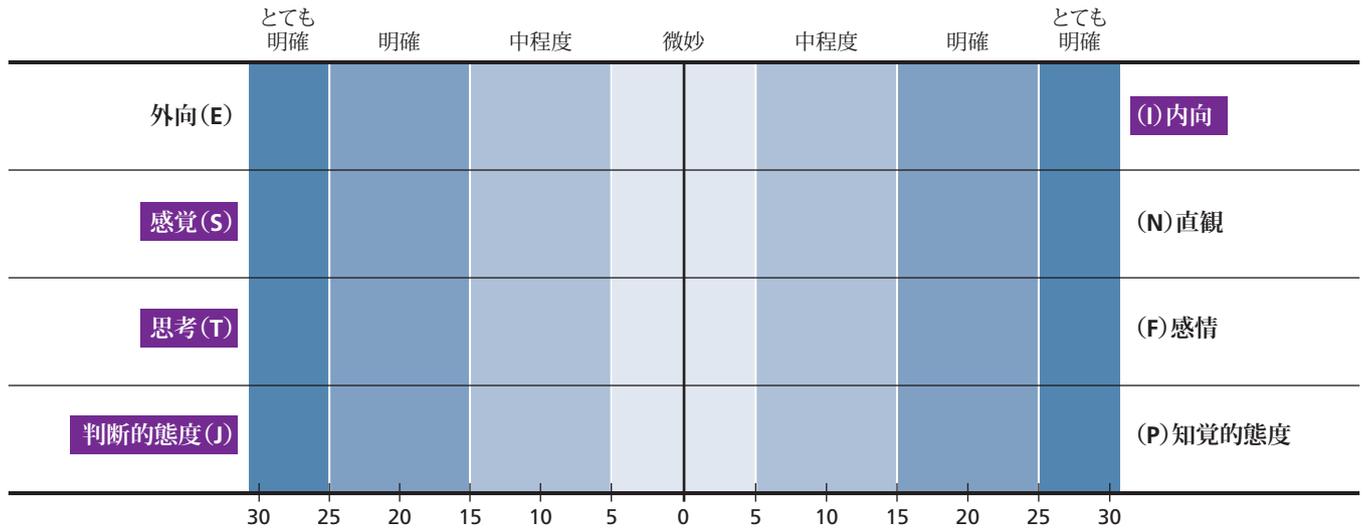
あなたが回答したMBTI®のSTEP I™ (Form M)の結果

下記の棒線と文章は、あなたの報告タイプについての情報となります。どちらか一方に棒線が描かれていますが、それが今回報告されたあなたの指向(タイプ)です。棒が長く描かれている場合は、ご自分の指向であるということに対して明確であると報告されたことになります。

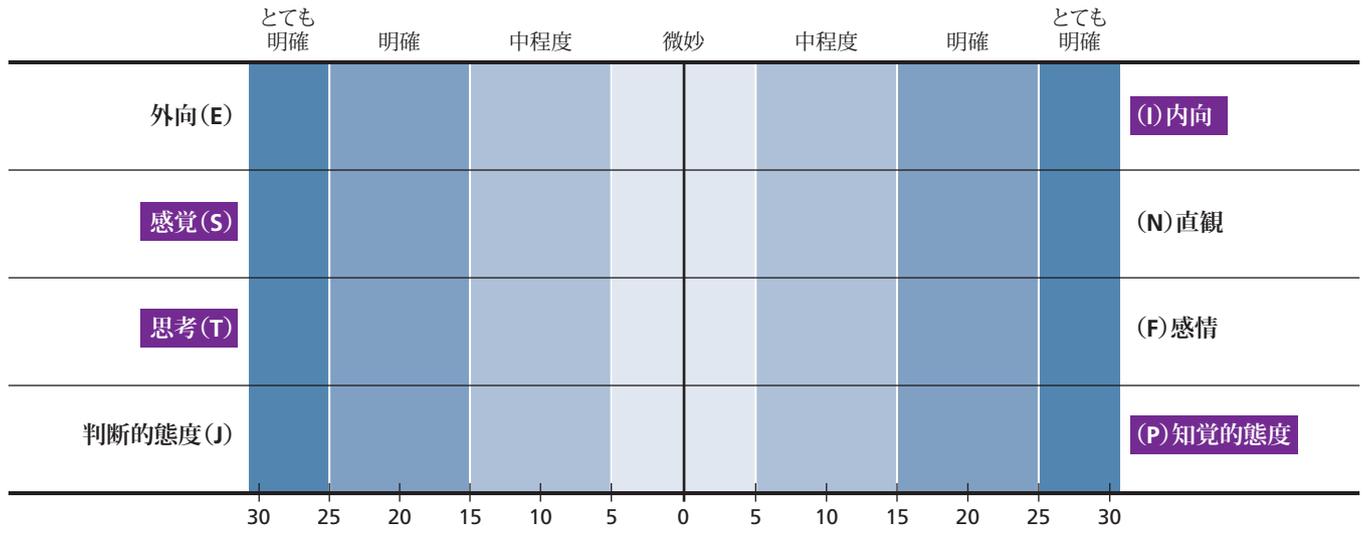
あなたが回答したMBTI®のSTEP I™ (Form M)の結果

下記の棒線は、STEP IIの質問項目に対するあなたの回答をもとに算出された結果となり、そのタイプについて解説しています。どちらか一方に棒線が描かれていますが、それが今回報告されたあなたの指向(タイプ)です。棒線が長く描かれている場合は、ご自分の指向であるということに対して明確であると報告されたこととなります。しかしながら、このあとの解説は、自己申告によるベストフィットタイプのデータをもとにしていますので、今回の結果は、あくまでも今回の回答を元に算出しているため、あなたの本来のベストフィットタイプとは異なる場合があります。

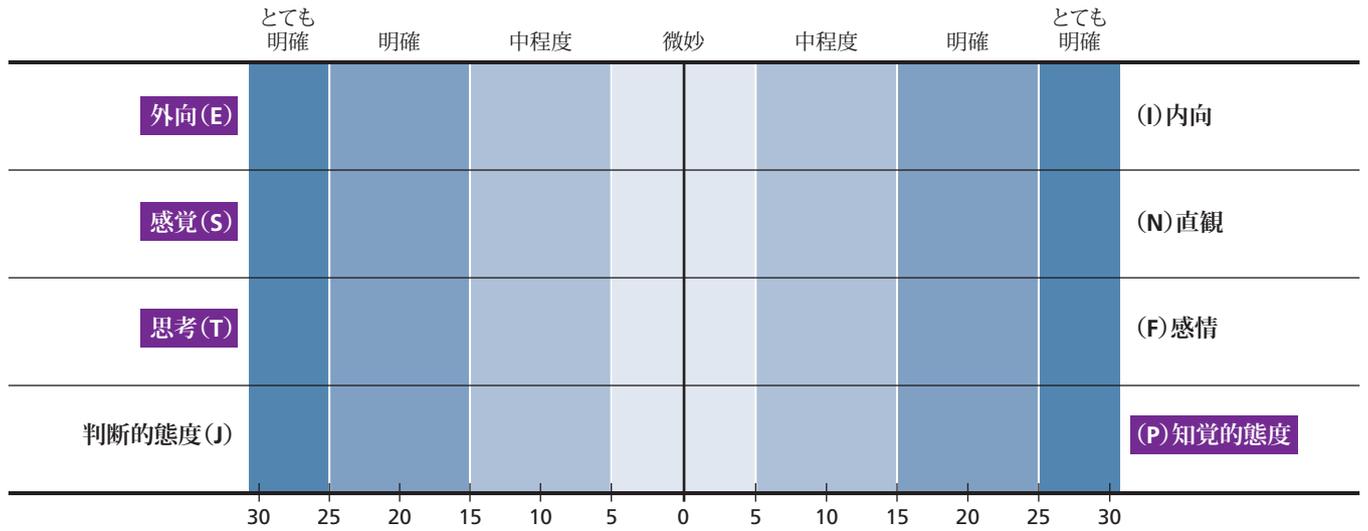
指向の明確さ



指向の明確さ



指向の明確さ



外向(E)

(I)内向

感覚(S)

(N)直観

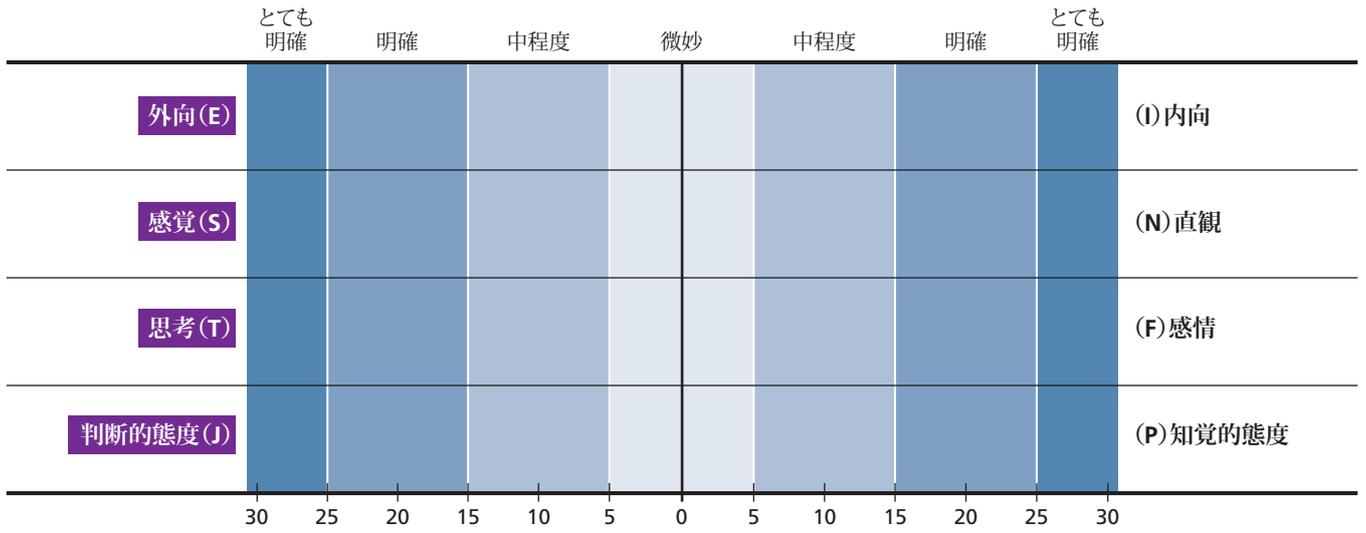
思考(T)

(F)感情

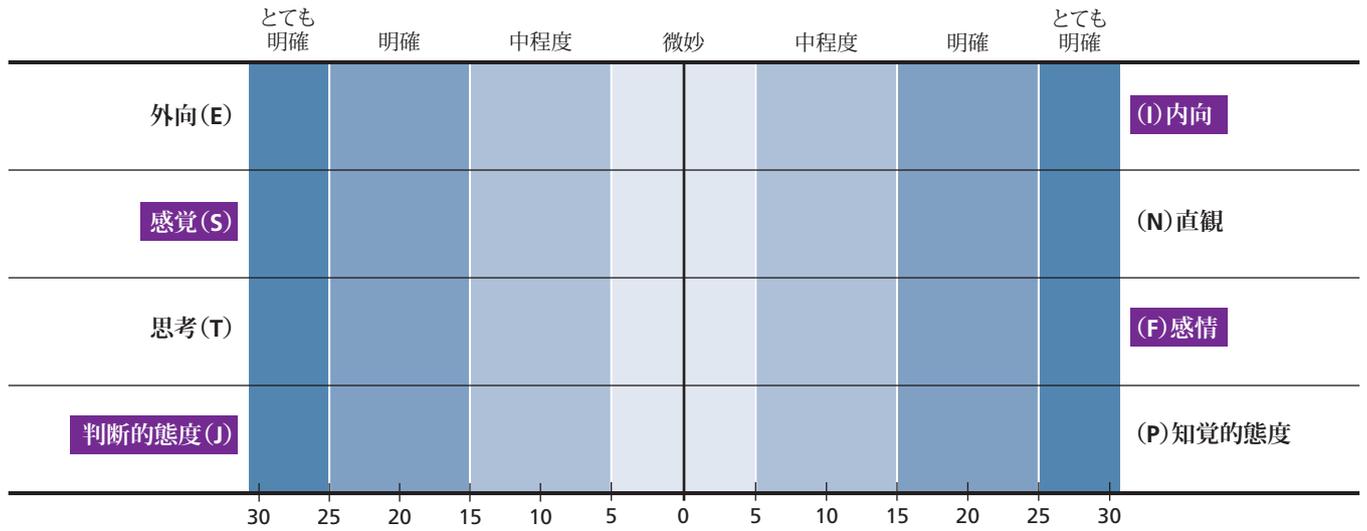
判断的態度(J)

(P)知覚的態度

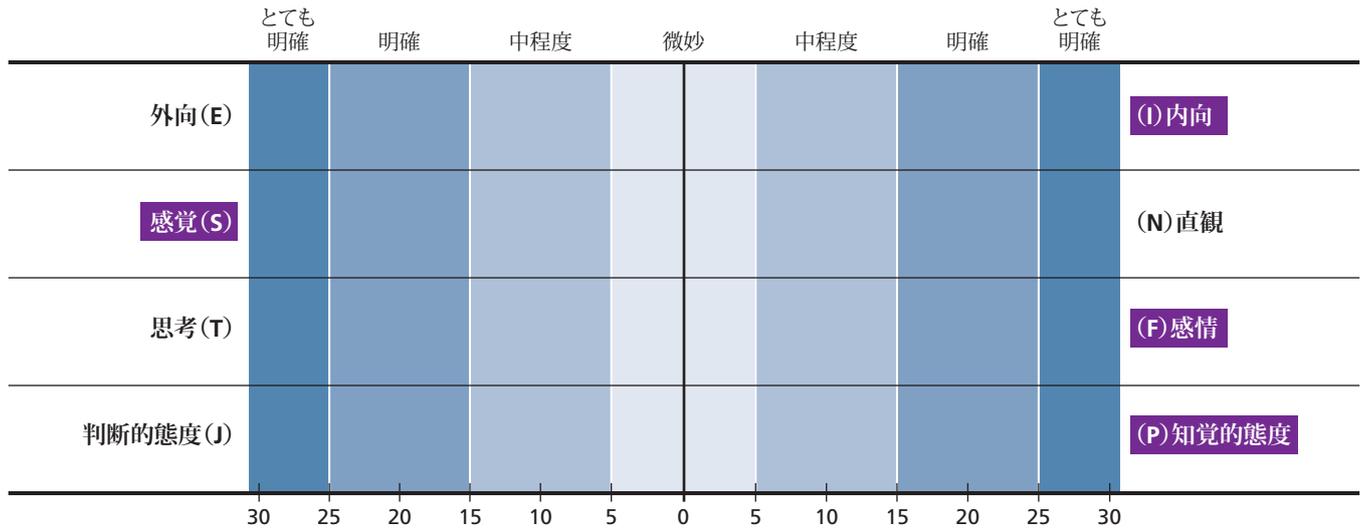
指向の明確さ



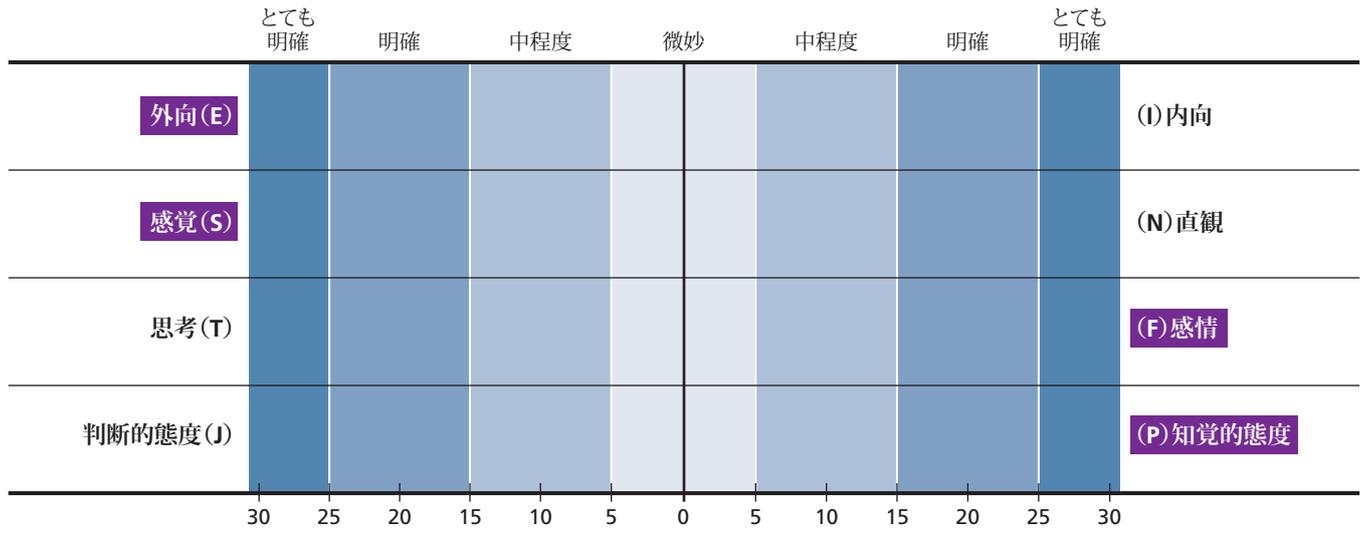
指向の明確さ



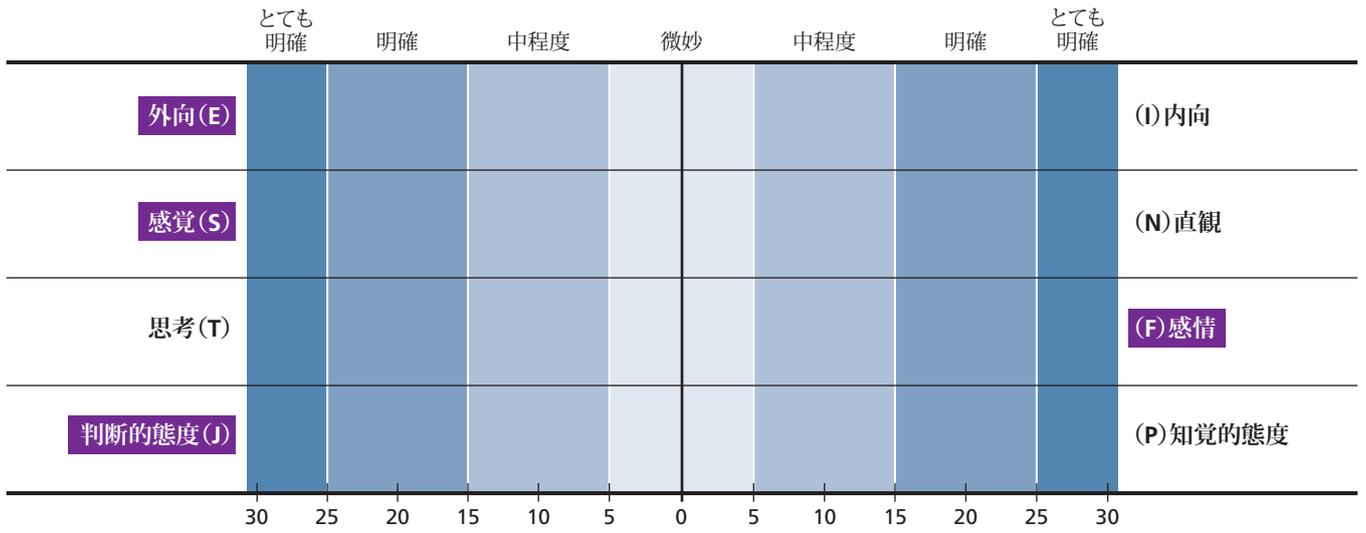
指向の明確さ



指向の明確さ



指向の明確さ



外向(E)

(I)内向

感覚(S)

(N)直観

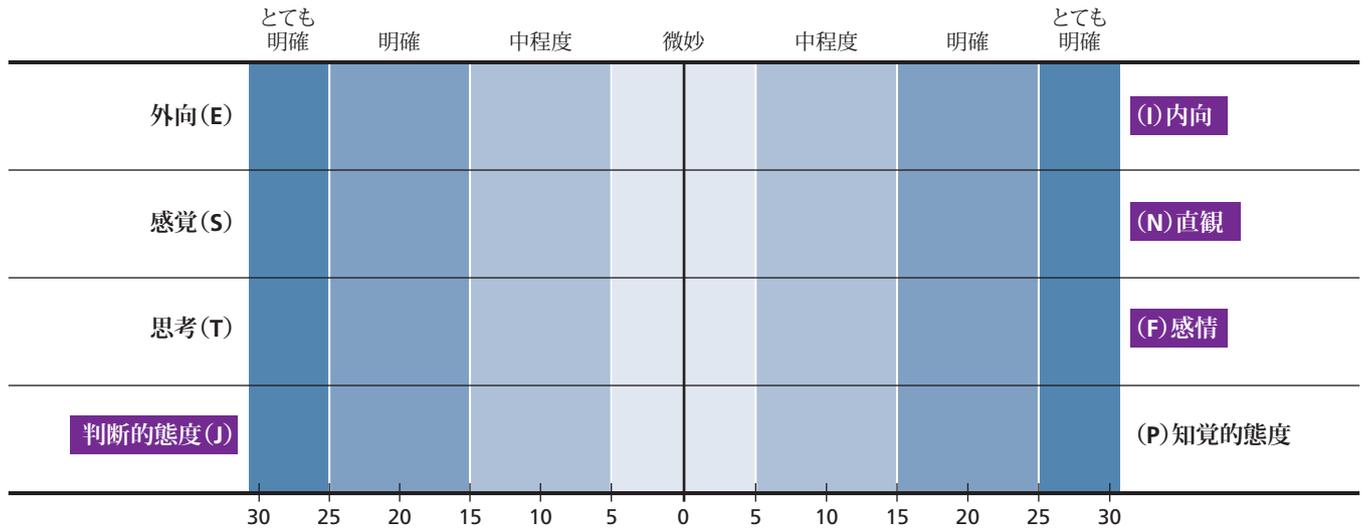
思考(T)

(F)感情

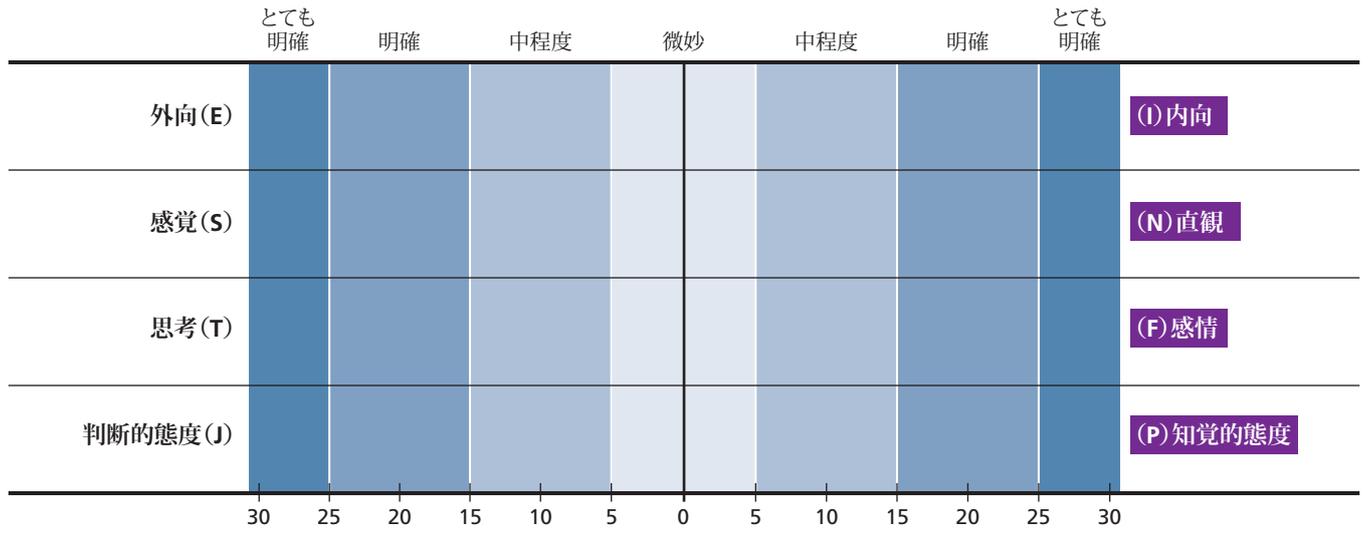
判断的態度(J)

(P)知覚的態度

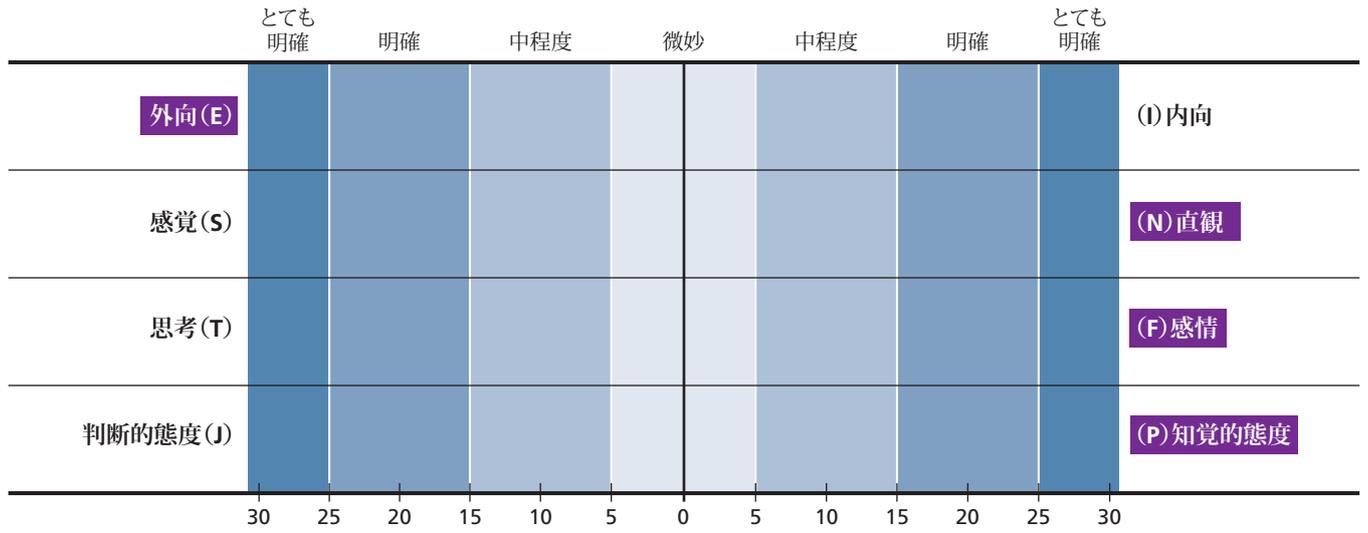
指向の明確さ



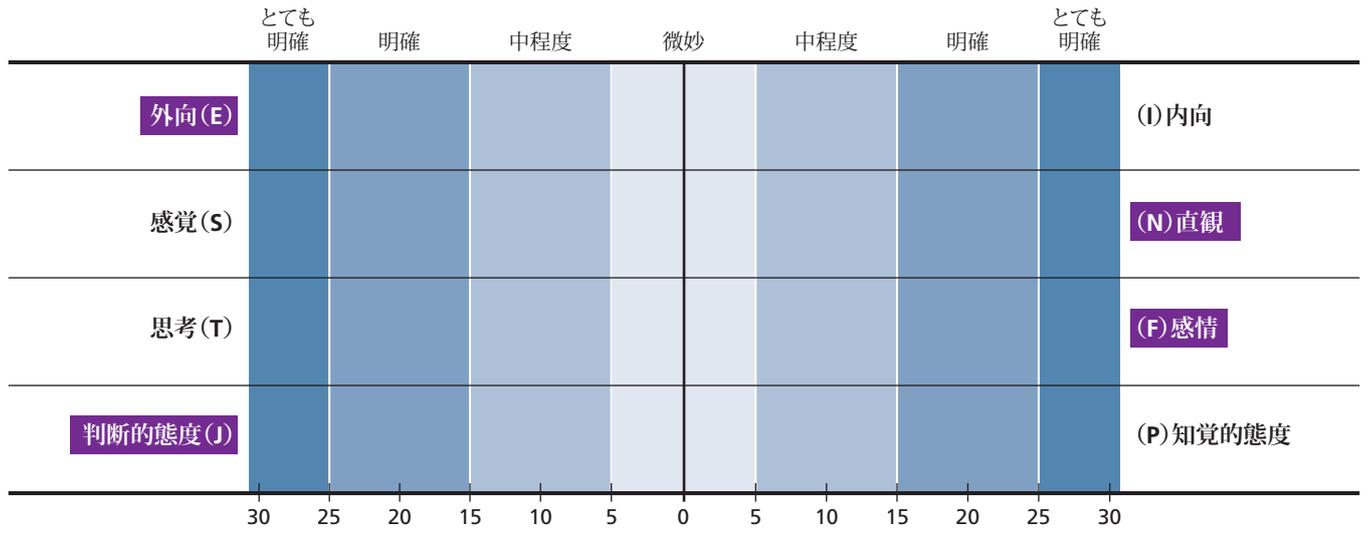
指向の明確さ



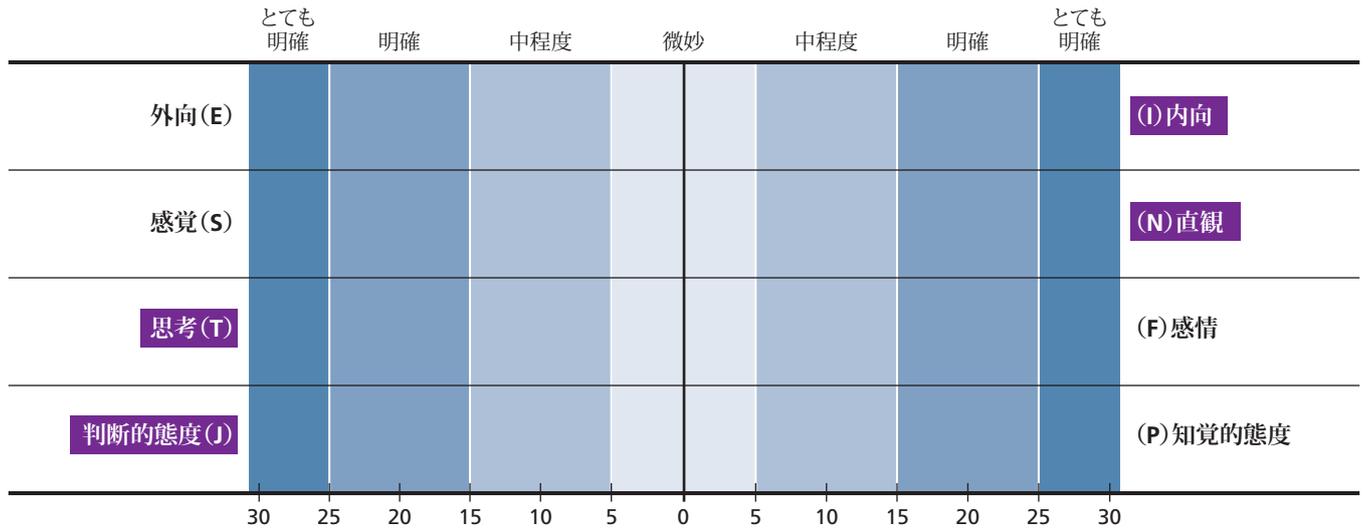
指向の明確さ



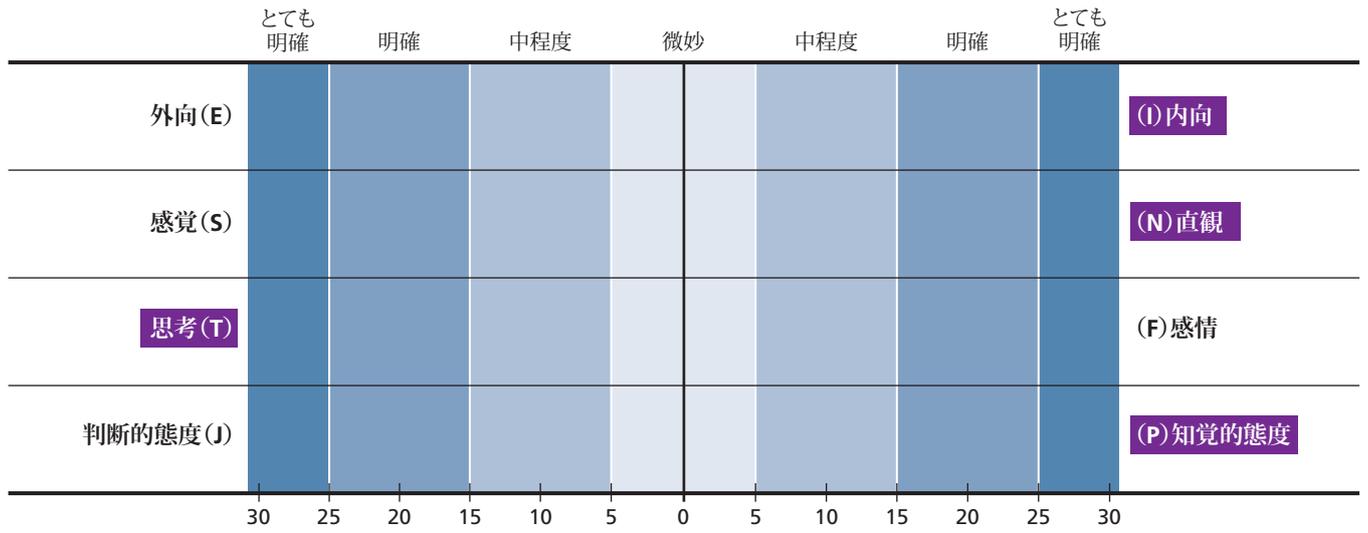
指向の明確さ



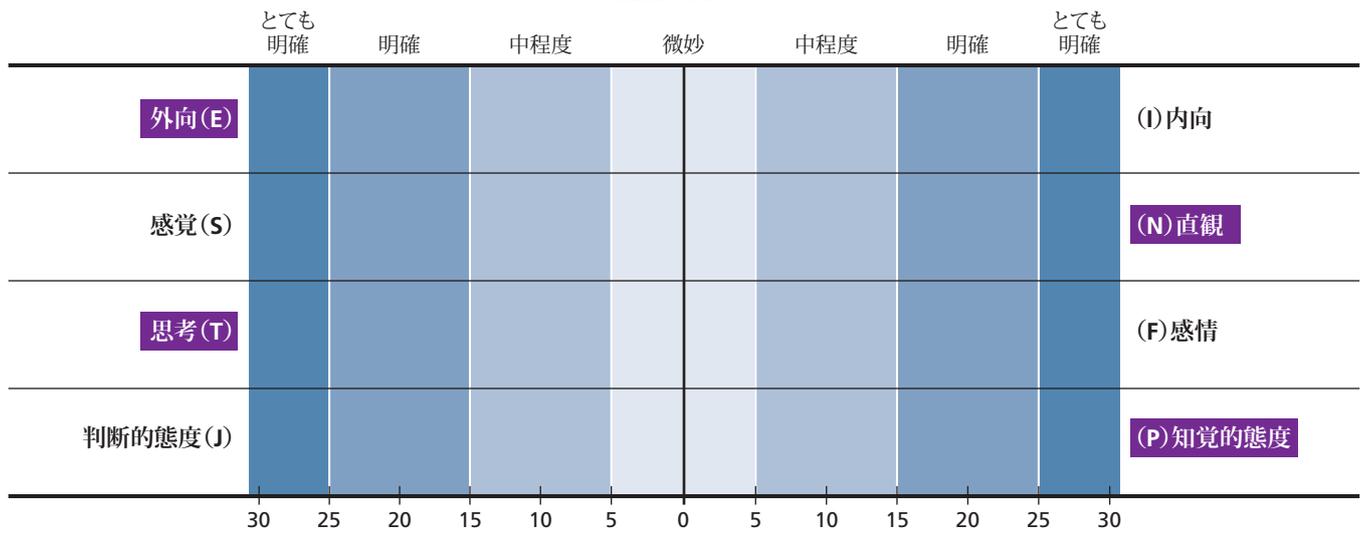
指向の明確さ



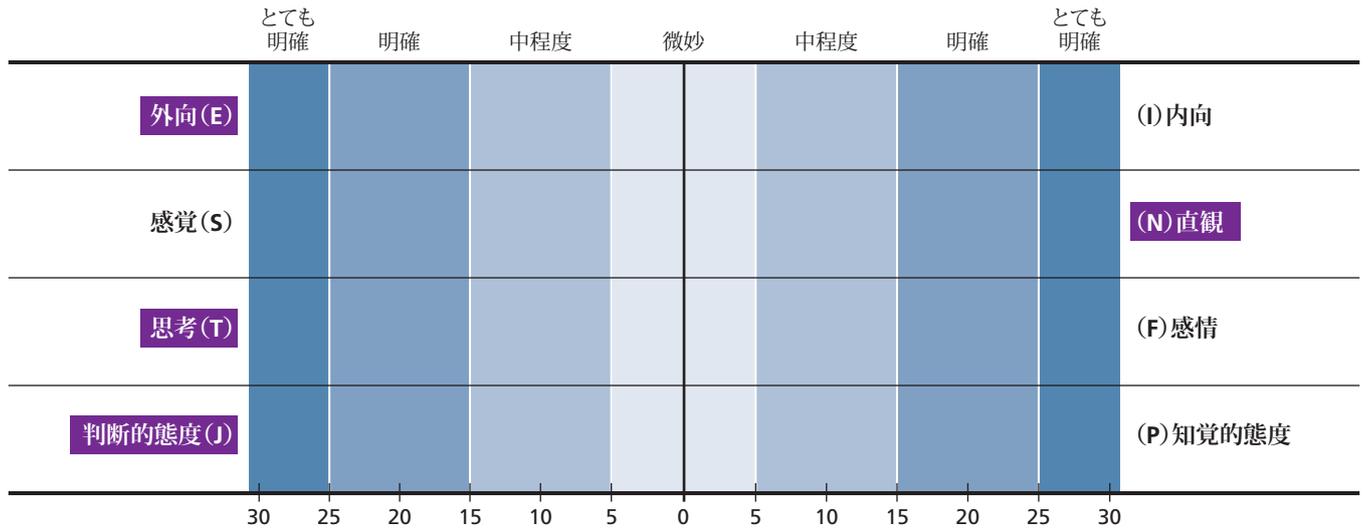
指向の明確さ



指向の明確さ



指向の明確さ



外向(E)

(I)内向

感覚(S)

(N)直観

思考(T)

(F)感情

判断的態度(J)

(P)知覚的態度

あなたのタイプは
ISTJ
(内向、感覚、思考、判断的態度)

あなたのタイプは
ISTP
(内向、感覚、思考、知覚的態度)

あなたのタイプは
ESTP
(外向、感覚、思考、知覚的態度)

あなたのタイプは
ESTJ
(外向、感覚、思考、判断的態度)

あなたのタイプは
ISFJ
(内向、感覚、感情、判断的態度)

あなたのタイプは
ISFP
(内向、感覚、感情、知覚的態度)

あなたのタイプは
ESFP
(外向、感覚、感情、知覚的態度)

あなたのタイプは
ESFJ
(外向、感覚、感情、判断的態度)

あなたのタイプは
INFJ
(内向、直観、感情、判断的態度)

あなたのタイプは
INFP
(内向、直観、感情、知覚的態度)

あなたのタイプは
ENFP
(外向、直観、感情、知覚的態度)

あなたのタイプは
ENFJ
(外向、直観、感情、判断的態度)

あなたのタイプは
INTJ
(内向、直観、思考、判断的態度)

あなたのタイプは
INTP
(内向、直観、思考、知覚的態度)

あなたのタイプは
ENTP
(外向、直観、思考、知覚的態度)

あなたのタイプは
ENTJ
(外向、直観、思考、判断的態度)

あなたの報告タイプは、ISTJです。

あなたの報告タイプは、ISTPです。

あなたの報告タイプは、ESTPです。

あなたの報告タイプは、ESTJです。

あなたの報告タイプは、ISFJです。

あなたの報告タイプは、ISFPです。

あなたの報告タイプは、ESFPです。

あなたの報告タイプは、**ESFJ**です。

あなたの報告タイプは、INFJです。

あなたの報告タイプは、INFPです。

あなたの報告タイプは、ENFPです。

あなたの報告タイプは、ENFJです。

あなたの報告タイプは、INTJです。

あなたの報告タイプは、INTPです。

あなたの報告タイプは、ENTPです。

あなたの報告タイプは、**ENTJ**です。

あなたが検証された自分のベストフィットタイプは、

ISTJ

(内向、感覚、思考、判断的態度)

この報告書は、あなたをご自分で検証されたタイプに基づいて報告されています。

あなたが検証された自分のベストフィットタイプは、

ISTP

(内向、感覚、思考、知覚的態度)

この報告書は、あなたをご自分で検証されたタイプに基づいて報告されています。

あなたが検証された自分のベストフィットタイプは、

ESTP

(外向、感覚、思考、知覚的態度)

この報告書は、あなたをご自分で検証されたタイプに基づいて報告されています。

あなたが検証された自分のベストフィットタイプは、

ESTJ

(外向、感覚、思考、判断的態度)

この報告書は、あなたご自分で検証されたタイプに基づいて報告されています。

あなたが検証された自分のベストフィットタイプは、

ISFJ

(内向、感覚、感情、判断的態度)

この報告書は、あなたをご自分で検証されたタイプに基づいて報告されています。

あなたが検証された自分のベストフィットタイプは、

ISFP

(内向、感覚、感情、知覚的態度)

この報告書は、あなたをご自分で検証されたタイプに基づいて報告されています。

あなたが検証された自分のベストフィットタイプは、

ESFP

(外向、感覚、感情、知覚的態度)

この報告書は、あなたをご自分で検証されたタイプに基づいて報告されています。

あなたが検証された自分のベストフィットタイプは、

ESFJ

(外向、感覚、感情、判断的態度)

この報告書は、あなたをご自分で検証されたタイプに基づいて報告されています。

あなたが検証された自分のベストフィットタイプは、

INFJ

(内向、直観、感情、判断的態度)

この報告書は、あなたをご自分で検証されたタイプに基づいて報告されています。

あなたが検証された自分のベストフィットタイプは、

INFP

(内向、直観、感情、知覚的態度)

この報告書は、あなたをご自分で検証されたタイプに基づいて報告されています。

あなたが検証された自分のベストフィットタイプは、

ENFP

(外向、直観、感情、知覚的態度)

この報告書は、あなたをご自分で検証されたタイプに基づいて報告されています。

あなたが検証された自分のベストフィットタイプは、

ENFJ

(外向、直観、感情、判断的態度)

この報告書は、あなたをご自分で検証されたタイプに基づいて報告されています。

あなたが検証された自分のベストフィットタイプは、

INTJ

(内向、直観、思考、判断的態度)

この報告書は、あなたをご自分で検証されたタイプに基づいて報告されています。

あなたが検証された自分のベストフィットタイプは、

INTP

(内向、直観、思考、知覚的態度)

この報告書は、あなたをご自分で検証されたタイプに基づいて報告されています。

あなたが検証された自分のベストフィットタイプは、

ENTP

(外向、直観、思考、知覚的態度)

この報告書は、あなたをご自分で検証されたタイプに基づいて報告されています。

あなたが検証された自分のベストフィットタイプは、

ENTJ

(外向、直観、思考、判断的態度)

この報告書は、あなたをご自分で検証されたタイプに基づいて報告されています。

ISTJを指向する人は、ものごとを現実的にとらえ、実際的事実から頼りになる傾向がある。事実が焦点がおかれ、それを蓄え用いる。ものごとが明確で論理的に整理された状態にしておこうとする。一貫しており、効率に重きをおき、着実に目的を果たせるように細かいところも確認しながら手順をふみ、必ず実行する。何かをなす必要があると認識すると、その責任を受け入れる。

衝動的に活動を始めるとはしないが、しかし、いったん関わると、それから注意をそらしたり、簡単にやめたりしない。安定をもたらす、困難なことに屈せず最後までやり遂げようとする。

自分の本分を全うしようとしているときは、自信をもった言動をし、分別があり、おとなしく、落ち着きがあるように見える。危機的な状況であっても、ほとんど個人的なことは表現しない。

実際的な判断の仕方や、手順を守る姿勢から、一貫性があり、着実な印象を与える。自分の評価基準を支持する事実を集め、それらの事実から距離を置いて話をする。過去の経験や実体験から現在の問題の解決策を求める。

組織だっていることと、正しいことに価値を置く職場で働くことに、満足を覚える傾向がある。何をすべきか把握し、注意深く、秩序立ってかつ時宜を得たやり方に従って確実にやり遂げる人として頼られる。

ISTPを指向する人は、ものごとから距離を置いて、論理的に分析し、かつ客観的に批評する傾向がある。根拠のある事実に基づいた推論のみに納得する傾向がある。現状を判断し、仕事を推進するため必要な努力の量を判断し、効率のよいやり方を見つける。ものごとの近道を自ら見つけることを楽しむ。

周囲を鋭く観察するため、独特な性質を含んだあらゆる状況の核心を捉える傾向がある。静かに好奇心を持ち、ものごとが働く方法と理由に着目する。そのため、自分が実際にいじったりする技術的なあるいは機械を扱う活動を楽しむ方である。

自分の分析目的のための事実やデータを整理すること自体を好むが、人や状況を整理したり、組織立てることは好まない。理にかなったことをするように求められている限りは、状況に適応することは心地よいと感じる。

自分のなかに、それに関する情報を十分にもっている話題に話が及ばなければ、静かに控えめな態度でその場にいることが多い。実際に関係する多くの事実を提示する傾向がある。

ISTPを指向する人は、理論と応用に価値をおく職場環境で働くことに、満足を感じる傾向がある。無駄のないシンプルなアプローチでなすべきことを淡々と進めることから、周囲から信頼を得る。

ESTPを指向する人は、いまここで必要とされていることをすばやく察する傾向がある。現実在即してすばやく状況を判断し、実際に効果ある解決策を探す。特定のルールに縛られず、そのときの状況になんなく適応する。

詳細と事実に焦点があたるため、重要であることがらを示唆する仮説や理論より、本人の体験のほうを信頼する。好奇心があり、また外界をそのまま受け入れるため、多種多様なやりかたも許容する。

他の人のアドバイスを聞くより、自分自身でやってみて、問題を解決することを好む。自分の体験と尊重する人の体験に基づいた原理原則やあるべき姿を追求する。すばやく論理を適用して考え、次のことがらや状況にいままでのことが上書きされるようにすぐさま移る。

ESTPを指向する人は、身体を動かすことや生活そのものを楽しみ、物を所有することも楽しむ傾向がある。ESTPを指向する人は、いまここに生き、あえて人生を深く分析したり、そこに踏みとどまることはせず、じっとしていない傾向がある。いまここに焦点をあてる。

ESTPを指向する人は、現実的で、効率よく、行動がすばやく、臨機応変にことをすすめることに価値をおく職場環境に、満足を感じる傾向がある。解決策を探し求めたり、実際に解決を実行に移す間、現在の状況に焦点をあて続け、本題からずれることなく、来るものを来るがままに受け入れる人として見られる。

ESTJを指向する人は、たいていのことは客体としてとらえて、論理的で分析的に批評する傾向がある。まずは、枠組みを決め計画を組織立てたうえで、理にかなった方法でタイムリーにかつ効率よくものごとをすすめることを好む。

ESTJを指向する人は、ものごとを「そのまま」に認識する。いまここに焦点があたり、事実に着目、実際的かつ現実的である。過去の体験は今の問題の解決を助け、アイデアや計画また判断そのものが有効かどうか、事実に基づく査定が必要であると考えている。

ものごとをすすめるにあたり、明確な基準やルールをもつことを好む。何かを進める際にやり方を変更する場合、いままでとってきたやり方の基本を成しているルールをまず変更する必要がある。筋道立てかつ一貫して、すばやくものごとを決める。

直接的で、観察でき、明確に事実ベースで把握できることがらに焦点をあてる。ESTJを指向する人は、諸々の問題を解決し、整理してから、先へすすむことを好む。わけのわからないことや、非効率なことがらには、耐え難いところがあり、そのような場合に、課題の遂行を優先させ、関わる人たちに対して強引に接し、すすめることがある。

ESTJを指向する人は、明確な目標やゴールがあり、解決のために決めなければならないことも沢山あり、かつものごとが組織だっておりタスクを着実に遂行することに価値をおく職場環境に、満足を覚える傾向がある。決めたことに対し、組織だって効率的に実践し、かつ必ずゴールは達成する人として頼りにされる。

ISFJを指向する人は、縁の下の力持ち的存在のため、頼りになり、周囲を支援しながら周囲の要望に着実に応える傾向がある。仕事を完遂するまで責任を果たそうとする。他者の要望にこたえるために、何がなされる必要があるかに気づき、黙ってそれをする。

特に自分に関係ある人たちに関しては、確かで明らかな事実に焦点をあてて情報を蓄える傾向がある。正しい事実情報があることは、実際的なことを決める際に特に重要である。困っている他者に対して共感し、機転がきき、支援しようとする。他者が心地よく感じかつ仕事を終えられるように、自分ができるささやかなことに気づき、それを実行する。

ISFJを指向する人は、正しく分別ある行動する傾向がある。しかしながら、突然の変化や、本人にとって危機的状況下では、穏やかで落ち着きを保つことは困難を極める。自分が悩んでいることについてすぐ顔に出て、実際に状況が解決されるまで心配し続ける。

多くの場合、ISFJを指向する人は、詳細な手続きを徹底的に勤勉におこない、我慢強い。ISFJを指向する人は、自分の過去の経験を信頼しそれらを参照しながら、ものごとを進める傾向がある。堅実で他者に対して細やかな親切さがあり、穏やかな人だと思われる。

ISFJを指向する人は、責任を果たすことや精度が高いことそして、組織そのものや人に価値を置く職場環境に、満足を感じる傾向がある。その他者を助けるために何が必要かに気づき、直ちにそれを行う人として見られる。

ISFPを指向する人は、実際にすることのほうに深く関心があり、言葉より行動をすることでそれを示す傾向がある。自分が大切に思っている組織や人に対して忠実であり、個人的に十分な温かさをもっているが、それを必ずしも表現するとは限らない。

ISFPは、あるがままにものごとをそのまま受け止め、来るものをそのまま受け入れて、自然と適応する。しかしながら、自分にとって大切なものが脅かされると、一変し、一切のものごとを受け入れなくなることがある。自分が信じることを他者に明らかにしないため、周囲の人は予期せぬ反応に驚かされることがある。

ほとんどの場合、他の人に自分の存在を印象付けたり、影響を与えようとししない。自分のとる行為自体がなぜそうするかを明らかにしていると信じているため、周囲の注意をひきつけたりしない。そのため、周囲の人は、このタイプの人への貢献を見落としがちなため、その結果、実際よりも、本人が自分の価値を低く捉えたり、能力不足であると感じる。

他者同士が、よい関係性を維持できることを気遣い、ときに壊れそうな関係性を保つための接着剤の役割を果たす。自分の周囲のあるもの、特に自然や動物に注意を払い、鋭敏な観察者でもある。

自分が関心があるものに価値を置いてくれ、そのつど対応するということが可能にする職場環境に、満足を感じる傾向がある。何を行う必要があるかに気づき、それを騒ぎ立てずに進める人に見られる。

ESFPを指向する人は、たいていは社交的で、親しみがあり、状況に適応する現実主義者である。すばやく状況を判断し、身近な人々のために考えられる解決策を見出す。特定のルールに縛られず、そのときの状況になんとか適応する。

ESFPを指向する人は、詳細や事実に焦点がいく、仮説の理論ではなく、自分の体験から指針を得る。好奇心があり、また外界をそのまま受け入れるため多種多様なやりかたも許容する。

他者からの何か助言を聞いて決めるよりも、事態を他者に話したり、自分で試して決めるほうを好む。自分の実際の経験と自分と近い人たちの日々の生活のなかから関連する情報を探して、それらをすばやく適用し、先に進む傾向がある。

ESFPを指向する人は、生活をより楽しくし、しばしば、身体を動かすことや物理的に物を所有することも楽しもうとする。ESFPを指向する人は、人生とは、分析されたりする対象ではなく、いまここで生きていることそれ自体のため、人生自体が、静かに留まるようなものではないと感じている。

ESFPは、親しみがあり、現実的で、柔軟で、行動志向の職場環境の中で満足を感じる傾向がある。楽しい方法で現在の状況に注目し、かつそのなかで実用的な解決を見出し、次々に、ものごとを、来るがままに受け入れて事態を理解し、実際的な解決をする人として見られる。

ESFJは、たいていは、人あたりがよく機転がききよく気がつき、協力と調和に大きな価値を置く。忠実でかつ誠実である。ESFJは、辛抱強く気を配りながら、整然とことを進め納期を守る。

ESFJを指向する人は、何が他者にとって価値があることなのかを確かめ、かつそれをするために動く。コンフリクトがある場合でさえ、必ず共通なことや調和を見つけられることができると信じている。社交することを楽しみ、他者と話すことを好む。

過去の経験は、ESFJを指向する人の問題解決に役立つことが多い。ある考え方や、立てられた計画あるいは意思決定などが、実際に確固たる事実に基づくものであるか確かめないと確信がもちにくい。ESFJを指向する人は、ものごとの具体的詳細に着目し、实际的でかつ現実的であるため、地に足がついている傾向がある。

ものごとを計画通りにすすめるために、決まりきった工程と方法をもつことを好むことから、一貫した言動をする自己他者両者ともに対して、高い価値を置く。いったん始めたものを必ず完成させたり終えたいため、その作業や仕事が終わるまでは、緊張が持続する。

ESFJを指向する人は、人と協力しあって仕事をすることができる職場環境に満足を感じる傾向がある。人あたりがよく、気遣いがあり、整然と実際的なやり方でものごとをやり遂げる人として見られる。

INFJを指向する人は、自分の興味関心がある分野において革新者であることが多い。自分が見て捉えたものについての意味を探索し、その洞察を、人が成長することに適用する。一般的に人気のあることよりも、人々の人生において、永続する大きな違いをもたらすであろうと信じるものに焦点をあてる。

独立しており、人に影響されないが、しかしながら協力と調和に価値を置く。他者に自分の考えを伝え、さらに他者の考えを生かそうとする。協力を要求するより、むしろ協力を自然と得たいほうである。しかしながら、自分の考えをひたむきに発展させるため、他者がその自分の考えをなかなか理解しない時に、フラストレーションを感じる。

他者が新しい可能性を見いだすことを支援することに興味を持つ。他者が、その人自身についてより深い理解を促進することを望み、その人がそうすることを支援するために個別に対応することを好む。

自分にとって重要なことに徹底して従う。ものごとが整然とされている状態を好むが、しばしば詳細を適切に捉え損ねることがある。

INFJを指向する人は、人々の潜在的な可能性を十分に発展させられることを促す職場環境に満足を感じる傾向がある。関わる人全員に関与する大きな問題を認識し、そこに焦点を合わせ続けられる人に見られる。

INFPを指向する人は、たいていの場合、人びととその人たちの価値観に対して深い関心をもち、新しい可能性に興味に向く。自分が気にかけている人たちや動機に対して忠実である。それを必ずしも表現するとは限らないが人としての温かさを持っていることがよくある。

寛容に、まずはそのままに受け容れ、事態に適応する。しかしながら、自分にとって重要なことについては強く防御するが、自分が「確信していることを明らかにしていない場合、突然の態度の変化に、周囲が驚くことが多い。

INFPを指向する人は、たいていは、その人と親しくない限り、自らを印象づけたり支配したいという欲求はほとんどない。ただし、よく知っている人々は、INFPを指向する人のことを、強烈に熱意があり、説得力もあると認識していることが多い。自分の考えと理想が重要なことであると信じているため、あまり他者の注意を引かない傾向がある。そのため、周囲の人は、このタイプの人への貢献を見落としがちのため、実際よりも、本人が自分の価値を低く捉えたり能力不足であると感じることがある。

INFPを指向する人は、しばしば一人ひとりおよび人間関係そのものを洞察することで、何がこの世で重要かを考えることを好む。たくさんを同時に終える傾向がある。一人で自由に動くことを好み、主題と関係するすべてを学ぼうとする。

自分が関心があるものに価値を置いてくれており、そのつどそのつど自分の理想にのっとり対応するということを可能にする職場環境に、最も満足を感じる傾向がある。人々のために重要なことに焦点をあて配慮する人に見られる。

ENFPを指向する人は、ものごとの新しい可能性および新しい方法を常に探し求める熱心な革新者である傾向がある。創造豊かに、新しくプロジェクトを率先してはじめる。

新しいこと、オリジナルなこと、いままでと違うこと、からエネルギーを得るので、自発的な行動を楽しむ。いまあるいは、これから取りかかりはじめる企画に興味を一気に持つことがあるため、それほど刺激的でない他のものを後回しにする傾向がある。

常に多くの可能性を見い出すため、時折、そのなかでも最も大きな可能性を兼ね備えたものだけを選択するのに苦労する。繰り返しやルーチンワークが苦手であるため、本来そのプロジェクトを終わらせるために、詳細に専念する必要がある場合も、そこに自分を適応させることに困難を感じ、すぐにあきてしまいがちである。

人について関心を持っており、言葉になっていないことも含めた他者のニーズや抱負を理解する。ENFPは、容易に自分のひらめきや熱意を他者に伝えるが、ときおりそれが不適切なことがある。ENFPを指向する人は、しばしば、自分が奮い立つのと同様に他者を巻き込み、その上、他者を鼓舞奮起させる。

ENFPを指向する人は、人そのものを歓迎し、革新的でワクワクする可能性に満ちあふれた職場環境に、満足を感じる傾向がある。なにかしら新しいやり方を見出して、人々の問題を解決したり、障壁を克服する人に見られる。

ENFJを指向する人は、たいていは、親しみやすく、気がきき、人に共感しながら、人と人との間に調和があることに高い価値を置く。他者とその人の理想に忠実である。誠実で、忍耐強く、そして気遣うやり方で順序よくものごとをすすめる、納期を守る。

他者の最もよい点を伸ばす。コンフリクトがある場合でさえ、必ず共通なことや調和を見つけることができると信じている。社交的で、他者と話すこと自体を楽しむ。

ビジョンや洞察そして新しい考え方に着目して、人々の潜在する力を引き出したり、成長を支援することを好む。しかし、ときおり、相手自身の成長を促したいと自分が思っているほどに、その相手本人は興味を持っていないことがある。

ものごとを進め終えるために、決まりきったやりかたや確実な方法を好むが、ものごとの詳細にはあまり目が行かず、全体像に焦点をあててものごとにあたる。必要になったときに、詳細に着目し、自分も他者も一貫していることを評価する。

ENFJを指向する人は、人々がその人の潜在する力を発揮することを支援できる職場環境に、満足を感じる傾向がある。配慮されているが整然としたやり方でものごとをやり遂げ、かつ他者の個人的成長および発達を促がす人に見られる。

INTJを指向する人は、たいていの場合、自分の(専門)分野での革新者であることが多い。いろんなものがどのように関係して成り立つのかについて自分の中で見えているビジョンや将来像を信頼して、ひたすら実行に移す。世間一般に人気のあることがらよりも、自分が重要であると信じるものにかかわって時間を費やす。

独立的で人に影響されないため、ときおり、頑固であるとみなされることがある。他者の支援の有無に関係なく、前に進み、ゴールに向けて進めている間はとことん集中する。

複雑で難解な問題を解決するために論理を用いることを好む。日常的なタスクや型どおりのことは、うんざりする。分析しながら、その部分部分を、首尾一貫した全体像に取り入れることを試みる。

基本的には、ものごとを整然とすすめ、やり遂げるが、将来像やビジョンに適合しない詳細な事実を時々見落とすことがある。それらの詳細がとても重要であった場合、想定したどおりにものごとが運ばないことがある。

INTJを指向する人は、自分の洞察と考えを正当に評価し、独立して(一人に任せて)働ける職場環境に、満足を感じる傾向がある。得意(専門)分野においてビジョンをもって、問題の革新的な解決策を講じる人に見られる。

INTPは、たいていの場合、自分も含めものごとを客体と捉えて論理的に分析して、客観的に批評する。潜在しているものごとの興味深い核心を見出し、それに付随する原理原則を発展させることを好む。

実際の状況やかかわっている人たちのことよりも、考えや知識を筋道だてることを好む。自分が興味関心をいだいていることに熱中しているときは、時間を忘れることがよくある。

どちらかというと寡黙な方で控えめである。しかしながら、自分にとって興味深い話題のときだけは、多種多様の仮説や考察を、他者に提示し分かち合おうとする。

変化する環境に適応するために、解決そのものを実行するより、解決策を見つけることを好む。客観的に情に動かされず、淡々と対極となる観点について考え、それらの観点到論理を当てはめてものごとを捉える。

INTPを指向する人は、筋道だっていることに価値をおき、一人で自律的に働くことが許される職場環境で働くことに、満足を感じる傾向がある。自分の考えに従うことを好み、その考えを支持する理論を探究する。状況の核心を捉え、その状況を筋道だてて理解を促進する考えを提供する人に見られる。

ENTPは、ものごとの新しい可能性、異なる考え、および新しい方法を常に求める、熱心な革新者である傾向がある。だれも見出さないパターンをすばやく見つける。創造豊かに、新しくプロジェクトを率先してはじめる。有能である、ということが非常に重要である。

新しいこと、オリジナルなこと、いままでと違うこと、からエネルギーを得るので、自発的な行動を享受する。いまあるこれから取りかかりはじめる企画に興味を一気に持つことがあるため、それほど刺激的でない他のものを後回しにする傾向がある。

常に多くの可能性を見い出すため、時折、そのなかでも最も大きな可能性を兼ね備えたものだけを選択するのに労力を要することがある。繰り返しやルーチンワークが苦手であるため、本来そのプロジェクトを終わらせるために、詳細に専念する必要がある場合、そこに自分を適応させることに困難を感じ、すぐにあきてしまいがちなことがある。すぐに退屈する傾向がある。

ものごとを考えたり、論理的に分析することに興味を持つ傾向がある。問題の賛否両論の立場から語るが、自分が捉えた側面の見解が擁護されない場合は、反対の立場に移る。徹底して議論し尽くすことは、同意に達するよりも重要であると考え。

ENTPを指向する人は、地球(世界)規模の問題に注目し、変化と挑戦に満ちた職場環境に、満足を感じる傾向がある。問題について誰も思いつかないような革新的な解決策を見いだす人として見られる。

ENTJは、たいていの場合、対象から距離を置いて、客観的に分析し、筋道だって批評する。戦略的思考に基づいた長期計画を立案し、その責任を担うことを好む。

計画の目的に達するために、着想に焦点をすえ、前もってものごとを熟慮し、系統だった努力をする。混沌としている状態や非効率なことにいらいらし、それらが目的達成のために邪魔になる問題である場合は、頑固になる。

詳細ではなく、全体像を扱うことを好む。どのように進めるべきかについてすばやく決め、他者には、それに従って進むように導く。

ENTJを指向する人にとって重要なのは、システムと原理原則であり、自分が行うものすべてにその原理原則を適用する。何かを進める際にやり方を変更する場合、いままでとってきたやり方の基本を成しているルールをまず変更する必要がある。筋道だっていることと一貫していることを評価する。

ENTJを指向する人は、先を見据えた計画に価値をおかれ、その決定にも実行にも本人も関与することができる職場環境に満足を感じる傾向がある。ものごとの主導権を握り、確実に遂行する行動力のある人に見られる。

このタイプは、あなたにしっかりきますか？

タイプに関する記述の中で、あなたがじっくりくる部分と、そうでない部分に着目してください。あなたのSTEP IIの回答結果が次に報告されますが、それらが、先のタイプの記述のなかであなたにしっかりこなかった部分がなぜかについて、理解を深める指針となるでしょう。STEP Iの報告タイプがフィットしない場合、あなたのSTEP IIの回答結果は、あなたにとってより適切な、別のタイプを示唆するのを支援するかもしれません。

あなたの回答をもとに算出されたSTEP II™の各ファセットにおける指向の結果

人の性格は、複雑であり、それぞれの相互作用があって成り立っています。STEP IIとは、MBTIの4指標における各指標ごとの5つの異なるファセットとMBTIの4指標との組み合わせから、人の心の複雑さの一部を説明するものです。

<p>外向(E) ↔ (I)内向</p> <p>率先指標 表現指標 社交指標 活動指標 熱心指標</p>	<p>感覺(S) ↔ (N)直観</p> <p>具象指標 現実指標 実践指標 体験指標 伝統指標</p> <p>抽象指標 想像指標 概念指標 理論指標 オリジナル指標</p>
<p>思考(T) ↔ (F)感情</p> <p>論理指標 理性指標 探究指標 批評指標 不屈指標</p> <p>共感指標 同情指標 順応指標 受容指標 中庸指標</p>	<p>判断的態度(J) ↔ (P)知覚的態度</p> <p>システマチック指標 計画指標 事前着手指標 計画完遂指標 秩序指標</p> <p>カジュアル指標 暫定指標 追い込み指標 臨機応変指標 創発指標</p>

<p>外向(E) ↔ (I)内向</p> <p>率先指標 表現指標 社交指標 活動指標 熱心指標</p>	<p>感覺(S) ↔ (N)直観</p> <p>具象指標 現実指標 実践指標 体験指標 伝統指標</p> <p>抽象指標 想像指標 概念指標 理論指標 オリジナル指標</p>
<p>思考(T) ↔ (F)感情</p> <p>論理指標 理性指標 探究指標 批評指標 不屈指標</p> <p>共感指標 同情指標 順応指標 受容指標 中庸指標</p>	<p>判断的態度(J) ↔ (P)知覚的態度</p> <p>システムチック指標 計画指標 事前着手指標 計画完遂指標 秩序指標</p> <p>カジュアル指標 暫定指標 追い込み指標 臨機応変指標 創発指標</p>

<p>外向(E) ↔ (I)内向</p> <p>率先指標 表現指標 社交指標 活動指標 熱心指標</p> <p>受動指標 秘密指標 親密指標 內省指標 靜穩指標</p>	<p>感覺(S) ↔ (N)直観</p> <p>具象指標 現実指標 実践指標 体験指標 伝統指標</p> <p>抽象指標 想像指標 概念指標 理論指標 オリジナル指標</p>
<p>思考(T) ↔ (F)感情</p> <p>論理指標 理性指標 探究指標 批評指標 不屈指標</p> <p>共感指標 同情指標 順応指標 受容指標 中庸指標</p>	<p>判断的態度(J) ↔ (P)知覚的態度</p> <p>システムチック指標 計画指標 事前着手指標 計画完遂指標 秩序指標</p> <p>カジュアル指標 暫定指標 追い込み指標 臨機応変指標 創発指標</p>

<p>外向(E) ↔ (I)内向</p> <p>率先指標 表現指標 社交指標 活動指標 熱心指標</p> <p>受動指標 秘密指標 親密指標 自省指標 靜穩指標</p>	<p>感覺(S) ↔ (N)直観</p> <p>具象指標 現実指標 実践指標 体験指標 伝統指標</p> <p>抽象指標 想像指標 概念指標 理論指標 オリジナル指標</p>
<p>思考(T) ↔ (F)感情</p> <p>論理指標 理性指標 探究指標 批評指標 不屈指標</p> <p>共感指標 同情指標 順応指標 受容指標 中庸指標</p>	<p>判断的態度(J) ↔ (P)知覚的態度</p> <p>システマチック指標 計画指標 事前着手指標 計画完遂指標 秩序指標</p> <p>カジュアル指標 暫定指標 追い込み指標 臨機応変指標 創発指標</p>

<p>外向(E) ↔ (I)内向</p> <p>率先指標 表現指標 社交指標 活動指標 熱心指標</p>	<p>感覺(S) ↔ (N)直観</p> <p>具象指標 現実指標 実践指標 体験指標 伝統指標</p> <p>抽象指標 想像指標 概念指標 理論指標 オリジナル指標</p>
<p>思考(T) ↔ (F)感情</p> <p>論理指標 理性指標 探究指標 批評指標 不屈指標</p> <p>共感指標 同情指標 順応指標 受容指標 中庸指標</p>	<p>判断的態度(J) ↔ (P)知覚的態度</p> <p>システムチック指標 計画指標 事前着手指標 計画完遂指標 秩序指標</p> <p>カジュアル指標 暫定指標 追い込み指標 臨機応変指標 創発指標</p>

<p>外向(E) ↔ (I)内向</p> <p>率先指標 表現指標 社交指標 活動指標 熱心指標</p> <p>受動指標 秘密指標 親密指標 內省指標 靜穩指標</p>	<p>感覺(S) ↔ (N)直観</p> <p>具象指標 現実指標 実践指標 体験指標 伝統指標</p> <p>抽象指標 想像指標 概念指標 理論指標 オリジナル指標</p>
<p>思考(T) ↔ (F)感情</p> <p>論理指標 理性指標 探究指標 批評指標 不屈指標</p> <p>共感指標 同情指標 順応指標 受容指標 中庸指標</p>	<p>判断的態度(J) ↔ (P)知覚的態度</p> <p>システムチック指標 計画指標 事前着手指標 計画完遂指標 秩序指標</p> <p>カジュアル指標 暫定指標 追い込み指標 臨機応変指標 創発指標</p>

<p>外向(E) ↔ (I)内向</p> <p>率先指標 表現指標 社交指標 活動指標 熱心指標</p> <p>受動指標 秘密指標 親密指標 內省指標 靜穩指標</p>	<p>感覺(S) ↔ (N)直観</p> <p>具象指標 現実指標 実践指標 体験指標 伝統指標</p> <p>抽象指標 想像指標 概念指標 理論指標 オリジナル指標</p>
<p>思考(T) ↔ (F)感情</p> <p>論理指標 理性指標 探究指標 批評指標 不屈指標</p> <p>共感指標 同情指標 順応指標 受容指標 中庸指標</p>	<p>判断的態度(J) ↔ (P)知覚的態度</p> <p>システムチック指標 計画指標 事前着手指標 計画完遂指標 秩序指標</p> <p>カジュアル指標 暫定指標 追い込み指標 臨機応変指標 創発指標</p>

<p>外向(E) ↔ (I)内向</p> <p>率先指標 表現指標 社交指標 活動指標 熱心指標</p> <p>受動指標 秘密指標 親密指標 內省指標 靜穩指標</p>	<p>感覺(S) ↔ (N)直観</p> <p>具象指標 現実指標 実践指標 体験指標 伝統指標</p> <p>抽象指標 想像指標 概念指標 理論指標 オリジナル指標</p>
<p>思考(T) ↔ (F)感情</p> <p>論理指標 理性指標 探究指標 批評指標 不屈指標</p> <p>共感指標 同情指標 順応指標 受容指標 中庸指標</p>	<p>判断的態度(J) ↔ (P)知覚的態度</p> <p>システムチック指標 計画指標 事前着手指標 計画完遂指標 秩序指標</p> <p>カジュアル指標 暫定指標 追い込み指標 臨機応変指標 創発指標</p>

<p>外向(E) ↔ (I)内向</p> <p>率先指標 表現指標 社交指標 活動指標 熱心指標</p> <p>受動指標 秘密指標 親密指標 內省指標 靜穩指標</p>	<p>感覺(S) ↔ (N)直観</p> <p>具象指標 現実指標 実践指標 体験指標 伝統指標</p> <p>抽象指標 想像指標 概念指標 理論指標 オリジナル指標</p>
<p>思考(T) ↔ (F)感情</p> <p>論理指標 理性指標 探究指標 批評指標 不屈指標</p> <p>共感指標 同情指標 順応指標 受容指標 中庸指標</p>	<p>判断的態度(J) ↔ (P)知覚的態度</p> <p>システマチック指標 計画指標 事前着手指標 計画完遂指標 秩序指標</p> <p>カジュアル指標 暫定指標 追い込み指標 臨機応変指標 創発指標</p>

<p>外向(E) ↔ (I)内向</p> <p>率先指標 表現指標 社交指標 活動指標 熱心指標</p> <p>受動指標 秘密指標 親密指標 內省指標 靜穩指標</p>	<p>感覺(S) ↔ (N)直観</p> <p>具象指標 現実指標 実践指標 体験指標 伝統指標</p> <p>抽象指標 想像指標 概念指標 理論指標 オリジナル指標</p>
<p>思考(T) ↔ (F)感情</p> <p>論理指標 理性指標 探究指標 批評指標 不屈指標</p> <p>共感指標 同情指標 順応指標 受容指標 中庸指標</p>	<p>判断的態度(J) ↔ (P)知覚的態度</p> <p>システムチック指標 計画指標 事前着手指標 計画完遂指標 秩序指標</p> <p>カジュアル指標 暫定指標 追い込み指標 臨機応変指標 創発指標</p>

<p>外向(E) ↔ (I)内向</p> <p>率先指標 表現指標 社交指標 活動指標 熱心指標</p> <p>受動指標 秘密指標 親密指標 內省指標 靜穩指標</p>	<p>感覺(S) ↔ (N)直観</p> <p>具象指標 現実指標 実践指標 体験指標 伝統指標</p> <p>抽象指標 想像指標 概念指標 理論指標 オリジナル指標</p>
<p>思考(T) ↔ (F)感情</p> <p>論理指標 理性指標 探究指標 批評指標 不屈指標</p> <p>共感指標 同情指標 順応指標 受容指標 中庸指標</p>	<p>判断的態度(J) ↔ (P)知覚的態度</p> <p>システマチック指標 計画指標 事前着手指標 計画完遂指標 秩序指標</p> <p>カジュアル指標 暫定指標 追い込み指標 臨機応変指標 創発指標</p>

<p>外向(E) ↔ (I)内向</p> <p>率先指標 表現指標 社交指標 活動指標 熱心指標</p> <p>受動指標 秘密指標 親密指標 內省指標 靜穩指標</p>	<p>感覺(S) ↔ (N)直観</p> <p>具象指標 現実指標 実践指標 体験指標 伝統指標</p> <p>抽象指標 想像指標 概念指標 理論指標 オリジナル指標</p>
<p>思考(T) ↔ (F)感情</p> <p>論理指標 理性指標 探究指標 批評指標 不屈指標</p> <p>共感指標 同情指標 順応指標 受容指標 中庸指標</p>	<p>判断的態度(J) ↔ (P)知覚的態度</p> <p>システマチック指標 計画指標 事前着手指標 計画完遂指標 秩序指標</p> <p>カジュアル指標 暫定指標 追い込み指標 臨機応変指標 創発指標</p>

<p>外向(E) ↔ (I)内向</p> <p>率先指標 表現指標 社交指標 活動指標 熱心指標</p> <p>受動指標 秘密指標 親密指標 自省指標 靜穩指標</p>	<p>感覺(S) ↔ (N)直観</p> <p>具象指標 現実指標 実践指標 体験指標 伝統指標</p> <p>抽象指標 想像指標 概念指標 理論指標 オリジナル指標</p>
<p>思考(T) ↔ (F)感情</p> <p>論理指標 理性指標 探究指標 批評指標 不屈指標</p> <p>共感指標 同情指標 順応指標 受容指標 中庸指標</p>	<p>判断的態度(J) ↔ (P)知覚的態度</p> <p>システマチック指標 計画指標 事前着手指標 計画完遂指標 秩序指標</p> <p>カジュアル指標 暫定指標 追い込み指標 臨機応変指標 創発指標</p>

<p>外向(E) ↔ (I)内向</p> <p>率先指標 表現指標 社交指標 活動指標 熱心指標</p> <p>受動指標 秘密指標 親密指標 內省指標 靜穩指標</p>	<p>感覺(S) ↔ (N)直観</p> <p>具象指標 現実指標 実践指標 体験指標 伝統指標</p> <p>抽象指標 想像指標 概念指標 理論指標 オリジナル指標</p>
<p>思考(T) ↔ (F)感情</p> <p>論理指標 理性指標 探究指標 批評指標 不屈指標</p> <p>共感指標 同情指標 順応指標 受容指標 中庸指標</p>	<p>判断的態度(J) ↔ (P)知覚的態度</p> <p>システマチック指標 計画指標 事前着手指標 計画完遂指標 秩序指標</p> <p>カジュアル指標 暫定指標 追い込み指標 臨機応変指標 創発指標</p>

<p>外向(E) ↔ (I)内向</p> <p>率先指標 表現指標 社交指標 活動指標 熱心指標</p> <p>受動指標 秘密指標 親密指標 自省指標 靜穩指標</p>	<p>感覺(S) ↔ (N)直観</p> <p>具象指標 現実指標 実践指標 体験指標 伝統指標</p> <p>抽象指標 想像指標 概念指標 理論指標 オリジナル指標</p>
<p>思考(T) ↔ (F)感情</p> <p>論理指標 理性指標 探究指標 批評指標 不屈指標</p> <p>共感指標 同情指標 順応指標 受容指標 中庸指標</p>	<p>判断的態度(J) ↔ (P)知覚的態度</p> <p>システマチック指標 計画指標 事前着手指標 計画完遂指標 秩序指標</p> <p>カジュアル指標 暫定指標 追い込み指標 臨機応変指標 創発指標</p>

<p>外向(E) ↔ (I)内向</p> <p>率先指標 表現指標 社交指標 活動指標 熱心指標</p> <p>受動指標 秘密指標 親密指標 自省指標 靜穩指標</p>	<p>感覺(S) ↔ (N)直観</p> <p>具象指標 現実指標 実践指標 体験指標 伝統指標</p> <p>抽象指標 想像指標 概念指標 理論指標 オリジナル指標</p>
<p>思考(T) ↔ (F)感情</p> <p>論理指標 理性指標 探究指標 批評指標 不屈指標</p> <p>共感指標 同情指標 順応指標 受容指標 中庸指標</p>	<p>判断的態度(J) ↔ (P)知覚的態度</p> <p>システマチック指標 計画指標 事前着手指標 計画完遂指標 秩序指標</p> <p>カジュアル指標 暫定指標 追い込み指標 臨機応変指標 創発指標</p>

あなたの結果を検証する際、下記の内容に留意してください。

- 各々のファセットは、それぞれ対極をなす2つの軸を持っています。多くの場合は、それぞれの指向を組み合わせて生成されるタイプとすべて一致する(インプリファレンス)ファセットのほうを指向することが多い傾向があります。例えば、もし外向を指向するならば「率先指標」、内向を指向するならば、「受動指標」を指向するという具合です。
- しかし特定のファセットについては、全体のタイプ指向と反対の指標を指向(アウトオブプリファレンス)したり、どちらか一方の軸に対する明瞭な指向を示さない(ミッドゾーン)こともあります。
- これらの20のファセットを理解することで、あなた自身のタイプについてよりよく理解できることでしょう。

STEP II™の結果のみかた

以下のページでは、各々のファセット指標について説明しています。また各々のページには、各ファセットに対するあなたの指向をしめしたグラフが描かれています。その棒線は、次のように解釈してください。

- MBTI STEP I (Form M) について簡単な説明
- MBTIのタイプの4つの指標それぞれの5つのファセットの名称と、その概要
- 棒線は、あなたが指向する指標軸の方に描かれるか、もしくはミッドゾーンを示しています。棒の長さは、その指標軸に対するあなたの指向の明確さを示しています。棒線によって、あなたの各ファセットにおける指標がインプリファレンス(あなたの指向と同じ側への2から5のスコアの範囲)なのか、アウトオブプリファレンス(あなたの指向と対極の側への2から5のスコア範囲)なのか、ミッドゾーン(0か1のスコア)なのかわかります。

表の下には、各ファセットの指標ごとのインプリファレンス、アウトオブプリファレンス、あるいはミッドゾーンについて説明があります。もし、その文章を読んで、自分のことが書かれていないような感じがした場合、対極の指標軸もしくはミッドゾーンを指向している可能性もあるので、その場合は対極もしくはミッドゾーンの場合を参照してください。あなたの指向とは対極のファセット軸を理解するために、棒線の上の説明を参照してください。

外向(E)

興味関心が自分の外界や周囲のできごと、ものごと、人々に向く

(I)内向

内的な体験や考えなどに興味関心やエネルギーを向ける

インプリファレンス

ミッドゾーン

アウトオブプリファレンス

	インプリファレンス	ミッドゾーン	アウトオブプリファレンス								
率先指標 率先して関わり、感じがよく、人を自分が紹介することが多い	5	4	3	受動指標 控えめで、受動的で、人から自分が紹介されることが多い							
表現指標 自分の思っていることを表現し、心がオープンで、本心を見せる	5	4	3	秘密指標 落ち着いており、自分の考えは内に秘め、個人的なことはめったに表現しない							
社交指標 人々の集まりや、サークルなどに属することを好む	5	4	3	親密指標 1対1で、関係性を深め、人とじっくり付き合う							
活動指標 活発に対話をし、人との接点を求め、よく聞きよく話す	5	4	3	内省指標 傍観し、ひとやものごとと一定の距離間を保ち、ひとりで本を読んだり、ものを書いたりする							
熱心指標 生き生きとして、エネルギーに満ち、注目を浴びる	5	4	3	静穏指標 もの静かで、一人の時間や孤独を楽しみ、裏舞台にいる							
	5	4	3	2	1	0	1	2	3	4	5

外向(E)

興味関心が自分の外界や周囲のできごと、ものごと、人々に向く

①内向

内的な体験や考えなどに興味関心やエネルギーを向ける

アウトオブプリファレンス

ミッドゾーン

インプリファレンス

	アウトオブプリファレンス	ミッドゾーン	インプリファレンス								
率先指標 率先して関わり、感じがよく、人を自分が紹介することが多い	5	4	3	受動指標 控えめで、受動的で、人から自分が紹介されることが多い							
表現指標 自分の思っていることを表現し、心がオープンで、本心を見せる	5	4	3	秘密指標 落ち着いており、自分の考えは内に秘め、個人的なことはめったに表現しない							
社交指標 人々の集まりや、サークルなどに属することを好む	5	4	3	親密指標 1対1で、関係性を深め、人とじっくり付き合う							
活動指標 活発に対話をし、人との接点を求め、よく聞きよく話す	5	4	3	内省指標 傍観し、ひとやものごとと一定の距離間を保ち、ひとりで本を読んだり、ものを書いたりする							
熱心指標 生き生きとして、エネルギーに満ち、注目を浴びる	5	4	3	静穏指標 もの静かで、一人の時間や孤独を楽しみ、裏舞台にいる							
	5	4	3	2	1	0	1	2	3	4	5

率先指標(インプリファレンス)

- 多数の人と関わる場面で、率先して人と関わったり、人との集まりを計画したり、ファシリテートする。
- その場を自分にとっていごちのよい状況に整え、社交の促進者としてふるまう。
- 人々を紹介したり、ひきあわせたり、社交の場すなわち人間関係の構築場面で不可欠なこの行為を自ら務める。
- 興味や関心ごとが共通するであろう人を喜んで引きあわせる。
- 人々が語り合い、互いに知り合うことを純粹にのぞむ。

率先-受動 (ミッドゾーン)

- 多数の人と関わる社交の場面では、自分が既に知っている人がいた場合はその人々と率先して会話を交わしたり関わるか、必要に応じて場に率先して関わることもある。
- よく慣れている社交の場であればくつろげるが、大人数の集まりではくつろげない。
- 人々を引き合わせる必要があり、他にする人がいない場合は、喜んで双方を紹介する。

受動指標(アウトオブプリファレンス)

- 大人数の集いではなく、少人数の集まりを好む。
- 社交的というより、どちらかという控えめに見られる。
- 親しい人と出会ったり、交流することを、居心地悪く感じる。
- 大きなパーティでは、人との出会いや交流を求めて歩き回ったりせず、数人の人にだけ焦点を当てて関わる傾向がある。
- 他者が互いに紹介しあう状態にしておくほうが心地よい。

受動指標(インプリファレンス)

- 人間関係の構築をするために率先して関わることはあまり重要でないとらえているため、どちらかというと、そういう行為は自分ではなくほかの人がすることであると考えている。
- とりとめのない会話を好まず、自分にとって関心がある重要な問題について語り合うことを望む。
- 他者からは、もの静かで人見知りをする人であると見られることがある。
- 場をとりもつために、人々を励ましたり、ほめることはでしゃばりな行為であると思い、他者があなたにそうすることも望まない。
- 電話がかかってくると、中断されたと感じる。
- 電話、特に社交的な電話をしなければならない場合、物理的にひとりになろうとする。

率先-受動(ミッドゾーン)

- 多数の人と関わる社交の場面では、自分が既に知っている人がいた場合はその人々と率先して会話を交わしたり関わるか、必要に応じて場に率先して関わることもある。
- よく慣れている社交の場であればくつろげるが、大人数の集まりではくつろげない。
- 人々を引き合わせる必要があり、他にする人がいない場合は、喜んで双方を紹介する。

率先指標(アウトオブプリファレンス)

- 状況が求めてきた場合、率先して場をまわす役割を果たす。
- 社交の場では、他の人を安心させたり、互いに安心させたり、自分が安心することに、焦点をあてる。
- あなたが興味深いと思った人がいた場合や少人数の集まりでは、率先して関わることは心地よい。
- その集団の人たち全員を知っているときは、場をリードする。

表現指標(インプリファレンス)

- たくさんしゃべる!
- 自分の気持ちや、他者に対する興味を気軽に表現する。
- 周囲からは陽気で、とっつきやすく、ユーモアがあると見られる。
- 人見知りをしない。
- ときどき、自分が話しすぎているのではないか、あるいは相手を当惑させることをやってしまったのではないかと、話した後に思うことがある。

表現-秘密(ミッドゾーン)

- 多くのことについて快活に臆せず話すので、他者からは容易に人を信頼しやすいと見られる。
- ひとに純粹なる興味をもつが、自分のことを話すときは、相手を選ぶ。
- 個人的なことはめったに他の人に話さないで、周囲の人は、あなたの個人的な考えおよび気持ちを耳にすることはめったにない。
- 本当は知らないのに、他者があなたのことを良く知っているような印象を与える。

秘密指標(アウトオブプリファレンス)

- よっぽどでない限り、親しい人々とさえ、個人的なことは話さない。
- 個人的なことについて触れない、あるいは触れられないため、社交的に振舞う。
- 個人的なことについて話すのは、居心地悪く感じる。
- 本当に何か貢献できる場合以外、多くは語ったり話すことはしない。

秘密指標(インプリファレンス)

- 自分の関心ごとや興味を自ら話さないで、話したときには一斉に周りが注目する。
- ほとんどのことを自分の中で処理するため、他者からは、近寄りがたくみえたり、知り合うことが難しいと思われる。
- あなたは、自分の周囲の人が、あなたの考えに関心がないと思っている。
- 問題を自分ひとりで解決することができると考えており、また実際にそうすることを好む。
- 特にとっても大変だったり苦しんでいるとき、何があなたを動転させているのかについて人と話すことは困難を極める。

表現-秘密(ミッドゾーン)

- あなたのことを十分に知ってから、心地よいと思った後でだけ、個人的なことを明らかにする。
- よく知っている人々とだけ、自分の考えや気持ちについて話をしたり、語り合ったりする。
- たいていの場合、個人的な考えおよび気持ちを表現しないため、周囲の人々は、あなたが何を考えているのかわかりにくいと思っている。
- ただし、自分がよく知っている話題であれば、自分の考えを雄弁に語る。

表現指標(アウトオブプリファレンス)

- よくしゃべるので、周囲からは控えめというより、社交的であると思われる。
- エネルギッシュで熱心な人だと思われる。
- たいていの場合、本当に親しい友だちとは、自分のなかにある深い思いについて話す。
- 安心と感じる場合のみ、よく知らない人とでも話をする。
- 親しい人には対しては自分と同じくらい、個人的な気持ちや考えを表現してくれることを期待する。
- 自分の質問や疑問に対する答えを聞こうと熱心なときは、その場の会話を支配しようとしたり、リードしようとしているようにみられる。

社交指標(インプリファレンス)

- 他の人と共にいることを楽しみ、一人でいることは退屈で、好まない。
- 見知らぬ人であっても友達であっても、同じように社交的にかかわる。
- 友達と知人とをあまり区別しない。
- お互い関わりがあることに喜びを見出す集まりに参画する。
- 人気があることや、他者から受け容れられることが重要である。
- 実際にはあまり興味がないことでも、その活動に参加するように頼まれたい。
- 知人が大勢いる。

社交-親密(ミッドゾーン)

- そのときどきで、大勢の集まりが心地よいときもあれば、
一対一の会話が心地よいときもある。
- 状況によって、見知らぬ人と話すのが気楽と思うときと、
そうでないときがある。
- 周囲からは、そのときどきで、社交的だったり、控えめだっ
たりという印象を与える。
- 親密な関係を、多く持つことは望んでいない。
- あまり深い関わりではない人間関係は、ほどほどに快適
に感じる。

親密指標(アウトオブプリファレンス)

- 一対一での会話や、少人数の集まりを好む。
- 大勢の人数の集まりの中で親密な会話をするを好むが、他の人の話を静かに聞き続けることも好む。
- 自分にとって大切な人とだけ、自分のなかにある、とても深い考えや気持ちを共有したい。
- 親密になりたいというあなたの望みに対して無関心な人には、否定的な反応をする。

親密指標(インプリファレンス)

- 大勢というより、限られた人とだけいたい。
- 友人と知人とを、はっきりと区別する。
- 深い絆があると確信できるような一対一の深い関係性を求める。
- 他者の個性を尊重し、自分もそれと同じように尊重されることを望む。
- 相手を心のそこから信用できてから、はじめて自分の個人的なことを分かち合う。

社交-親密(ミッドゾーン)

- そのときどきで、大勢の集まりが心地よいときもあれば、
■ 周囲からは、そのときどきで、社交的だったり、控えめだ
対一の会話が心地よいときもある。 ったりという印象を与える。
- 状況によって、見知らぬ人と話すのが気楽と思うときと、
■ 親密な関係を、多く持つことは望んでいない。
そうでないときがある。

社交指標(アウトオブプリファレンス)

- 大勢の集まりの中で、話をするのは、心地よい。
- 集団とすることで、エネルギーをもらえる。
- 社交の集まり後に、ひとりであることを好むことがある。
- 社交の場面では、1つの長く深い会話を一人とすることにとどまるのではなく、多くの人々と短い会話を交わす。

活動指標(インプリファレンス)

- 遠巻きにみているより、活発に人の集まりのなかに参加することを好む。
- 読むことや書くことによってよりも、実際に人に質問をし、聞き、実行することで学ぶ。
- 対面または電話などの音声のやりとりによるコミュニケーションすることを好む。
- 書いて伝えるよりも、実際に話して伝えることを好む。

内省指標(アウトオブプリファレンス)

- できごとなどを自分のなかで改めて回想することを楽しむ。
- 貪欲にかつ頻繁にもものを書いたり、本を読んだりする。
- あなたが読んだり書いたりしたものについて、ひとりひとりとでも、あるいは大人数のグループと話し合ったり意見を交換することを楽しむ。
- 周囲からは考えることに興味をもっている人にみえる。

内省指標(インプリファレンス)

- 外界に活発に参加するより、遠巻きに観察したり、あとで回想することを好む。
- 読むことによってよりよく学習する。
- 話されたことよりも、書かれている資料のほうに、より集中する。
- その場その場の雰囲気を読んでプレゼンテーションをするのではなく、事前にシナリオを書き留めておく。

活動内省(ミッドゾーン)

- 個人的なことについては会話で、それ以外のことは、書いてやり取りする。
- 新しい課題を学習するときには、実際に話を聞いて学ぶことを好む。
- 状況によって、そこで起きていることに気楽に参加することもあれば、遠巻きに観察するほうが気楽なときもある。
- ある程度精通していることの場合には、読むことによってさらに学習することを好む。

活動指標(アウトオブプリファレンス)

- どちらかという遠巻きにみているよりは、積極的にそこでおきていることに参加するほうを好む。
- 口頭で情報が提示される場合のほうが、情報をよりよく吸収する。
- どちらかというものごとについて考えたいときに、書いて考えるよりも、人と対話して考えることを好む。
- 読む本は、厳選するほうである。

熱心指標(インプリファレンス)

- 動きがあったり、その場が活性化している場所にいることを好む。
- 多くの場合、人から注目されるような言動をとる。
- たいていの場合、ウィットとユーモアを示しながら会話する。
- 人生は、刺激的であると感じている。
- 他者を巻き込む。
- 活動の場面がないと退屈し、沈黙は居心地が悪いため、自らかあるいは他者を促して、その場が活性化することを試みる。

熱心-静穏(ミッドゾーン)

- 関わる人たちや話されている話題に精通している場合は、すぐにその話題に熱中するが、そうでなければ、その場の「背景」にとどまる。
- 静かな環境でいたいか、あるいは活動している環境にいたいかは、その日の状況でかなり違う。
- 周囲の人は、あなたが活動的である場合と、静かである場合のどちらかだけを見ているため、あなたについて異なる印象を持っている。

静穏指標(アウトオブプリファレンス)

- 長時間静かにいられる場所を求める。
- 大勢の人数の集まりの際には、「背景」でいたい。
- ある程度の静かな時間と自分だけの時間がとても重要である。
- 過剰または過小表現することはめったにないので、一貫しているようにみえる。
- ざわざわするなどの周囲の音が雑音に聞こえ、当惑する。

静穏指標(インプリファレンス)

- 落ち着いていることや静寂、そして沈黙も好む。
- 騒々しい状況や場所は落ち着かない。
- 必要ときだけ自分のことを表現し、あとは「背景」にいることを好む。
- 社交的な場面で、自ら会話をする必要を感じない。
- あなたが貢献したことは容易に見落とされやすい。
- グループの雰囲気を穏やかで静かなものにする。
- 静かな人と一緒にいることを好む。

熱心指標(アウトオブプリファレンス)

- 多くの場合、人から注目されるような言動をとる。
- あまりにも静かな場合は、刺激を突然自ら求める。
- ひとりの時間を長く過ごし過ぎないようにしている。
- あなたが精通していることについて共有する場合、熱心になり、自分もそれによって活気づけられる。
- 自分の専門分野では周囲の注目の的であることを好む。
- なじみのある人々といるときは、話し好きになり、ウィットに富む。

感覚(S)

五感を通じて知覚できることに焦点をおく

(N)直観

ものごとのパターンや関連性に焦点をおく

インプリファレンス

ミッドゾーン

アウトオブプリファレンス

具象指標 正確な事実、文字通り、観察可能	5 4 3 2 1					0	1 2 3 4 5					抽象指標 比喩、象徴的なこと、漠としたこと
現実指標 分別があり、事実に即して、効率を求める	5 4 3 2 1					0	1 2 3 4 5					想像指標 機略に富む、独創的な、斬新さを求める
実践指標 実際のな、結果を重んじ、応用する	5 4 3 2 1					0	1 2 3 4 5					概念指標 学術的な、理論ベースの考え、知的な
体験指標 実践的な、経験主義で、経験を信頼する	5 4 3 2 1					0	1 2 3 4 5					理論指標 パターンをみいだし、仮説を考え、理論を信頼する
伝統指標 しきたりや慣例や、実証ずみのことを信頼する	5 4 3 2 1					0	1 2 3 4 5					オリジナル指標 しきたりにとらわれない、他とは異なり、同じでない

感覚(S)

五感を通じて知覚できることに焦点をおく

(N)直観

ものごとのパターンや関連性に焦点をおく

アウトオブプリファレンス

ミッドゾーン

インプリファレンス

具象指標 正確な事実、文字通り、観察可能	5	4	3	2	1	0	1	2	3	4	5	抽象指標 比喩、象徴的なこと、漠としたこと
現実指標 分別があり、事実に基づいて、効率を求める	5	4	3	2	1	0	1	2	3	4	5	想像指標 機略に富む、独創的な、斬新さを求める
実践指標 実際のな、結果を重んじ、応用する	5	4	3	2	1	0	1	2	3	4	5	概念指標 学術的な、理論ベースの考え、知的な
体験指標 実践的な、経験主義で、経験を信頼する	5	4	3	2	1	0	1	2	3	4	5	理論指標 パターンをみだし、仮説を考え、理論を信頼する
伝統指標 しきたりや慣例や、実証ずみのことを信頼する	5	4	3	2	1	0	1	2	3	4	5	オリジナル指標 しきたりにとらわれない、他とは異なり、同じでない

具象指標(インプリファレンス)

- 事実に基づき、事実を信頼する。
- 事態を文字通りに解釈する。
- 推論したり仮説をたてることに対して、用心深い。
- なにかの傾向を見出したり、事実と事実の間の関連をつなげて、より大きな構図に結びつけるのは、困難に感じる。
- あなたが熟知していることと、確かであると思うことからやり始め、必要な事実をすべて集めてから動き始める。
- あなた自身はそうは思っていないくとも、周囲からは、「変化する」ことに対して抵抗感を強く持っていると思われる。

具象-抽象(ミッドゾーン)

- 事実の確認からまずは始めるが、そのあと、それらの意味を見出していく。
- 詳細を知ることが好むが、多少虫食いの状態であっても、先に進む。
- 自分が安心するための一定の事実を必要とする。
- プレッシャー下にある場合は、事実や現実に行き詰まり、より大きな文脈を見出だすのが困難となる。

抽象指標(アウトオブプリファレンス)

- 事実の意味や含意を探究する。
- 仮想したり空想して意味を考えることで、リラックスする。
- 入念に詳細に着目して情報をあつめるが、ときどきそれを退屈であると感じる。
- ときどき事実を過剰に解釈し、見つけたと思った意味が、後でそうではなかったと判明することがしばしばある。

抽象指標(インプリファレンス)

- 言外の意味を読み取り、文脈でとらえることを好む。
- 自分の考えを表現するために、たとえ話として、よく比喻を用いる。
- 文脈や関係することがらの関連との相互作用から見出せることが重要であると考え。
- ブレーンストーミングのような、本題から跳躍すること自体を楽しむ。
- あなたの確信がある考えの、実際的な証拠を特定するのは困難なことがある。
- あなたのなかで、つながったりひらめいた事柄から離れるには、労力を要する。

具象-抽象(ミッドゾーン)

- 抽象的観念から出発し、それを支援するために事実データを確認する。
- 意味を見出す前に、その仮説の基になる事実を知ろうとする。
- プレッシャー下にある場合は、事実や現実に行き詰まり、より大きな文脈を見出だすのが困難となる。
- 詳細を知ろうとするが、実際にそれらを使用することはない。

具象指標(アウトオブプリファレンス)

- 実際に起きている現実と、総括的な展望との間の焦点を、適宜移しながらものごとをみている。
- わずかの事実にはしか基づかない仮説をたてる傾向がある。
- あなたが「これだ!」とおもったことが何であれ、それを手放すには困難を伴うことが多い。もしこのとらえ方が習慣になっているなら、他の人とは、まったく異なったもの見方をしている可能性が高い。
- どの事実情報が適切かについて、他の人と一致しないことが多い。

現実指標(インプリファレンス)

- 現実的に状況を査定するための能力と常識的な見方に自信がある。
- 実際の効果と実際性および費用対効果に着目する。
- 実際に体験したことや、実際に確かめられることに価値を置く。
- 正しく確かなやり方が、良い結果に結びつくと確信している。
- 周囲からは実際的な人であると見られる。

現実-想像(ミッドゾーン)

- 新しいものの見方や考え、あるいは方法を探索し、かつ見つけることを好む。
- あなたの考えが実際に機能するか、あるいはその限界についてを確認するため、行動にすばやく移す。
- あまりに実際からかけ離れたものや、探究に長期間かかるような事柄に巻き込まれるのを、注意深く避ける。
- あらゆる状況において常識的な観点とのつながりを保つ。

想像指標(アウトオブプリファレンス)

- 自分にとって重要な特定の問題においては、あなたの創意と資源を応用することは好む。
- 概して想像することそれ自体を楽しむことはない。
- 具体的な事実および経験に基づいているが、独特あるいは独自の想像を発展させることがある。

想像指標(インプリファレンス)

- 創意すること、それ自体を好む。
- 革新的かつ斬新で異なることを体験することを好む。
- いままでないこと、日常的でないことへの対処において、資源が豊富である。
- 同じやり方で二度行うことは、めったにない。
- 将来必要なものの構想がひらめき、戦略的に計画立てる。
- ニュアンスに基づいたユーモアと、ことば遊びを楽しむ。

現実指標(アウトオブプリファレンス)

- 常識を尊重し、実際に用いる。
- 周囲の人からは、実際的で効果的な人だとみられることが多い。
- ものごとを頭の中で分解したり、それをまた組み直してみることをよくする。

実践指標(インプリファレンス)

- アイデアの適用が、アイデア自体より興味深いと思っている。
- アイデア自体を理解するために、実際にそのアイデアを適用する必要がある。
- 実際的な使用がまだみえていないアイデアだけを聞くことに辛抱できない。
- 知的な探究心よりも、実際的なことをより好む。

実践-概念(ミッドゾーン)

- 実際主義的な部分と将来への探究指向が混ざり合っている。
- アイデアそのものと、それらの実践との間を交錯するのを楽しむ。
- 新しいアイデアを見出したり、その意味を突き止める。
- あなたのなかで浮かんだ最も良い考えが、実際に使用されるのをみてはじめて満足する。

概念指標(アウトオブプリファレンス)

- 本を読んだり、思索したりして、アイデアの世界を探索すること自体を楽しむ。
- その問題について書かれているものを見つけることから、問題を研究する。
- 実践者であるよりも、学術的なキャリアに惹きつけられる。
- 事実から、概念的な枠組みを構築する。
- 抽象概念を実際のものとするために、事実と実例を必要とする。
- 他者のアイデアを、精製したり発展させることを好む。

概念指標(インプリファレンス)

- 人から学ぶことと自分で考えることの両方の役割を楽しむ。
- 新しい知識を得ること、それ自体を好む。
- ものごとを自分特有の巧みなどらえかた、すなわち精神的な妙技のようなことに、価値をおく。
- 概念の適用ではなく、概念そのものに注目する。
- まずは発想することから始める。
- あなたの考えの実用性は後づけのことが多い。

実践指標(アウトオブプリファレンス)

- 実際のやり方において、革新的である傾向がある。
- 知識だけ得ることには、比較的無関心である。
- 周囲の人も、また自らも、あなたを「知的である」とみていないことが多い。
- アイデアについてただ考えるよりも、実際に有用なアイデアをどちらかという好む。

体験指標(インプリファレンス)

- 直接の体験からもっともよく学び、それを頼りにする。
- 自分の体験を過度に一般化しないように注意を払う。
- 未来よりも、過去と現在により焦点を当てる。
- 意味や仮説を考えることより、今起こっていることに専念する。
- ときどき、より大きな仮説を除外し、事実と詳細で行き詰まることもある。

体験理論(ミッドゾーン)

- あなたにとって重要なものを説明する理論だけにはある程度の興味をもつ。
- 理論や仮説だけを深く探究することはめったにない。
- 注目したことを説明するものとしてその事実の関連性をとらえるが、それらのパターンが実際にどう機能するかのほうにより関心がある。

理論指標(アウトオブプリファレンス)

- 色々な世界のどの部分がどのように互いに関係するのかを知りたい。
- 理論的な説明に惹きつけられることが多い。
- ものごとの詳細の中にあるパターンを見つけ、それらを結びつけるやり方を考えることを好む。
- 理論それ自体ではなく、いかにそれが実際的に有用でありうるかに関心を持つ。

理論指標(インプリファレンス)

- 理論や関連性が見出された仮説を信頼し、それ自体が現実を持っていると確信する。
- 実際に確かめられないものを取り扱うことを楽しむ。
- 自分のなかにあるすでに”古い”理論を適用することよりも、より新しい理論を考え出すことを好む。
- ほとんどすべてのものを、パターンか、理論的な概念でとらえている。
- 未来志向である。

体験指標(アウトオブプリファレンス)

- いま実際に機能しているのであれば、そのままに保つことを好む。
- それ自体を体験するまでは、全体像をとらえた見方を現実のものと考えない。
- 理論が実際に機能するのを見ることを楽しむ。
- 他者の活動をあなたの体験に含ませることを好む。

伝統指標(インプリファレンス)

- なじみのあるものは、あたりまえのこととして自然と受け入れる。
- 従うべき先例を提供する、有効性が実証済みのものを快適と感じる。
- 確立している組織や機関、また方法に価値をおき、支持する。
- すでにうまくいっているものを変更したいとめったに思わない。
- 仕事においても家庭においても、伝統的なことに喜んで参加する。

伝統-オリジナル(ミッドゾーン)

- 確立して証明された方法に従うことを快適と感じる。
- 機能していない方法や手順については変更することを強く望む。
- 家庭や仕事における伝統的な活動のすべてではないが、いくつかは価値を置いて参加する。
- 従来のアプローチを好むが、ときに自ら楽しんで革新的なものを考慮することがある。
- あなたが大事にしてきた伝統に対する価値観と矛盾しない場合のみ、斬新さを楽しむ。

オリジナル指標(アウトオブプリファレンス)

- よりよくなり得ること、新しくなり得ること、あるいは異なることを探究する。
- 個人的で異なっていることを好むが、本筋や常識からあまり離れることはしない。
- しばしばクリエイティブで実際的の両方であると見られる。
- 新しく異なる方向へ向かうことで、時々他の人を驚かせるかもしれない。

オリジナル指標(インプリファレンス)

- 人と違うこと、オリジナルであること、ユニークであることに高い価値を置く。
- 自分自身の独自の見方や個性を示す必要を感じる。
- 巧妙であることや誰も発見したことがないことを見出すことに価値を置く。
- インストラクションなどの説明書や指示文章を読んで正確におこなうより、自分の方法を考え出しておこなうことを好む。
- うまく機能していてもいなくても、常にそれを変えたい衝動がある。

伝統・オリジナル(ミッドゾーン)

- それがオリジナリティに対するあなたの価値観と矛盾しない場合には、確立して証明された方法に従うことをいとわない。
- 機能がいない方法や手順については変更することを強く望む。
- 家庭および職場の伝統的な活動に価値をおく。
- どちらかという革新的なアプローチを好むが、伝統的なアプローチも喜んで考慮に入れる。
- それが斬新である必要がなければ、伝統を楽しむ。

伝統指標(アウトオブプリファレンス)

- 一般的に指示されていることを尊重し、周囲に溶け込む。
- 事態がどのようにして行われるかの詳細ではなく、全体像に着目する。
- 自分のことに注意が注がれすぎるのを避ける。
- 伝統的だが独自のやり方も加えて、国民の祝日や家族のイベントを祝うことを好む。

思考(T)

ものごとを客体としてとらえ、論理的な分析に基づいて結論を導き出す

(F)感情

人々の調和に焦点をあて、個人的かつ社会的な価値観に基づいて結論を導き出す

インプリファレンス

ミッドゾーン

アウトオブプリファレンス

論理指標 個人的ではなく、公正を求め、客観的に分析する					共感指標 個人的で、和を求め、思いや価値観を大切にする						
理性指標 真実を追究し、因果関係、原理原則を適用する					同情指標 如才なく、同情的で、情に厚い						
探究指標 精密で、挑戦的で、議論をつくす					順応指標 認め、愛想がよく、和を求める						
批評指標 懐疑的、証拠を求め、批評する					受容指標 寛容な、信頼する、人をほめる						
不屈指標 強固で、ゆるがない、完結することに重きを置く					中庸指標 やわらかい心もち、心優しく、中庸が大切						
	5	4	3	2	1	0	1	2	3	4	5

論理指標(インプリファレンス)

- 論理的な分析による意思決定が最良であると考
えている。
- 一貫した結論に達するために、前提と定義された規定と
共に、理にかなう推論をも用いる。
- 決定するために、確かなデータを使用する。
- 原因と結果に焦点を当てて考える。
- 問題と問題との間に、明確な境界を引いて考えることを
好む。
- ある問題について、賛否両論の立場を瞬時に識別する。

論理-共感(ミッドゾーン)

- 理想的な意思決定は、常に人々の気持ちを考慮し、論理的にどのような結果をもたらすのかという観点で考慮することで可能となると、考えている。
- 感情に流されないアプローチを尊重するが、極端に論理的なのは好まない。
- 周囲の人からは、あなたは、論理的で冷たいようにもみえなければ、人の気持ちに過剰に加担するようにもみえない。
- 分析的な考えと私的な考えの間で、右往左往することがある。

共感指標(アウトオブプリファレンス)

- 他人の心無い言葉のように思える言動や、無関心さに、傷つきやすい。
- 他者を支援したり温かく接することに喜びを感じ、同じことを相手にも求める。
- 対立していたり、難しい人間関係を回避する。

共感指標(インプリファレンス)

- その判断が、あなたや他者にとって大切なことがらにどんな影響を及ぼすかに注目する。
- その問題に対する自分と他者の気持ちを特定する「こつ」を得ている。
- 人が集まったときに、その人間関係の全体的なムードに敏感である。
- 状況を、自分の価値に照らし合わせてとらえることが、意思決定には最良の方法だと考えている。
- 状況におけるポジティブおよびネガティブな気持ちを推し量って、それを根拠に決める。

論理指標(アウトオブプリファレンス)

- 狙い通りの精密度の高さと正当さに価値をおく。
- しばしば論理の用い方を誤ることがある。
- 周囲からは、合理的に筋道を通った人として見られる。
- 決める際に、賛成と反対の両方を探す。

理性指標(インプリファレンス)

- 推論を用いて決定する。
- 自分とは距離を置いたみかたで公平な観察者として、状況にアプローチする。
- なんのために考えているのかについての目的と決定プロセスに、一点の曇りもないことが多い。
- 前提を機軸とした論理的な結論に至るように、日々の生活を送る。
- 自分を取り巻く状況を含め、あらゆる状況を客観的に分析的に見る。

理性・同情(ミッドゾーン)

- 他者に対する配慮および、状況が理にかなうかどうかについて、両方に基づいて決定する。
- しばしば、優柔不断のように周囲に映ることがある。
- 客観的な基準を用いて決めることが、あなたにとって重要な誰かを傷つける可能性がある場合、常に動揺を覚える。

同情指標(アウトオブプリファレンス)

- あなた自身や他者の気持ちが、状況の理屈より、より重要であると考えている。
- 論理的にポイントが他の方向に向いているときでも、感情に気づき、その感情によって揺るがされる。
- 客観的なもののみかたと当事者としてのもののみかたの間で引き裂かれるように感じ、たいていは感情とともに決める。
- 周囲からは、一貫性のない予測不能な人に見えることがある。

同情指標(インプリファレンス)

- 何かを決めるときに信頼できる根拠として、自分の価値観を信じる。
- 自分自身と他人との気持ちや価値観とのつながりをもと
うとする。
- あなたの好き嫌いという気持ちは、判断に影響する。
- 関係のある人たちの利益および害に基づいて、当事者として決める。

理性指標(アウトオブプリファレンス)

- 人々に対する配慮および状況の理屈の両方に基づいてものごとを決める。
- あなたの、最優先すべき責任が、公平でかつ一貫していることであると信じている。
- 明確かつ論理的に、あなたの結論を支持できることを好む。
- 重要な決定を下す際に、緊張を体験することがよくある。

探究指標(インプリファレンス)

- 自分なりの論理思考が確立しており、知的に独立している。
- 自分の考えを明確にするために質問する。
- 不一致に注目し、それに対して正確に質問する必要があると感じる。
- 結論を受け入れる前に、すべての質問が答えられている必要がある。
- 自分が必要とする答えを得られるまで質問する。
- すでに正しいと了解していることに対しても、あえて質問することは適切であると考えている。

探究-順応(ミッドゾーン)

- 自分が個人的に関心のある分野についてのみ質問する。
- 戦闘モードでもなく、融和的でもないスタイルで質問し、不一致を埋める。
- 他者が質問する機会を終えるまで、自分の質問を留めておく。
- 自分にとって大切な価値観が脅かされる場合、突然戦闘モードとなり、対立的かつ直接的な歯に衣着せぬ言い方になる。

順応指標(アウトオブプリファレンス)

- 重要な解決を見出すことを遂行するための最良の方法として、和解的なアプローチを採用する。
- たいていの場合は、他者の考えを特に疑問を持ったりせず、そのまま受け入れる。
- 周囲から、敵とみなされることはめったにない。
- 個人的にちょっとした興味のあることに関して、他の人と同意しない場合も、それをあえて表には出さない傾向がある。
- あなたにとって重要な誰かに便宜をはかるために、はたから見ると不合理な振る舞いであっても支援する。

順応指標(インプリファレンス)

- コンセンサスを得るために、他者の意見をまず受け入れ、賛同する。
- 互いの歩み寄りと一体感に価値をおく。
- 自分の輪の中に人々を入れ、みんなが同じ思いであることを望む。
- 慎み深く、謙虚であるという印象を与える。
- 質問すること自体を、批判を唱えコンフリクトを促進することと同様であると考えている。
- 自分のなかでとても強く感じるものがあるときには、質問をするが最小限にとどめておく。
- みんなが一致しているところを強調したり、あるいはいったん水に流して、双方の対立や違いをできるだけ排除しようとする。

探究-順応(ミッドゾーン)

- 他者が質問する機会を終えるまで、自分の質問を留めておく。
- 聞きたいことだけ聞ければよいので、温和に要領よく質問する。
- 戦闘モードでもなく、融和的でもないスタイルで質問し、不一致を埋める。
- 自分にとって大切な価値観が脅かされる場合、突然戦闘モードとなり、対立的かつ直接的な歯に衣着せぬ言い方になる。

探究指標(アウトオブプリファレンス)

- 人々やそれぞれの価値観の周辺に対する質問に焦点を当てる。
- 人の気持ちを引き出すためにあえて質問することがある。
- その問題に強い関心がなくエネルギーを注いでいない場合は、穏やかに質問をする。
- たいてい如才なく対応するが、懐疑的になると戦闘モードになり、率直になる。
- あなたの質問が、しばしば論争的であるものとして誤って解釈されることがある。
- 知的好奇心があり、独立しているとみられる。

批評指標(インプリファレンス)

- 論争的かつ懐疑的である。
- 周囲の人からは、あなたとのやり取りの中に、気持ちが見えなと思われている。
- ものごとを、あたりまえのこととしてとらえ、気持ち的に譲歩することはあまりない。
- この世は不完全であることが前提のため、間違っていることを明確にすることを好む。
- ものごとを客体的にとらえ論評することを好むため、他者がその批評を正当なものや有効なものとは認めないときには、驚きを感じる。
- あなたがよい状態にいるときは、批判ではなく批評に徹する。

批評受容(ミッドゾーン)

- 論理的に選択された考えと行動だけを批評する。
- その状況において何が正しくて何が間違っているかを明確にする。
- 議論における矛盾点や欠点をすばやく見出す。
- 状況によって、批評を口にしたりしなかったりする。

受容指標(アウトオブプリファレンス)

- さまざまな考えおよびアプローチを歓迎する。
- 周囲からは、あなたの自分の考えを押し付けずに、すべて等しく受け入れるように見える。
- 一緒に遂行する参加型マネジメントスタイルを好む。
- 自分の考えを謙虚に受け止めるため、他者に促進したいと思わない。
- 何でも受け入れ、公平で、親しみやすい雰囲気があるが、周囲の人からは、あなたが実際にどう思っているかに関してわからないため、混乱していることが多い。

受容指標(インプリファレンス)

- 人々と状況の、うまくいっているところや良いところに注目する。
- 人をほめたり、許したり、人に親切にすることを好む。
- 他者もあなたに親切に応答することを期待する。
- WIN-WIN(双方にとって有利)である状況は、通常は可能であると考えている。
- WIN-WIN(双方にとって有利)である状況が生じないときに、非常に失望を感じる。

批評受容(ミッドゾーン)

- 特に決めたことが人々に影響する場合のみ、批評する考
えと行動を選択する。
- 人々を傷つける食い違いや矛盾に敏感である。
- 状況についてなにが正しくてなにが間違っているのかを
明確にする。
- 状況によって、批評を表明する場合としない場合がある。

批評指標(アウトオブプリファレンス)

- 自分にとって重要な領域に対しては、間違っていることは断固指摘する。
- ときどき、無作法で、要領が悪いと見なされることがある。
- あなた自身、またはあなたの考えが批評されると、憤慨する。
- 周囲からは、過度に感じやすく傷つきやすいと見られる。

不屈指標(インプリファレンス)

- 自分の意思を貫くために、知的な論争と人間関係上のプレッシャーの両方を用いる。
- 必要であろうと定めた目的達成のために、ひたむきになる。
- 代案が存在しないか、あるいは別の考えは機能しないと確信していることがよくある。
- 最低限やらねばならない結果を出すことを重要視する。
- 人々の気持ちに注意をあまり払わないため、冷たい人と見られがちである。

不屈-中庸(ミッドゾーン)

- 結果と人の情緒的な問題を、分けてとらえる。
- 他者を行動するように仕向ける。
- 初めは他者と同意点を見出しながら決めていくアプローチをとるが、必要に応じて、揺るがなくなる。
- あなたに近い人たちにはとても忠実で、力を尽くす。

中庸指標(アウトオブプリファレンス)

- その人たちが傷つける決定があった場合、彼らがどのように反応するかに関心に向け配慮する。
- 相手への影響力を発揮するために、温和なアプローチで説得したり、あたたかく受け入れながら他者と関わることを好む。
- 「正しい」やりかたで、他者の気持ちを扱うことを望む。
- あなたが他者より強い立場にいる場合でさえも、その人々を利用することは不公平であるとする。

中庸指標(インプリファレンス)

- 周囲の人から好意を持たれること、あなたが温かい人であるとみられることを望む。
- あなたの目的を達成するために、温和と愛情をふんだんにつかう。
- 合意に達するために、ありとあらゆる方法を考慮する。
- 必ずしも、つねに純粋に道理をわきまえた決定を達成することができるとは限らないことを認識している。
- 疑問点を良いほうに解釈し、他者に利益をもたらす。
- 皆が気持ち的に納得することや心地よい、と感じる結果を望む。

不屈-中庸(ミッドゾーン)

- 人々の情緒的な問題と潜在的な問題の両方を、考慮に入れる。
- 乗り気でない人の背中を押して、行動に向かわせることが多い。
- まずは接点を見出しながら和解的アプローチをしますが、あなたにとって重要な問題になると自分の考えを貫き通すようになる。
- あなたに近い人たちにはとても忠実で、力を尽くす。

不屈指標(アウトオブプリファレンス)

- 必要などときには揺るがなくなるが、そうでなければならぬことに関して、居心地が悪いと感じる。
- 自分の行動が妥当か妥当でないかに関する判断を、口に率直に出して示す。
- 他者に対立したりコンフリクトが生じると、防衛的で頑強になる。
- ときどき、押しが強くなりすぎ、攻撃的であるとみなされることがある。
- 反証が存在する場合にさえも、あなたが出した結論を変更することに抵抗を示すことがある。

判断的態度(J)

ものごとを決めたり、終わることを好む

(P)知覚的態度

その場その場にあわせて対応する柔軟な状態を好む

インプリファレンス

ミッドゾーン

アウトオブプリファレンス

	インプリファレンス	ミッドゾーン	アウトオブプリファレンス	
システムチック指標 秩序だった、枠組みを設ける、突然の変化を好まない				カジュアル指標 リラックスした、おろらかな、変化の連続を好む
計画指標 これからのことに焦点をおき、事前に計画立てをし、計画通りにすすめる				暫定指標 その場その場にあわせ、流れに沿って進み、柔軟な計画を立てる
事前着手指標 自制をこのみ、一貫してすすめ、ぎりぎりになって進めることは不快				追い込み指標 ぎりぎりになると一気にやる気が出る、ラストスパートに賭ける、前倒しですすめるのは気がすすまない
計画完遂指標 ルーチン化させ、課題のリストを作成し、段取りを組む				臨機応変指標 つねに変化を求め、予期せぬことを楽しみ、段取りどおりにならないほうがドライブがかかる
秩序指標 具体的な課題を計画し、付随的な課題を書きとめ、整頓する				創発指標 突発的に突然やる気や方法が出現し、すぐさまその状態に適応する
	5 4 3 2 1	0	1 2 3 4 5	

判断的態度(J)

ものごとを決めたり、終わることを好む

(P)知覚的態度

その場その場にあわせて対応する柔軟な状態を好む

アウトオブプリファレンス

ミッドゾーン

インプリファレンス

	アウトオブプリファレンス	ミッドゾーン	インプリファレンス	
システムチック指標 秩序だった、枠組みを設ける、突然の変化を好まない	5	4	3	カジュアル指標 リラックスした、おおらかな、変化の連続を好む
計画指標 これからのことに焦点をおき、事前に計画立てをし、計画通りにすすめる	5	4	3	暫定指標 その場その場にあわせ、流れに沿って進み、柔軟な計画を立てる
事前着手指標 自制をこのみ、一貫してすすめ、ぎりぎりになって進めることは不快	5	4	3	追い込み指標 ぎりぎりになると一気にやる気が出る、ラストスパートに賭ける、前倒しですすめるのは気がすすまない
計画完遂指標 ルーチン化させ、課題のリストを作成し、段取りを組む	5	4	3	臨機応変指標 つねに変化を求め、予期せぬことを楽しみ、段取りどおりにならないほうがドライブがかかる
秩序指標 具体的な課題を計画し、付随的な課題を書きとめ、整頓する	5	4	3	創発指標 突発的に突然やる気や方法が出現し、すぐさまその状態に適応する

システムチェック指標(インプリファレンス)

- 常に事前準備を(備えあれば憂いなし)というモットーで生活をする。
- 偶発的な事態の最悪のシナリオを想定して、計画を立てる。
- 結果を効率よくさせるように、ちょっとやそっとでは、土台が壊れないような構造をつくったうえで仕事を完遂させる。
- あらゆる類のわき道にそれる変更を好ましく思わない。
- 驚きを歓迎しない。

システムチック-カジュアル(ミッドゾーン)

- まずはいくつかの偶発的な事態を想定した大雑把な計画をたてる。
- 細かいことまで計画に入れすぎて身動きが取れないことがある。
- すべきことが決まっていないときは、中断されても気にならない。
- なにかに取り組んでいるときに、それを中断されるような関わられ方は好まない。
- 自分の計画にいつでも戻れる状態にしておくために事前に計画をしておく、途中わき道にそれること自体も心地よく許せることがある。

カジュアル指標(アウトオブプリファレンス)

- リラックスしていて、格式ばらない人にうつる。
- 急がされない状態であれば、毎日が快適である。
- 変化に適合しなければならないことを、ひとつの挑戦として楽しむ。
- 格式ばらない風土や雰囲気を好む。
- 仕事のプレッシャーがない場合は、中断されることは気にならない。
- あなたのそのときの状況に合わせてながら対応するアプローチによって生じた遅れを補うために、喜んでスケジュールをタイトにする傾向がある。

カジュアル指標(インプリファレンス)

- 想定外のことや突然の事態を来るがままに受け止めることでチャージされる。
- 自由なペースや、ものごとや状況をそのままにしておくことを好む。
- 細かい情報がたくさんはいったいくつもの計画を一度にもつこと自体を好まない。
- すこしだけ格式ばっているが、全体的には自由でオープンな雰囲気職場環境を好む。
- 完成に移る前に、しばしば、新たな多くの情報を集め始めることがある。

システムチェック指標(アウトオブプリファレンス)

- 仕事を完遂させるために、体系だった手順をふむ。
- 興味のある仕事に集中しているときは、中断を好まない。
- 必要な時には、予期される緊急事態も考慮した計画を展開する。
- 仕事に着手するまでは抵抗感があるが、いったん仕事を始めるとわき道にそれず粘り強く終わらせる。

計画指標(インプリファレンス)

- 特に余暇の計画やあそびの計画は、長期計画を立てることを好む。
- 先を見通して、将来の計画を立てることを楽しむ。
- 実際にすることよりも、計画すること自体を楽しむ。
- 長期の計画を立てることによって、無駄がなく、あなたの想定内でことがすすむであろうということが明確になる。

計画-暫定(ミッドゾーン)

- 仕事では計画を立てておこなうことを好み、家では柔軟であることを好むか、その逆を好む。
- いまここを楽しむことと、将来の計画を立てることの間を、行ったり来たりする。
- すべてではなく、いくつか自分にとって重要な個人的目標のために計画を立てる。

暫定指標(アウトオブプリファレンス)

- 特に余暇の時間やあそびについては、長期計画自体をたてると、それに拘束されたと感じる。
- 想定外のことにに関して、冒険に遭遇したような感覚を持つ。
- 決めたことが多すぎる状態や遊びや社交の計画も可能な限り最小限にしておきたいほうだ。
- 予期せぬことがおきることをチャンスととらえる。

暫定指標(インプリファレンス)

- 特にあなたの余暇や休日のすごしかたは、そのときどきの気分にあわせて計画をすることを好む。
- 計画は、たいていの場合、「魔術的」に突然そうあるべき形に収まると考えている。
- 選択を最後まで残しておけるような柔軟な状態を好む。
- そのほかの選択肢をそのときにとれなくなるため、拘束力のある約束をしてしまったあとに後悔することが多い。
- 長期の計画を立てるよりも、将来についてあれこれ想像をめぐらすほうが楽しい。

計画指標(アウトオブプリファレンス)

- 計画の大枠はあるが、それを達成するための特定の方法論まで準備していないことがある。
- ひとつひとつの計画をつめていくことはしないが、全体的な計画をしておくことは好む。
- 特に余暇や遊びの計画はしておくことが多い。
- 計画することでつながる先の可能性を楽しむ。
- 方向を決めるために計画はするが、計画の遂行は柔軟にする。

事前着手指標(インプリファレンス)

- 納期の前に終わるように、十分な時間の設定をあらかじめしておく。
- 多くの納期に圧倒される感じが居心地が悪い。
- 最後の最後にばたばたとあせることがないように、あらゆる状況を整えておく。
- いくつかの仕事を、一度ではなく、それぞれ別々にスタートさせ、各々のタスク自体には、集中し短い時間に区切って進める。
- まだ未完成だったり未着手なことが常に気になってしまうため、何かが終わられると、おだやかで満たされたように感じる。

事前着手-追い込み(ミッドゾーン)

- 納期よりもあまりにも前もって始めることはドライブがかからない。
- 締め切りが迫ってくると、おのずとドライブがかかる。
- 締め切りが、適度なプレッシャーを引き起こすのに十分なくらい、接近している場合に、もっとも集中する。
- なにかを始めると、それに伴って計画ができあがる時が多い。

追い込み指標(アウトオブプリファレンス)

- 平穏無事な状態を退屈と感じる。
- 納期を守るストレスをやや楽しむ傾向がある。
- いくつかのことを同時に快適にすすめることで生じる種々の挑戦の多様性を好む。
- 自分の体系だてる力が有効に働くと判断した場合のみ、多数のタスクを一度に管理することに喜びを感じる。

追い込み指標(インプリファレンス)

- 時間的なプレッシャーが、あなた自身を追いやり、より力を発揮する助けとなることが多い。
- 何もしていないと退屈し、ばたばたしているほうが生き生きする。
- 1つのものから他へとすばやく移り、いくつものタスクをお手玉の曲芸をするように操ることを楽しむ。
- 締め切り間近のプレッシャーが創造性をもたらすと感じ、突然仕上げて周囲に驚かれると満足感が増す。
- たとえリストに書き留められていなくとも、なにもしていないわけではなく、自分の心が割り当てたそれぞれのタスクをあたためていることが多い。
- 納期に間に合うため、実際にどこまで開始を遅らせることができるかについて知る必要がある。
- このアプローチで成功するためには、絶妙なタイミングと実際に終える能力とスキルが必要であることを痛感している。

事前着手-追い込み(ミッドゾーン)

- 納期よりもあまりにも前もって始めることはドライブがかからない。
- 締め切りが迫ってくると、おのずとドライブがかかる。
- 締め切りが、適度なプレッシャーを引き起こすのに十分なくらい、接近している場合に集中する。
- ものごとに着手する際には、頭の中にはすでに計画があることが多い。

事前着手指標(アウトオブプリファレンス)

- 遂行するために効率的であわてないアプローチをとることに価値をおく。
- 外部に気がそれるのを回避するために、着手していることに集中できるようにあらかじめ整えておく。
- しばしば目標を達成することができるのかどうか心配になる。
- 多種多様なことに興味が引かれ、効率的に完遂させたいという欲求との間でコンフリクトをしばしば体験する。

事前着手指標(アウトオブプリファレンス)

- 遂行するために効率的であわてないアプローチをとることに価値をおく。
- 外部に気がそれるのを回避するために、着手していることに集中できるようにあらかじめ整えておく。
- しばしば目標を達成することができるのかどうか心配になる。
- 多種多様なことに興味を引かれ、効率的に完遂させたいという欲求との間でコンフリクトをしばしば体験する。
- 納期間近のストレスを回避しようとする事自体が自分のなかですっとフラストレーションとなっていることが多い。

事前着手指標(アウトオブプリファレンス)

- 遂行するために効率的であわてないアプローチをとることに価値をおく。
- 外部に気がそれるのを回避するために、着手していることに集中できるようにあらかじめ整えておく。
- しばしば目標を達成することができるのかどうか心配になる。
- 多種多様なことに興味が引かれ、効率的に完遂させたいという欲求との間でコンフリクトをしばしば体験する。
- あなたの時間がよりよく活用できる場合に限り、あらかじめ計画をすることを楽しむ。

事前着手指標(アウトオブプリファレンス)

- 遂行するために効率的であわてないアプローチをとることに価値をおく。
- 外部に気がそれるのを回避するために、着手していることに集中できるようにあらかじめ整えておく。
- しばしば目標を達成することができるのかどうか心配になる。
- 多種多様なことに興味がかかれ、効率的に完遂させたいという欲求との間でコンフリクトをしばしば体験する。
- 長期的な計画をたてることで、あなたの時間をよりよく活用できる場合は、すすんで計画を立てる。

事前着手指標(アウトオブプリファレンス)

- 遂行するために効率的であわてないアプローチをとることに価値をおく。
- 外部に気がそれるのを回避するために、着手していることに集中できるようにあらかじめ整えておく。
- しばしば目標を達成することができるのかどうか心配になる。
- 多種多様なことに興味が行かれ、効率的に完遂させたいという欲求との間でコンフリクトをしばしば体験する。
- スケジュールにそってすすめることで、あなたの時間をよりよく使える場合は、喜んでスケジュールどおりに事を運ぶ。

事前着手指標(アウトオブプリファレンス)

- 遂行するために効率的であわてないアプローチをとることに価値をおく。
- 外部に気がそれるのを回避するために、着手していることに集中できるようにあらかじめ整えておく。
- しばしば目標を達成することができるのかどうか心配になる。
- 多種多様なことに興味が行かれ、効率的に完遂させたいという欲求との間でコンフリクトをしばしば体験する。
- 一定の手順を踏み進めていくことで、あなたの時間をよりよく使えるときは、そうすることに労力は感じない。

事前着手指標(アウトオブプリファレンス)

- 遂行するために効率的であわてないアプローチをとることに価値をおく。
- 外部に気がそれるのを回避するために、着手していることに集中できるようにあらかじめ整えておく。
- しばしば目標を達成することができるのかどうか心配になる。
- 多種多様なことに興味を引かれ、効率的に完遂させたいという欲求との間でコンフリクトをしばしば体験する。
- 体系だったかつ長期的な計画を立てることで、あなたの時間がよりよく使える場合は、そうすること自体に労力を感じない。

事前着手指標(アウトオブプリファレンス)

- 遂行するために効率的であわてないアプローチをとることに価値をおく。
- 外部に気がそれるのを回避するために、着手していることに集中できるようにあらかじめ整えておく。
- しばしば目標を達成することができるのかどうか心配になる。
- 多種多様なことに興味が引かれ、効率的に完遂させたいという欲求との間でコンフリクトをしばしば体験する。
- 体系だった計画およびスケジュールにそって行動することで、あなたの時間をよりよく使える場合、そうする。

事前着手指標(アウトオブプリファレンス)

- 遂行するために効率的であわてないアプローチをとることに価値をおく。
- 外部に気がそれるのを回避するために、着手していることに集中できるようにあらかじめ整えておく。
- しばしば目標を達成することができるのかどうか心配になる。
- 多種多様なことに興味が引かれ、効率的に完遂させたいという欲求との間でコンフリクトをしばしば体験する。
- 系統的な計画および順序正しいアプローチに対して、あなたの指向を用いることで、あなたの時間のよりよい使用に結びつくと気づきます。

事前着手指標(アウトオブプリファレンス)

- 遂行するために効率的であわてないアプローチをとることに価値をおく。
- 外部に気がそれるのを回避するために、着手していることに集中できるようにあらかじめ整えておく。
- しばしば目標を達成することができるのかどうか心配になる。
- 多種多様なことに興味が行かれ、効率的に完遂させたいという欲求との間でコンフリクトをしばしば体験する。
- 長期の計画およびスケジュールにそった行動をすることで、あなたの時間をよりよく使える場合は、そうする。

事前着手指標(アウトオブプリファレンス)

- 遂行するために効率的であわてないアプローチをとることに価値をおく。
- 外部に気がそれるのを回避するために、着手していることに集中できるようにあらかじめ整えておく。
- しばしば目標を達成することができるのかどうか心配になる。
- 多種多様なことに興味が引かれ、効率的に完遂させたいという欲求との間でコンフリクトをしばしば体験する。
- 長期計画および一定の手順に則り行動することで、あなたの時間をよりよく使える場合はそうする。

事前着手指標(アウトオブプリファレンス)

- 遂行するために効率的であわてないアプローチをとることに価値をおく。
- 外部に気がそれるのを回避するために、着手していることに集中できるようにあらかじめ整えておく。
- しばしば目標を達成することができるのかどうか心配になる。
- 多種多様なことに興味が引かれ、効率的に完遂させたいという欲求との間でコンフリクトをしばしば体験する。
- スケジュールにそって一定の手順ののっとして行動することで、あなたの時間がよりよく使える場合は、そうする。

計画完遂指標(インプリファレンス)

- ものがごとがルーチンになること自体が心地よく、それをあえて変更させようとは思わない。
- すでに確立された方法と手順をふむことを好む。
- どのように時間を過ごすか自分自身のコントロール下にある状態を好む。
- 仕事であっても、プライベートであっても、計画を立てること自体を楽しむ。
- 周囲の人のほうが、あなた自身よりも、あなたの一定の枠組みの中でもなごをすすめるやりかたや日々の過ごし方に反応することが多い。
- 他者にとって、あなたは、行動が予測可能な人に見えるが、そう見えること自体をあなたが望んでいる。

計画完遂-臨機応変(ミッドゾーン)

- 日常生活の中の一部であれば、ルーチンになること自体を歓迎する。
- ルーチンになることで、予測可能なことが増え、機会をあれ選択することができる自由を得られると考えている。
- 仕事場面では、ルーチンにするもののメリットも多いが、プライベートでは、ルーチン自体が制限であると感じているか、その逆を感じていることが多い。

臨機応変指標(アウトオブプリファレンス)

- まだ計画されていないことや、変更することに対して、臨機応変な姿勢をとる。
- 仕事から遊び、遊びから仕事に、抵抗感なくモードをかえて対応する。
- すばやく、おもしろそうな機会を捉えて反応する。
- 同じことの繰り返しになることを回避し、毎回異なるやり方であることを好む。
- 臨機応変に対応しているが、最後まで状況に合わせて続けると苦痛となるため、最終的には収束することを望む。

臨機応変指標(インプリファレンス)

- 新しいことや経験に対して開かれており、その自由を楽しむ。
- 臨機応変に動くことが出来ると、もっとも心地よく動け、働ける。
- ルーチンは不快であり、制約と捉えている。
- ルーチンは、あなたの予期しない機会に反応する力の障害になると考えている。
- あなたの突発事項に対して瞬発的に生まれる創造性をあらかじめ予定にいれるのは不可能であると感じる。

計画完遂指標(アウトオブプリファレンス)

- 進行状況から逸脱しないために、システム手帳のようなある類のシステムを頼りにする。
- 沢山のタスクを一度にスケジュールに入れる傾向がある。
- To Do Listをつくり実行するのは、状況をコントロール下においておくため。
- 周囲からは、一定の枠組みにそってものごとを進め、実行する人として見られがちである。
- 変更可能な予定を立てることを好む。

秩序指標(インプリファレンス)

- タスクの詳細な計画をその場で立てる。
- 作業に取り掛かる手順を決めるのと同時に、本作業の付随的なことから、発生する順番で決定する。
- 目的を確実に完遂するために必要とされる手順を決め、正確に遂行できるように徹底的に準備をする。
- 前もって行った準備どおりに、ほとんどの場合変更をしないで決めたゴールを達成することが多い。

秩序-創発(ミッドゾーン)

- 新しい分野や仕事および状況においては、あらかじめ計画を詳細に立てることを好む。
- 自分に確信のある分野や仕事、および状況下では、計画をあえて立てないほうが快適である。
- 実際に進む前に、大枠だけ整っていれば、すべての手順が整っている必要はない。
- 流れに身を任せるか、最低ラインのところだけは事前に計画をするかは、状況による。

創発指標(アウトオブプリファレンス)

- ものごとの詳細ではなく全面的なゴールに注目する。
- 組織だって考えを伝えるので、周囲の人は、あなたが徹底的に準備をしたと考えることが多い。
- そのときがきたら、何をなすべきか確信している。
- 何が正しいのかはその時点ではわからないことがあっても、それを査定しながら、しかし実際にわかるであろうと確信して、先に進む。

創発指標(インプリファレンス)

- 体系だった方法ではなく、そのときの状況や気分にあった方法をそのつとどるほうが心地よい。
- 詳細な計画がない状態で、ものごとに着手することが多い。
- どちらにも転べるやり方をするので、議論の途中で、良いと思ったほうに簡単に切り替えられる。
- あなたがどこから始めるかは、状況がおのずと決めるものと思っている。
- 様子を見て、何が起るかを見て、そしてそのときがきたらいつでも「飛び立つ」ことができる。

秩序-創発(ミッドゾーン)

- 新しいことや未体験の分野では、詳細にわたった計画をあらかじめ立てることを好む。
- 自分に確信のある分野や仕事、および状況下では、計画をあえて立てないほうが快適である。
- 実際に進む前に、大枠だけ整っていれば、すべての手順が整っている必要はない。
- 他者からは、変更に対しては柔軟に見られる。

秩序指標(アウトオブプリファレンス)

- 詳細にわたった手順を検討することに価値をおいて計画だてるが、すべての詳細を網羅して計画することに困難を感じる。
- 戦略的に計画を達成する手順を決める。
- 一度焦点が定まると、それを達成するために必要なタスクと、手順を前もって準備して、行動に移す。
- 結果を出すことに効率的な手順をとることは、あなたの自由時間が最大限になると考えている。

STEP II™の結果を、日常のコミュニケーションに活用するための指針

あなたのタイプが、特にチームのメンバーの一員として考えたときの、あなたのコミュニケーションスタイルにどのように影響するのかについて次に説明します。ファセットのうち9つは、特にコミュニケーションスタイルに関連しています。それらの9つのファセットにおけるあなたの指向と、それらを生かしたよりよいコミュニケーションのためのヒントを次に説明します。

表に述べられているヒントは、次のことについて書かれています。

- あなたが他者に対してどんな情報を求めているのか。
- 他者がどんな情報をあなたから必要としているのか。
- 自分とは異なるタイプのコミュニケーションスタイルが、その場の会話を支配しているときに、あなたがどのようにいらいらしているか。
- それらがわかると、他者がその人のコミュニケーションスタイルを使用するときに、あなたをいらだたせようとしたり何か他意があるわけではないことがわかり、相手が何をいわんとしているか、その指針を得られるでしょう。

あなたの
ファセット結果

コミュニケーションスタイル

よりよいコミュニケーションのヒント

率先指標	人々が互いに知り合うことを支援するため、率先して機会をつくり会話を促進する。	お互いが本当に双方に紹介を必要としているかあるいは望んでいるかということをまずは確かめること。
------	--	---

率先 - 受動 ミッドゾーン	他の誰もそうしていなければ、人々を引きあわせ、互いが知り合う機会を率先してつくる。	率先すべきか、もうすこし待つべきかについては、状況をよく査定すると良い。
----------------	---	--------------------------------------

受動指標	人々を紹介するという社会的期待をするのではなく、自分自身のそのときのタスクに焦点が あたる。	しばしば、お互いが知り合っている場合のほうが、その タスクがもっと上手に行われることがあるということに着目 すると良い。
------	---	--

表現指標	聞いてくれる人がいたら、自分の心の中にあることを躊躇なく伝える。	心の中にあることで言わないほうが大切なときがあることを認識し、そのときはあえて言わない努力を。
------	----------------------------------	---

表現 - 秘密 ミッドゾーン	自分の心のなかにあることを、他者に部分的に話をすることがあるが、全部を伝えることはめったにない。	あなたの反応を知りたい人とそうでない人の区別をすること。
----------------	--	------------------------------

秘密指標	あなたが心の中で思っていることや、情緒的なことはほとんど他者に伝えない。	あなたがどのように感じているか、本当は伝える必要がある場合があることを認識し、そのときにはあえて伝える努力を。
------	--------------------------------------	---

活動指標	実際に人と会って、顔を見て話す、すなわち対話することを好む。	実際に会って話すというスタイルが、人によってあるいは時には、侵入された感じを与えるケースがあったり、実際には必要な場合があることを認識すると良い。
------	--------------------------------	---

活動-内省ミッドゾーン	人との対話が心地よいときもあるし、あるいは、対話せずに観察側に回っているのが心地よいときもあり、それはすべて状況による。	対話する相手のスタイルに注意を払い、自分の状況やスタイルで決めるのではなく、相手のスタイルに合わせて良い。
-------------	--	---

内省指標	実際に話すより、読んだり、書いたりすることによるコミュニケーションのほうがちゃんと伝わる感じがしている。	あなたが実際に自分の傾向がある。出してそれを言わない限り、誰にも何も伝わらないことがあることを認識すると良い。
------	--	---

熱心指標	その場の話題にすぐに入り込み、興味があるという熱意を示して関わる。	自分の熱意ある会話スタイルが、時に一方的になり、他者を圧倒したり、あるいは他者を無視するように写る危険があることを認識して、話し続けるのではなく、相手に質問をしたり、間をおくなりして、相手の反応の確認を忘れないように。
------	-----------------------------------	---

熱心-静穏ミッドゾーン	その話題への興味によって、突然熱意を見せたり、突然興味がうせたりする。	状況によって異なる反応を見せるあなたに、周囲が困惑していることがあることを認識すると良い。
-------------	-------------------------------------	---

静穏指標	あなたは、たとえとても強い興味関心を持っていても、その思いを他者にあえて示すことはめったにない。	他者からは、あなたはすべてに無関心であるように映ることがあり、そうするとどのように接してよいか周囲がわからないため、特に強い興味を感じていることがらについては、あえて伝える努力を。
------	--	--

具象指標	いまここでおきていることに関する詳細をそのまま話す。	あなたが話す詳細をつなげて文脈を読み取る人がいることに着目して、特に意図することはなく伝えていることを伝えることが有効な時があることを認識すること。
------	----------------------------	--

具象-抽象ミッドゾーン	事実と詳細だけではなく、それらの意味やつながりをあわせて話す。	いつ詳細に注目し、いつ文脈や意味に着目して伝えるのが効果的かについてはその場の状況判断をする努力を。
-------------	---------------------------------	--

抽象指標	いまここでおきている事柄そのものではなく、そこから推論できることを話す。	推論に飛びついてしまう前に、あなたが無視しているかもしれない重要な事実があるかもしれないということに対して、常に気をつけること。
------	--------------------------------------	--

探究指標	まず質問する。	やたら質問すると、他者は詰問されていると感じ、相手があなたに対して構えてしまうことがあるので、効果的な質問をいくつかだけ厳選してたずねる努力を。
------	---------	--

探究 順応ミッドゾーン	そこに関わっている人たちの同意を妨げない 限りにおいては、質問を沢山する。	いつ同意する必要があるか、いつ質問をする必要があるかを、 注意深く査定する努力を。
-------------	--	--

順応指標	他者とまずはあわせ、一致点を見つけ、調和を保つ。	周囲からは、あなたが本当の意見を隠していたり、意見を持っていないと見られることがあるので、どこかのタイミングで、あなたが実際に気にかけていることが何かは伝える努力を。
------	--------------------------	---

批評指標	まずは疑う視点をもって、批評的な姿勢を取る。	他者は、あなたの率直な批評を個人的な批判と受け取る可能性が高いので、それはあなたの意図でないことを伝える努力を。
------	------------------------	--

批評 - 受容 ミッドゾーン	問題の重要性によって、真っ向批評したり、全部受け容れたりする。	ストレスがかかると、不適切にやたら批判することが多くなるので、自分の言動に気をつけられたい。
----------------	---------------------------------	--

受容指標	たいていのことは、それもあると感じ、受け入れる。	あなたが、どちらかの視点をもたないことが、他者にとっていらいらを募らせるきっかけとなることに気をつけられたい。
------	--------------------------	---

不屈指標	「やるべきことをやるべきである」と迷わず毅然として突き進む。	迷わず前進するあなたのやり方が、ときおり状況にそぐわないこともあることを認識をすると良い。
------	--------------------------------	---

不屈-中庸 ミッドゾーン	状況によって、毅然としたスタンスを取ったり、おだやかなスタンスを取ったりする。	ストレスがかかると、とにもかくにも、「毅然とした」態度に偏重する傾向があるので、気をつけられたい。
--------------	---	---

中庸指標	他者の意見のほうをまずは尊重する。	現実問題、win-winの状況を常に作れるわけではないことを受け入れ、それによって誰かが傷つくことも受け入れる努力を。
------	-------------------	---

秩序指標	ものごとに着手する前に、手順と順序を決める。	なにも決めずに、状況に合わせてものごとを進めたい人もいることを、受け入れる努力を。
------	------------------------	---

秩序-創発ミッドゾーン	状況によって、ものすごい詳細な手順を与えることもあれば、まったく与えないこともある。	ものごとがうまくすすむためにも、他者がどこに焦点をおいて動く必要があるかについての手順だけは、毎回特定する努力を。
-------------	--	---

創発指標	いまとりかかっていることが終わらないときに、突然次にすべきことを話したり、伝えたりする。	順を追ってことを進めたい人がいることを受け入れる努力を。
------	--	------------------------------

あなたのSTEP II™の結果を、効果的な意思決定に活用するための指針

効果的な決定をするためには、様々な展望からの情報を集め、その情報を評価する適切な方法を用いることが必要です。STEP IIのファセットは、特に、感覚、直観、思考および感情機能と関係するファセットは、意思決定の向上の指針を与えてくれます。下記に、各ファセットを機能させるための質問が記されています。あなたが指向するファセットは、**太字になっています**。もしあなたの結果がミッドゾーンの場合のみ、どちらも太字になっていません。

<p>感覺機能</p>	<p>直観機能</p>
<p>思考機能</p>	<p>感情機能</p>

具象指標 具体的情報は何か？それを知った経緯は？

具象指標 具体的情報は何か?それを知った経緯は?

現実指標 実際かかる費用やコストは何か？

現実指標 実際かかる費用やコストは何か？

実践指標 それは実際に機能するのか？

実践指標 それは実際に機能するのか？

体験指標 どう機能するのか、詳しく説明を。

体験指標 どう機能するのか、詳しく説明を。

伝統指標 本当に変える必要があることは何か？

伝統指標 本当に変える必要があることは何か？

抽象指標 他に何を意味しているのか？

抽象指標 他に何を意味しているのか？

想像指標 他に考えられることは何か？

想像指標 他に考えられることは何か？

概念指標 他にどんなことが導き出されるか？

概念指標 他にどんなことが導き出されるか？

理論指標 すべてに関連する事柄は何か？

理論指標 すべてに関連する事柄は何か？

オリジナル指標 新しいやり方はないか？

オリジナル指標 新しいやり方はないか？

論理指標 メリットとデメリットは何か？

論理指標 メリットとデメリットは何か？

理性指標 論理的に考えた答えは何か？

理性指標 論理的に考えた答えは何か？

探究指標 それだけでは不十分ではないか？

探究指標 それだけでは不十分ではないか？

批評指標 間違っていることは何か？

批評指標 間違っていることは何か？

不屈指標 一貫して行ってこなかったことは何か？

不屈指標 一貫して行ってこなかったことは何か？

共感指標 好きなもの、嫌いなものは何か？

共感指標 好きなもの、嫌いなものは何か？

同情指標 関係する一人ひとりにどのような影響をもたらすのか？

同情指標 関係する一人ひとりにどのような影響をもたらすのか？

順応指標 どうしたら皆の気持ちが落ち着いて満足するか？

順応指標 どうしたら皆の気持ちが落ち着いて満足するか？

受容指標 何が有益か？

受容指標 何が有益か？

中庸指標 傷つくであろう人たちへの対応は？

中庸指標 傷つくであろう人たちへの対応は？

意思決定スタイルと呼ばれる情報を評価するための、異なる6つの方法が、思考と感情のディコトミーの2つのファセットに基づいて、特定されてきました。論理指標-共感指標 と 理性指標 - 同情指標

あなたは、論理的かつ合理的な意思決定スタイルを持ちます。
このスタイルは、

- 思考機能で決めたことに信頼をおき、論理的に分析したことに基づいて、意思決定する。
- あなたの決定が、関わる人たちや実際の人間関係に関して影響を及ぼすことについても配慮するが、二次的な問題として取り扱う傾向がある。
- 客観的に見てよりよい決定を適切に行うことに焦点をあてる。
- 周囲からは、しばしば正確で、客観的で、自信があると見られる。
- ときどき、柔軟性に欠けるとみられることもある。

あなたは、共感的かつ同情的な意思決定スタイルを持ちます。
このスタイルは、

- 感情機能で決めたことに信頼をおき、自分の思いや価値観に基づいて、意思決定する。
- 論理的な原因と結果の要因も考慮に入れるが、それは二次的なこととして捉える傾向がある。
- 自分の決定が、調和を生み出したり、維持することを大切にする。
- 周囲からは、しばしば人の気持ちに敏感で気が利くと思われる。
- ときどき、過度に親切で気を遣いすぎるとみられることがある。

あなたは、論理的で同情的な意思決定スタイルを持ちます。
このスタイルは、

- みんなの同意を得るために、一生懸命になる。
- 周囲からは、しばしば、柔軟で他者に気を遣うが、自分に自信があり、効率的で確信を持っている人に見られる。
- ときどき、予測不能な人に映ることがある。
- あなたが他者に共感して出した結論が、あなたが最初にとらえた論理的な結論を揺るがしたときに、後悔することが多い。

あなたは、同情的かつ論理的な意思決定スタイルを持ちます。
このスタイルは、

- あなたの価値観に基づいて決定すること好むが、実際の決定は論理的な分析から得られた結論を用いる。
- ひとりひとりの利益を、組織や機関などより大きな原理と対抗せざるをえない決め事に関して、緊張を経験し、苦悶する。
- 意思決定において、しばしば、自分の動機に疑問を感じるが多い。
- 影響を受ける人のことが気になり、あなたの論理的決定の調節を試みるが多い。

あなたは、思考機能がベースとなった、すべてのファセットの
指標においてミッドゾーンであった意思決定スタイルを持ちます。
このスタイルは、

- 決定する際に、思考機能と感情機能の両方の観点から、判断をしようとする。
- 状況によって、どちらか一方の視点を選択して決める。
- 自分の意思決定を振り返ったときに良かったものとして思い出すことのほうが多いが、しばしば自分の意思決定そのものやその決定の経緯を後悔することがある。
- あいまいな状況下において、自分や他者の価値観や気持ちに基づいて、意思決定をすることが一番心地よい。

あなたは、感情機能をベースに持った、すべてのファセットにおいてミッドゾーンの意思決定スタイルを持ちます。
このスタイルは、

- 決定する際に、思考機能と感情機能の両方の観点から、判断をしようとする。
- 自分の意思決定を振り返ったときに良かったものとして思い出すことのほうが多いが、しばしば自分の意思決定そのものやその決定の経緯を後悔することがある。
- 自分の意思決定を振り返ったときに良かったものとして思い出すこともあるが、しばしば自分の意思決定そのものやその決定の経緯を後悔することがある。
- あいまいな状況下において、自分や他者の価値観や気持ちに基づいて、意思決定をすることが一番心地よい。

ヒント

あなたの個人的な問題を解決する際に、上記のボックスの中の質問を順番にすることからはじめてみてください。

- 特に、太字で記されていないところが意識的にしない限り自分のなかで考慮しない観点であるため、それらの観点をあえていれることで、より良い解決策を見出す鍵となります。
- 多数の人間が関わる場面での問題解決の仕方について、できるだけ積極的に異なる視点を持つ人を捜し出して意見を聞くようにしてください。そして、彼らが考慮することや気になる視点について傾聴してください。
- 最後の結論に至る前に、上記の質問と反応がすべて出されており、自分とは、あるいは、そこにいる人たちとは異なる意思決定スタイルがすべて含まれていることを確かめるため、最終チェックを行ってください。
- もしすべてが網羅されていない場合、結論をいそがず、その視点をいれる更なる努力をしてください。

あなたのSTEP II™の結果を、チェンジマネジメントに活用するための指針

現代社会では、変化は、不可避ですが、変化自体が与える影響は人によって異なります。変化にうまく対処するために、

- まず、何が変わっていて、何が変わっていないのか明確にする。
- 次に、実際に変化したことをより正しく理解するために、何を知ることが必要か特定する。

他者が変化にうまく対処するために、

- なにが変化したかについて、自由に語ったり議論する場を設ける。ただし、この方法が心地よい人と心地よくない人がいることは考慮すること。
- その場で、論理的観点、そしてその個人のパーソナルな価値と社会的価値の双方が考慮されているか確かめる。

あなたのタイプ、特に次の9つのファセットは、チェンジマネジメントスタイルにも影響をしています。次に示す、各ファセットの説明と変化に対してよりよい対応方法のヒントを参照してください。

あなたの
ファセット結果

チェンジマネジメントスタイル

チェンジマネジメントの向上のために

表現指標	他者と、変化したことや変化することに、対する気持ちをまず共有する。	あなたの、表現するスタイルを受け入れる人だけに限り伝え、そうでない人には、本人が自分のなかで徹底して考える時間を与えること。
------	-----------------------------------	--

表現 - 秘密 ミッドゾーン	他者に、変化したことや変化することに関するあなたの意見のうちいくつかだけ伝え、それ以外は、うちに秘める。	状況を査定し、あなたの見解を共有するか保留するか必要性に焦点をあて、行動すること。
----------------	--	---

秘密指標	まずは、自分のなかで、変化したこと、変化することに対して感じている気持ちは内に秘め、自分の中だけで解決方法を見出す。	自分の見方が確定したら、信頼する人と共有すること。
------	--	---------------------------

社交指標	変化自体があなたに与える影響について、沢山の人の意見を聞く傾向がある。	ただし、人はあなたと同じレベルであなたの状況に興味を持つわけではないので、沢山の反応を聞くのは有益だが、話す相手は選んできるとよい。
------	-------------------------------------	--

社交-親密ミッドゾーン	あなたの状況や相手の状況で、多数に聞いても もらうこともよし、限られた人に話すのもよい。	ただし、たまたま、手が空いている人を選ぶのではなく、その話 しにもっとも適切な人々を選ぶこと。
-------------	---	--

親密指標	親しい人とだけ、変化があなたに与える影響について共有する。	ときには、親しくない人と気持ちを分かち合うことが効果をもたらすこともあることを考慮する。
------	-------------------------------	--

具象指標	変化のいくつかの側面に行き詰まり感をおぼえ、他者のことを無視する傾向がある。	事実と詳細から合理的な可能性を見出すのを他者に助けてもらうことも有益なことがあることを考慮する。
------	--	--

具象-抽象ミッドゾーン	ひとつの観点から他の観点へよく移動するため、どちらがあなたの観点なのか、自分も周囲も混乱することがある。	どちらの観点で考えているか確定して伝えた上で、必要であれば、反対の観点に立って考えてみること。
-------------	--	---

抽象指標	変化することの意味に対して、不適切な推論をおこなうことがある。	いくつかの事実およびデータを用いて、あなたの推論の検証を。
------	---------------------------------	-------------------------------

現実指標	変化に対しては、常識的な観点でとらえようとする。	常識的な見方が、直ちに変化を理解する材料にならないことも考慮して。
------	--------------------------	-----------------------------------

現実-想像ミッドゾーン	変化にかかるコストパフォーマンスと斬新な可能性の両方に、関心を持ってとらえる。	両方の視点を検証し、この場合、どちらの観点のほうが、理にかなっているかを決めるようにすること。
-------------	---	---

想像指標	変化自体がもたらす斬新的な可能性と資源を生み出すことの両方に着目し、楽しむ。	斬新さの追求には、実際にコストがかかることを認識すること。
------	--	-------------------------------

体験指標	変化が、実際どのように機能するかについての事例を見たいと考える。	変化の影響については、前もって説明できないこともあるということを受け入れること。
------	----------------------------------	--

体験-理論ミッドゾーン	状況について説明する理論に興味を持つ。	他の人が、両方の展望の間の関連を見るのを支援する。
-------------	---------------------	---------------------------

理論指標	実際おきている変化やおころうとする変化について、仮説にもとづいた仕組みを見出す。	周囲の人が、実際に体験している変化の中には、あなたの仮説だけでは十分に説明されないこともあることを認識すること。
------	--	--

伝統指標	まずは、できるだけ変化させず、確立されたやり方を継続することを望む。	変化自体必要なときもあり、それをすることで、継続性を結果的に促進する側面があることも認識すること。
------	------------------------------------	---

伝統-オリジナルミッドゾーン	確立されたやり方の中で最も良いものを維持し、それ以外の変化を受け入れる傾向がある。	あなたの見方の基本的な考え方について、説明をしない限り、他者があなたの観点を十分に理解していないことを認識すること。
----------------	---	--

オリジナル指標	変化、それ自体のために、変化そのものを歓迎する。	どの変化が実際に追求する価値があるかよく吟味し厳選すること。
---------	--------------------------	--------------------------------

不屈指標	あなたがその変化に賛同するか否かによって、積極的に応じるか、徹底的に抵抗するかのどちらかの立場を取る。	判断を下す前に、あなたがとったスタンスが、あなたが結局望むものとして実際に結果をもたらすかどうかを吟味すること。
------	---	--

不屈-中庸ミッドゾーン	変化に対して最初は受け入れるようなおだやかなスタンスをとるが、徐々に揺るがない態度を示す傾向がある。	できるだけ、人に関わる問題にだけは、強固にならずに、最後まで中庸な立場でいること。
-------------	--	---

中庸指標	変化が、人々にやさしく、かつ配慮ある形で影響を与えることを望む。	神経がさかなでられることをどこまで許容できるかについて、自分で明確にしておき、それに従って行動すること。
------	----------------------------------	--

計画指標	できる限り変化に先立って、あらかじめ計画を立てようとする。	予期しないものを考慮に入れて、長期の計画を立案しておく と、予期しないことが実際に計画したとおり起きるようになる。
------	-------------------------------	--

計画-暫定 ミッドゾーン	変化に関して、方向性だけ知ることを望み、すべての変化に関する計画を知る必要はないと思う傾向がある。	詳細な計画が必要なときと、そうでないときの選別を。
--------------	---	---------------------------

暫定指標	変化が起こるままにしておく。	あなたの変化が起こるままにする態度は、ときに周囲の人が居心地が悪く感じていることがあるので、自分はよいかもしれないが、周囲の人のそうした不安が促進されないように、適当に配慮する必要がある。
------	----------------	--

秩序指標	変更を実現させるために、多くの手順を詳述する。	状況によっては、注意深く練られた精密度の高い手順も、瞬時に変更される必要があることもあらかじめ認識しておくこと。
------	-------------------------	--

秩序-創発ミッドゾーン	変化の全てではなく、変化に必要ないくつかの手順だけ知りたいと考える傾向がある。	決まっていないことや未知のことが多い状態では、より多くの詳細の手順が有用だが、既知のことが多い状況では、より少ない手順で十分であるという、その違いを認識しておくこと。
-------------	---	---

創発指標	次に何をするのが最もよいかについて瞬時に決め行動に移したいので、計画を練ることに抵抗を感じる。	今いくつかの手順を練って計画に落とし込むことが、将来の問題を未然に防ぐことがあることを覚えておくこと。
------	---	---

コンフリクトに対処するためにSTEP II™を適用する

他者と共に仕事をしたり、一緒になにかをする際には、大なり小なり、双方に生じるコンフリクト(対立)は必ずあり、避けられることではありません。タイプによって、何をコンフリクトとみなすかが異なり、コンフリクトに対しての反応もまたどのように解決に至るかも違います。対立自体、不愉快なこともあります。しばしばコンフリクトが生じたからこそ、それがきっかけで職場環境が改善されたり、人間関係が向上することにつながるのも事実です。

各々のタイプごとのコンフリクトマネジメントスタイルを次に説明します。

- 特に職場では、関わる人々との良好な関係を維持することに注意を払うだけでは不十分です。実際の仕事もうまく終わらねなければなりません。
- 当然完璧な解決策など存在しませんが、自分の指向するほうを過度に極端に用いたり、自分の指向の対極の機能を排除して状況をとらえると、たちまち対立を生み、解決の糸口をなくす傾向があります。

特に次の6つのSTEP IIファセットは、コンフリクトマネジメントスタイルと密接に関係があります。次の表では、あなたのファセットの結果が、あなたのコンフリクトマネジメントスタイルにどのような影響を及ぼしているか説明します。

あなたの
ファセット結果

コンフリクト
マネジメントスタイル

より良いコンフリクト
マネジメントのために

表現指標	対立が起きていること、またそれに関わるあなたの情緒的反応を、他者とすぐに話し合う傾向がある。	他者があなたと同じようにすぐに反応して共有してこなくても、あなた以上に、コンフリクトに対して強い感情を持っていることがあることを認識しておくこと。
------	--	---

表現 - 秘密 ミッドゾーン	コンフリクトやそれについてのあなたの感情について話し合うが、すぐにではないことが多い。	一緒にいる人々のスタイルに気づき、その人たちの話したい、あるいは待っていたというニーズに合わせてようと試みること。
----------------	---	---

秘密指標	自分で問題を解決し、リアクションを内に秘めようとする。	自力で解決しようとする試みが成功するかもしれないが、人によっては、あなたの意見を必要としていることを考慮すること。
------	-----------------------------	---

社交指標	よく知っている人だけでなく、コンフリクトを解決することに適切な人々を、すべて巻き込む傾向がある。	関わりたくないと思っている人々のニーズを尊重し、心の準備ができるまで、そのまましておく姿勢を。
------	--	---

社交-親密 ミッドゾーン	コンフリクトの解決にあたっては、状況によって、多くの人々と、信頼のおける少数の人の両方に関わる傾向がある。	あなたのアプローチが、特定の状況に適合することをまず確かめ、人の数を増やすか、あるいは減らす必要があることも考慮すること。
--------------	---	---

親密指標	コンフリクトの解決にあたっては、自分自身と、信頼のおける少数の人を頼みにする傾向がある。	あなたの視点や関係性を広げるために、多くの他者が寄与しうる何か価値あるものを持っているということも考慮し、もっと他者を関わらせること。
------	--	---

探究指標	コンフリクトの中にある問題をすべて明らかにするために、他の人に多くの質問をする傾向がある。	他者があなたのその質問のスタイルを、問題解決に役立つというより、むしろ挑戦とみなしていることが多いため、質問の意図の方も明確に伝えること。
------	---	---

探究-順応ミッドゾーン	明確にするための質問をいくつかした後、合意に達する傾向がある。	あなたの質問のスタイルが対立的にみえないように、配慮すること。
-------------	---------------------------------	---------------------------------

順応指標	異なる観点に配慮することで、調和を生み出そうとする傾向がある。	ときおり妥協しすぎることがあるため、その問題が本当にあなたにとって重要な場合は、それを伝え、本当にあなたが何を望んでいるか知らせること。
------	---------------------------------	--

批評指標	正す必要がある間違ったままにされていることはすべて指摘する傾向がある。	あなたのそのスタイルが他者の気持ちを逆なでるかもしれないことを認識し、もう一步引きさがってまずは受け容れる姿勢を。
------	-------------------------------------	---

批評 - 受容 ミッドゾーン	間違っていること、正しいことの両方に目を向ける傾向がある。	ひとつのやり方の両方の側面を指摘すること。
----------------	-------------------------------	-----------------------

受容指標	議論およびアイデアにおいて、他の人との一致点を探す。	真に批評する価値があるものもあることを認識し、それに合意することを強要しないこと。
------	----------------------------	---

不屈指標	進展が起るように、コンフリクトをすぐに解決するよう後押しの傾向がある。	目標に達するには、実行の遅れが必要かもしれないことを認識すること。
------	-------------------------------------	-----------------------------------

不屈-中庸ミッドゾーン	グループが合意に達しようとするまで待ち、それがなされない場合は、自分のやり方で進める傾向がある。	むやみやたらに合意を形成することにあきらめ、行動に移すタイミングを意識的にはかること。
-------------	--	---

中庸指標	協力を求めて努力し、不一致のポイントを最小化する傾向がある。	協力がもはや有用でない場合にはそれを察し、他者が反対することに、賛同する必要があるときを認識すること。
------	--------------------------------	---

事前着手指標	プロジェクトの作業を早期に始めることによって、コンフリクトを回避することができるかと確信する傾向がある。	早期にスタートすることが、快適でないあるいは有効でなく、かえって非効率を生むことがある人々のことを考慮すること。
--------	--	--

事前着手-追い込み ミッドゾーン	同僚の気を動転させないように、十分な時間を取ってスタートするセンスを持っている傾向がある。	いつ他者と仕事を始めるかを考えるために、他者のニーズに敏感であること。
------------------	---	-------------------------------------

追い込み指標	最後の瞬間に取り組むプレッシャーから資源を得ているので、このスタイル自体からコンフリクトが生じる場合があることを認識していない傾向がある。	ひとりで動いている場合は、あなたのスタイルを使用し、協働の場面で、他者が仕事を終えるために、あなたに依存するケースは、自分で早めの締切りを定め、着手すること。
--------	---	---

あなたのファセット結果に加えて、あなたの意思決定スタイルは、(上述のように)どのようにコンフリクトに対処するかに影響します。あなたの意思決定スタイルは、論理指標-理性指標です。あなたは、状況の論理に着目するでしょうし、他の人も同じようにすると考える傾向があります。より効果的にコンフリクトに対処するためには、状況は必ずしも勝ち負けではないことや、競争的なスタンスで話すことに抗することに留意することが必要です。

あなたのファセット結果に加えて、あなたの意思決定スタイルは、(上述のように)どのようにコンフリクトに対処するかに影響します。あなたの意思決定スタイルは、同情指標-共感指標です。あなたは、ひと中心の価値観を考慮することに着目するため、そうしない人を無神経であると感じる傾向があります。より効果的にコンフリクトに対処するためには、ありうる2つの極端な反応を意識してください。それはすなわち、他の人にあなたの見解を伝える前に服従すること、もしくは、あなたの方法に従うように要求することが必要です。

あなたのファセット結果に加えて、あなたの意思決定スタイルは、(上述のように)どのようにコンフリクトに対処するかに影響します。あなたの意思決定スタイルは、論理指標と共感指標です。おそらく気持ちに動かされないアプローチを取るが、結果的に、人々のことを過度に心配する傾向があります。より効果的にコンフリクトに対処するためには、あなたが他の人から、一貫性がない、あるいは好きなようにやっていると思われるかもしれないことに気付く必要があります。あなたが、どのような理由で何をしようとしているのか、明確に伝える必要があります。

あなたのファセット結果に加えて、あなたの意思決定スタイルは、(上述のように)どのようにコンフリクトに対処するかに影響します。あなたの意思決定スタイルは、同情指標と理性指標です。あなたは、状況の理論と、関係する人々と、その人たちの感情に着目する傾向があります。より効果的にコンフリクトに対処するためには、それらの側面を考慮しつつも、論理的な側面により重きをおく必要があります。あなたが、どのような理由で何をしようとしているのか、明確に伝える必要があります。

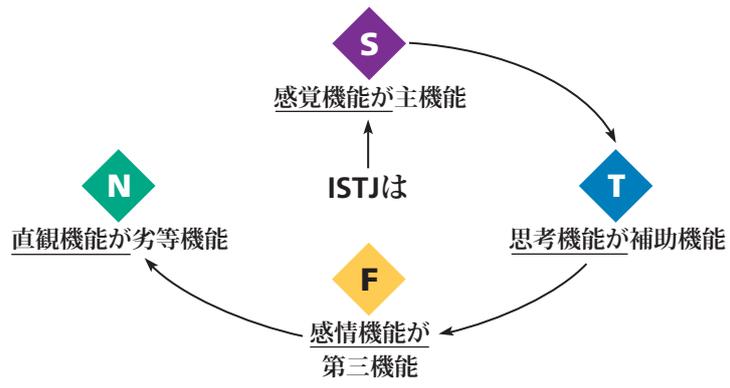
あなたのファセット結果に加えて、あなたの意思決定スタイルは、(上述のように)どのようにコンフリクトに対処するかに影響します。あなたの意思決定スタイルは、ミッドゾーンの思考です。あなたは、状況の理論と、関係する人々と、その人たちの感情に着目する傾向があります。より効果的にコンフリクトに対処するためには、あなたの全体的な指向は思考機能であるため、それらの側面を考慮しつつも、論理的な側面により重きをおくことが必要です。

あなたのファセット結果に加えて、あなたの意思決定スタイルは、(上述のように)どのようにコンフリクトに対処するかに影響します。あなたの意思決定スタイルは、ミッドゾーンの感情です。あなたは、関係する人々と、その人たちの感情と、状況の論理に着目する傾向があります。より効果的にコンフリクトに対処するためには、あなたの全体的な指向は感情機能であるため、それらの側面を考慮しつつも、調和を保ちたいというあなたの欲求により重きをおく必要があります。

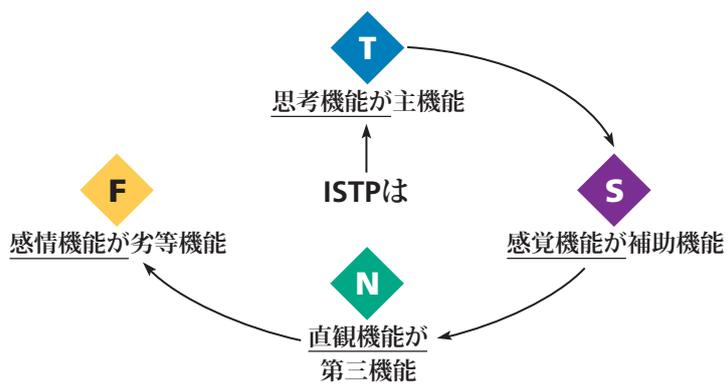
あなたが指向するタイプのそれぞれがどのように互いに相互作用しているかについての説明

そもそも「タイプ」とは、私たちが、どのように情報を集め(感覚と直観)、どのように結論を導くか(思考と感情)という認知スタイルのことをいいます。各々のタイプは、それぞれ自然と好んでする情報のとらえ方と、結論を導きだす習慣があると考えられているわけです。タイプを表わすアルファベットの4文字のうち、真ん中の2文字(SかN、および、TかF)は、あなたの情報処理の習慣を示しています。タイプを表す4文字の中にあらわれない、対極の機能は、あなたのなかで、第3番目と第4番目に位置する機能となります。ただし、どのタイプに関係なく、すべての機能をわれわれは備え持って生まれているので、指向している心以外の心も、つねに使っています。

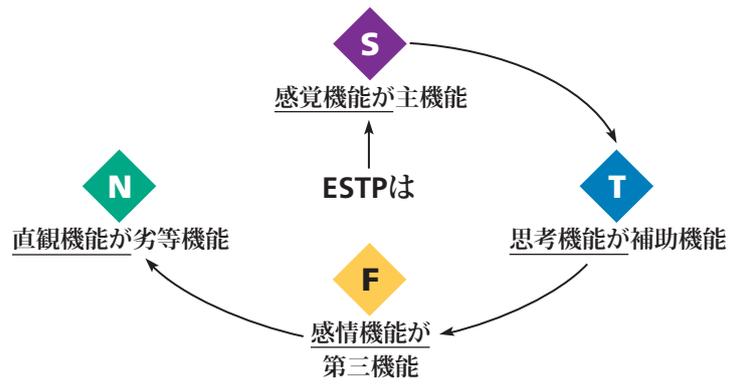
ISTJがよりよく機能するためには



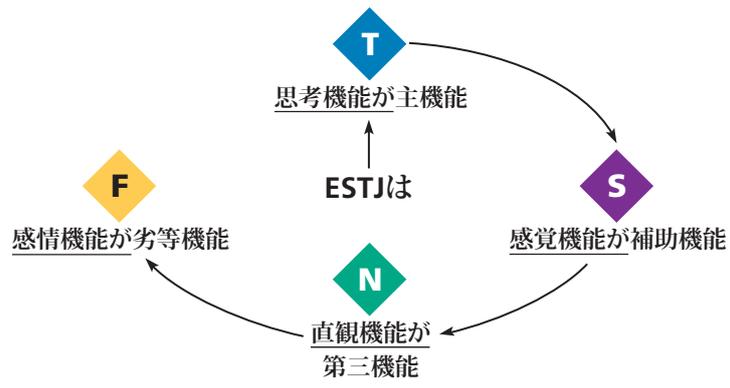
ISTPがよりよく機能するためには



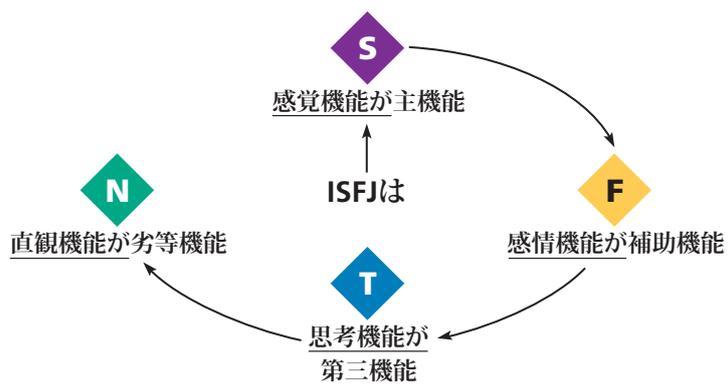
ESTPがよりよく機能するためには



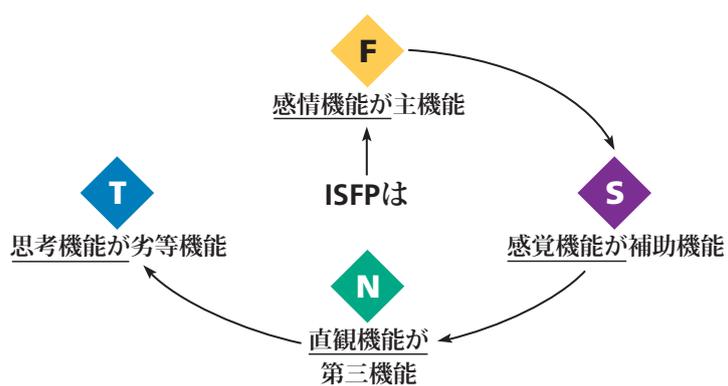
ESTJがよりよく機能するためには



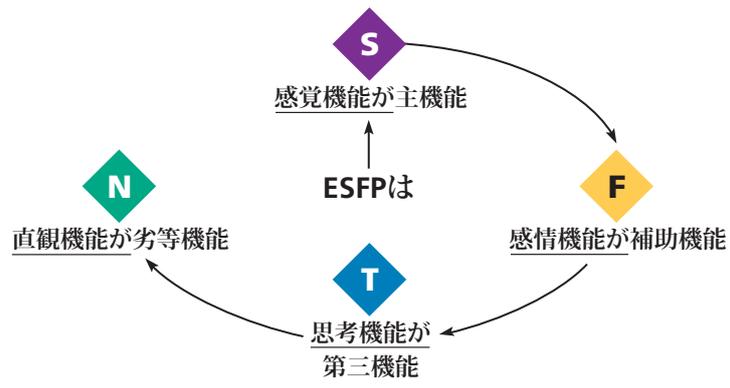
ISFJがよりよく機能するためには



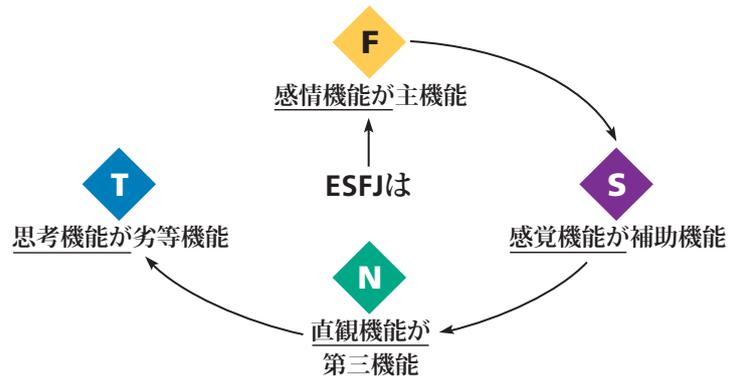
ISFPがよりよく機能するためには



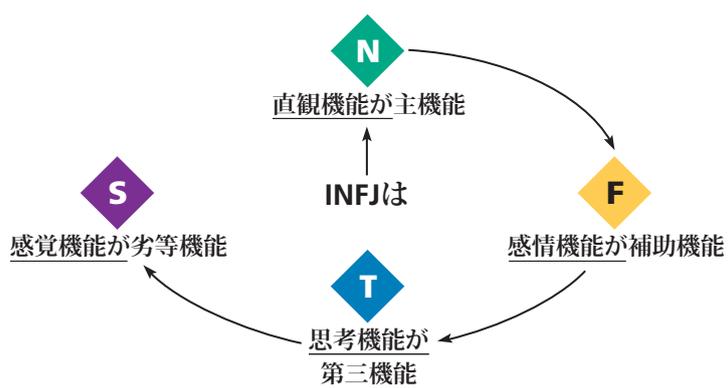
ESFPがよりよく機能するためには



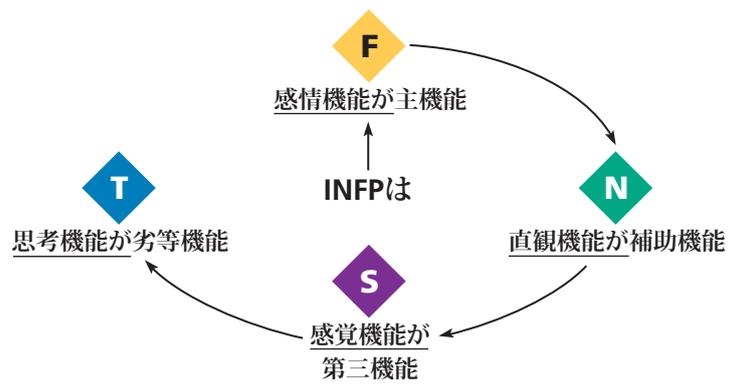
ESFJがよりよく機能するためには



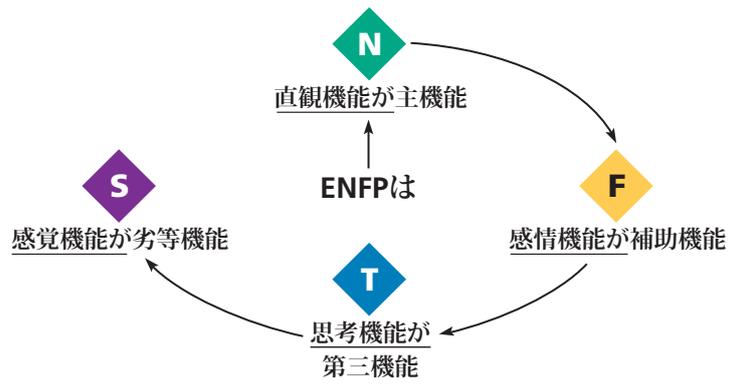
INFJがよりよく機能するためには



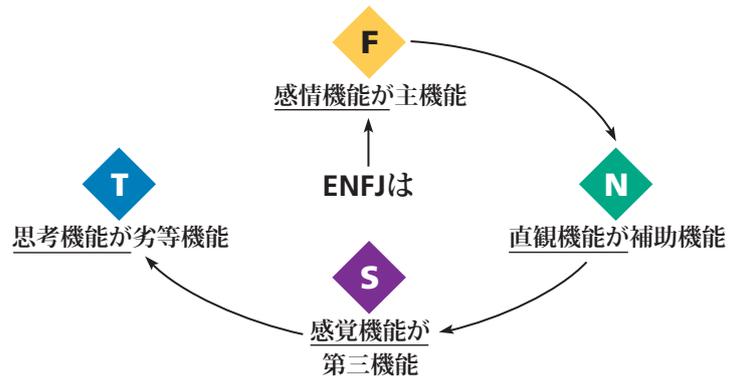
INFPがよりよく機能するためには



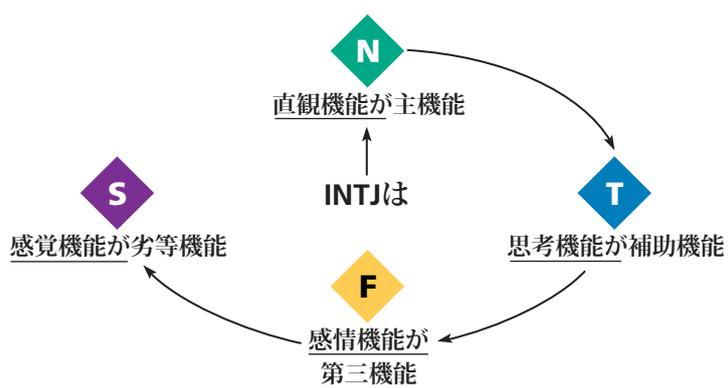
ENFPがよりよく機能するためには



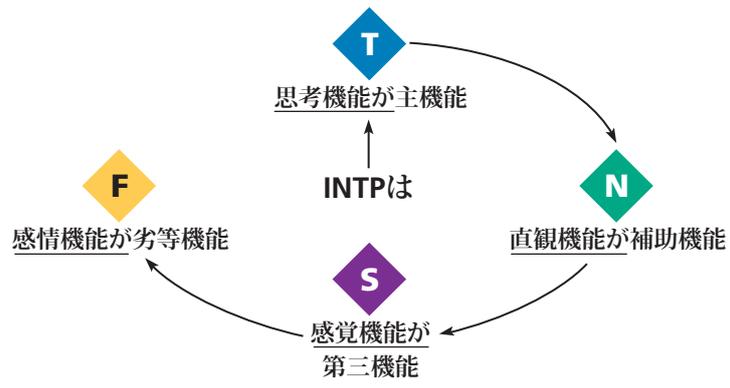
ENFJがよりよく機能するためには



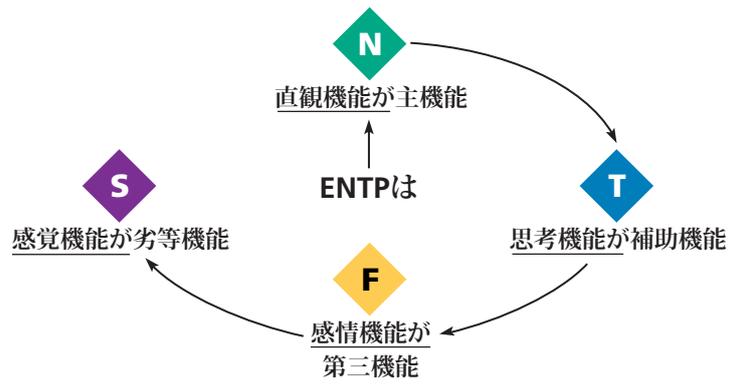
INTJがよりよく機能するためには



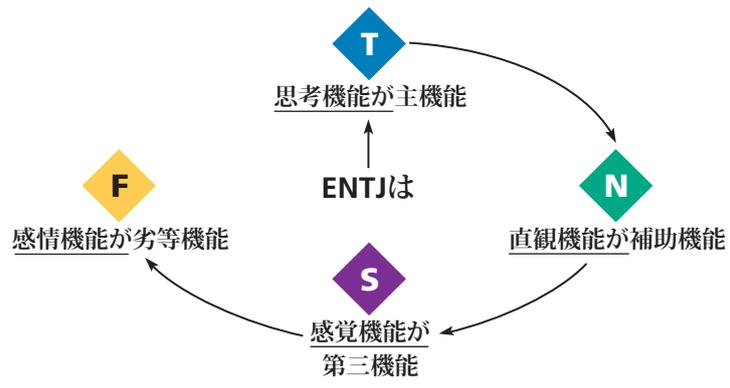
INTPがよりよく機能するためには



ENTPがよりよく機能するためには



ENTJがよりよく機能するためには



あなたが指向する心を使うということは、

外向を指向する人は、主に、自分の外界にいる人々やできごと、ものごとの中で、自分が最も指向する心を用います。そして、バランスをとるために、自分の内界の考えや印象を、2番目に指向する心を用いて捉えます。内向を指向する人は、主に、自分の内界で最も指向する心を用います。そしてバランスを取るため、外界で2番目の指向の心を使います。

そのため、ISTJタイプの場合、

- 主に、内界で感覚機能を用い、事実や詳細を捉え、蓄積します。
- そして外界で、思考機能を用い、自分の構造だった考えや、意思決定の筋道を他者に伝えます。

指向しない心を用いるということは

あなたが指向していない心、感情機能と直観機能を、頻度高く用いなければならない場合、それはあなたにとって自然で心地よい状態ではなく機能させているということになります。その場合、居心地が悪かったり、徒労感があったり、なんとなくフラストレーションを感じることもあるかもしれません。それが過度になると、ISTJを指向するあなたは、最初は過剰に事実の詳細にこだわりはじめ、次に、悪い可能性ばかりについて思いをめぐらせ、とてつもなく不安になることがあります。

自分のバランスを取り戻すために、次のことを試みてください。

- 自分が指向していない機能、感情と直観、を頻繁に使用しなければならない場合、できるだけ多くの休憩をとってみてください。
- そして、あなたの指向する方法、感覚機能と思考機能、を使用でき、自分にとって壮快なことをする時間を見つけるための努力してください。

そのためISTPは、

- 主に、自分の内界で思考機能を用い、ものごとを分析し、論理的な結論に到達します。
- 主に、外界で感覚機能を用い、重要な事実や詳細の情報を拾います。

指向しない心を用いるということは

あなたが指向していない心、直観機能と感情機能を頻度高く用いなければならない場合、それはあなたにとって自然で心地よい状態ではなく機能させているということになります。その場合、居心地が悪かったり、徒労感があったり、なんとなくフラストレーションを感じることもあるかもしれません。それが過度になると、ISTPを指向するあなたは、最初は、過剰に筋道やロジックにこだわり、次に不適切なあらし方であらわしてしまいそうな自分自身の強い感情で圧倒されることがあります。

自分のバランスを取り戻すために、次のことを試みてください。

- 自分が指向していない機能、直観機能と感情機能を頻繁に使用しなければならない場合、できるだけ多くの休憩をとってみてください。
- あなたの指向する方法、感覚機能と思考機能、を使用できる、自分にとって壮快なことをする時間を見つけるための努力してください。

そのためESTPは、

- 主に、外界で感覚機能を用い、重要な事実や詳細な情報を瞬時にそのままとらえます。
- 主に、内界で思考機能を用い、ものごとを分析し、論理的な結論に到達します。

指向しない心を用いるということは

あなたが指向していない心、感情機能と直観機能を、頻度高く用いなければならない場合、それはあなたにとって自然で心地よい状態ではなく機能させているということになります。その場合、居心地が悪かったり、徒労感があったり、なんとなくフラストレーションを感じることもあるかもしれません。それが過度になると、ESTPを指向するあなたは、最初は過剰にいまその瞬間の現実集中するようになり、次に、自分の内面にひらめいた、おそろしい結びつきや可能性によって圧倒されることがあります。

自分のバランスを取り戻すために、次のことを試みてください。

- 自分が指向していない機能、感情と直観、を頻繁に使用しなければならない場合、できるだけ多くの休憩をとってみてください。
- あなたの指向する方法、感覚機能と思考機能、を使用でき、自分にとって壮快なことをする時間を見つけるための努力してください。

そのため、ESTJは、

- 主に、外界で思考機能を用い、自分の分析結果や論理的な意思決定について他者に伝えます。
- 主に、内界で感覚機能を用い、事実や詳細を蓄積された情報から捉えます。

指向しない心を用いるということは

あなたが指向していない心、直観機能と感情機能を頻度高く用いなければならない場合、それはあなたにとって自然で心地よい状態ではなく機能させているということになります。その場合、居心地が悪かったり、徒労感があったり、なんとなくフラストレーションを感じることもあるかもしれません。それが過度になると、ESTJを指向するあなたは、最初は過剰に、ものごとを制圧したくなったり、やたら批判的になりますが、次に、自分が評価されていないと感じ、突然傷つき、絶望を覚えることがあります。

自分のバランスを取り戻すために、次のことを試みてください。

- 自分が指向していない機能、直観機能と感情機能を頻繁に使用しなければならない場合、できるだけ多くの休憩をとってみてください。
- あなたの指向する方法、感覚機能と思考機能、を使用できる、自分にとって壮快なことをする時間を見つけるための努力してください。

そのためISFJは、

- 主に、内界で感覚機能を用い、事実や詳細を捉え、蓄積します。
- 主に、外界で感情機能を用い、自分や関係する人たちにたちにとって大切であることがらを伝えます。

指向しない心を用いるということは

あなたが指向していない心、直観機能と思考機能を頻度高く用いなければならない場合、それはあなたにとって自然で心地よい状態ではなく機能させているということになります。その場合、居心地が悪かったり、徒労感があったり、なんとなくフラストレーションを感じることもあるかもしれません。それが過度になると、ISFJを指向するあなたは、最初にまず過剰に事実の詳細に焦点を当てはじめ、次に、今後起きうる悪い可能性について思いをめぐらし、不安が募ることがあります。

自分のバランスを取り戻すために、次のことを試みてください。

- 自分が指向していない機能、直観機能と思考機能、を頻繁に使用しなければならない場合、できるだけ多くの休憩をとってみてください。
- あなたの指向する方法、感覚機能と感情機能、を使用できる、自分にとって壮快なことをする時間を見つけるための努力してください。

そのためISFPは、

- 主に、内界で感情機能を用い、何が自分自身や他者にとって真に大切なことは何かを考えます。
- 主に、外界で感覚機能を用い、重要な事実や詳細な情報を瞬時にそのままとらえます。

指向しない心を用いるということは

あなたが指向していない心、直観機能と思考機能を頻度高く用いなければならない場合、それはあなたにとって自然で心地よい状態ではなく機能させているということになります。その場合、居心地が悪かったり、徒労感があったり、なんとなくフラストレーションを感じることもあるかもしれません。それが過度になると、ISFPを指向するあなたは、はじめは個人的な価値観に関する問題について過剰なほどに敏感になり、次に、自分自身と他者両者の間違いや過ちを厳しく批判することを繰り返すことがあります。

自分のバランスを取り戻すために、次のことを試みてください。

- 自分が指向していない機能、直観機能と思考機能、を頻繁に使用しなければならない場合、できるだけ多くの休憩をとってみてください。
- あなたの指向する方法、感覚機能と感情機能、を使用できる、自分にとって壮快なことをする時間を見つけるための努力してください。

そのため、ESFPは

- 主に、外界で感覚機能を用い、重要な事実や詳細な情報を瞬時にそのままとらえます。
- 主に、内界で感情機能を用い、何が自分自身や他者にとって真に大切なことは何かを考えます。

指向しない心を用いるということ

あなたが指向していない心、直観機能と思考機能を頻度高く用いなければならない場合、それはあなたにとって自然で心地よい状態ではなく機能させているということになります。その場合、居心地が悪かったり、徒労感があったり、なんとなくフラストレーションを感じることもあるかもしれません。それが過度になると、ESFPを指向するあなたは、最初は過剰にいまその瞬間の現実集中するようになり、次に、自分の内面にひらめいた、おそろしい結びつきや可能性によって圧倒されることがあります。

自分のバランスを取り戻すために、次のことを試みてください。

- 自分が指向していない機能、直観機能と思考機能、を頻繁に使用しなければならない場合、できるだけ多くの休憩をとってみてください。
- あなたの指向する方法、感覚機能と感情機能、を使用できる、自分にとって壮快なことをする時間を見つけるための努力してください。

そのため、ESFJは、

- 主に、外界で感情機能を用い、自分やかかわる人たちにとって大切な事柄をやりとりします。
- 主に、内界で感覚機能を用い、事実や詳細を蓄積された情報から捉えます。

指向しない心を用いるということは

あなたが指向していない心、直観機能と思考機能を頻度高く用いなければならない場合、それはあなたにとって自然で心地よい状態ではなく機能させているということになります。その場合、居心地が悪かったり、徒労感があったり、なんとなくフラストレーションを感じることもあるかもしれません。それが過度になると、ESFJを指向するあなたは、最初は過剰に人と調和することに躍起になり、次に、自分の力不足を嘆くのと同時に、強烈な他者批判を表現することがあります。

自分のバランスを取り戻すために、次のことを試みてください。

- 自分が指向していない機能、直観機能と思考機能、を頻繁に使用しなければならない場合、できるだけ多くの休憩をとってみてください。
- あなたの指向する方法、感覚機能と感情機能、を使用できる、自分にとって壮快なことをする時間を見つけるための努力してください。

そのため、INFJは、

- 主に、内界で直観機能を用い、何が本来の真理なのかについての統合されたビジョンを発展させます。
- 主に、外界で感情機能を用い、自分やかかわる人たちにとって大切な事柄をやりとりします。

指向しない心を用いるということは

あなたが指向していない心、感覚機能と思考機能を頻度高く用いなければならない場合、それはあなたにとって自然で心地よい状態ではなく機能させているということになります。その場合、居心地が悪かったり、徒労感があったり、なんとなくフラストレーションを感じることもあるかもしれません。それが過度になると、INFJを指向するあなたは、最初は、この世の中に対する自分独自の仮説や理論にやたらこだわりはじめ、次に、外部の本当に枝葉末節な詳細にとりつかれたり、つきまとわれたりするような感じを経験することがあります。

自分のバランスを取り戻すために、次のことを試みてください。

- 自分が指向していない機能、感覚機能と思考機能、を頻繁に使用しなければならない場合、できるだけ多くの休憩をとってみてください。
- あなたの指向する方法、直観機能と感情機能、を使用できる、自分にとって壮快なことをする時間を見つけるための努力してください。

そのため、INFPは、

- 主に、内界で感情機能を用い、何が自分自身や他者にとって真に大切なことは何かを考えます。
- 主に、外界で直観機能を用い、可能性や意味を見出します。

指向しない心を用いるということは

あなたが指向していない心、感覚機能と思考機能を頻度高く用いなければならない場合、それはあなたにとって自然で心地よい状態ではなく機能させているということになります。その場合、居心地が悪かったり、徒労感があったり、なんとなくフラストレーションを感じることもあるかもしれません。それが過度になると、INFPを指向するあなたは、はじめは個人的な価値観に関する問題について過剰なほどに敏感になり、次に、自分自身と他者両者の間違いや過ちを厳しく批判することを繰り返すことがあります。

自分のバランスを取り戻すために、次のことを試みてください。

- 自分が指向していない機能、感覚機能と思考機能、を頻繁に使用しなければならない場合、できるだけ多くの休憩をとってみてください。
- あなたの指向する方法、直観機能と感情機能、を使用できる、自分にとって壮快なことをする時間を見つけるための努力してください。

そのため、ENFPは

- 主に、外界で直観機能を用い、可能性や意味を見出します。
- 主に、内界で感情機能を用い、何が自分自身や他者にとって真に大切なことは何かを考えます。

指向しない心を用いるということは

あなたが指向していない心、感覚機能と思考機能を頻度高く用いなければならない場合、それはあなたにとって自然で心地よい状態ではなく機能させているということになります。その場合、居心地が悪かったり、徒労感があったり、なんとなくフラストレーションを感じることもあるかもしれません。それが過度になると、ENFPを指向するあなたは、最初は、つぎからつぎに着手するプロジェクトを非効率なままでに変えはじめ、次に自分の中にある否定的な事実には圧倒されたり、身体的な不具合が突然やたらと気になることがあります。

自分のバランスを取り戻すために、次のことを試みてください。

- 自分が指向していない機能、感覚機能と思考機能、を頻繁に使用しなければならない場合、できるだけ多くの休憩をとってみてください。
- あなたの指向する方法、直観機能と感情機能、を使用できる、自分にとって壮快なことをする時間を見つけるための努力してください。

そのためENFJは、

- 主に、外界で感情機能を用い、自分やかかわる人たちにとって大切な事柄をやりとりします。
- 主に、内界で直観機能を用い、何が本来の真理なのかについての統合されたビジョンを発展させます。

指向しない心を用いるということは

あなたが指向していない心、感覚機能と思考機能を頻度高く用いなければならない場合、それはあなたにとって自然で心地よい状態ではなく機能させているということになります。その場合、居心地が悪かったり、徒労感があったり、なんとなくフラストレーションを感じることもあるかもしれません。それが過度になると、ENFJを指向するあなたは、最初は過剰に人と調和することに躍起になり、次に、自分の力不足を嘆くのと同時に、強烈な他者批判を表現することがあります。

自分のバランスを取り戻すために、次のことを試みてください。

- 自分が指向していない機能、感覚機能と思考機能、を頻繁に使用しなければならない場合、できるだけ多くの休憩をとってみてください。
- あなたの指向する方法、直観機能と感情機能、を使用できる、自分にとって壮快なことをする時間を見つけるための努力してください。

そのためINTJは、

- 主に、内界で直観機能を用い、何が本来の真理なのかについての統合されたビジョンを発展させます。
- 主に、外界で思考機能を用い、自分の分析結果や論理的な意思決定について他者に伝えます。

指向しない心を用いるということは

あなたが指向していない心、感覚機能と感情機能を頻度高く用いなければならない場合、それはあなたにとって自然で心地よい状態ではなく機能させているということになります。その場合、居心地が悪かったり、徒労感があったり、なんとなくフラストレーションを感じることもあるかもしれません。INTJとして、はじめはあなたは世界に対する自分自身の論理にもっぱら焦点を当てるかもしれませんが、次に、外部の瑣末な詳細に夢中になるでしょう。

自分のバランスを取り戻すために、次のことを試みてください。

- 自分が指向していない機能、感覚機能と感情機能、を頻繁に使用しなければならない場合、できるだけ多くの休憩をとってみてください。
- あなたの指向する方法、直観機能と思考機能、を使用できる、自分にとって壮快なことをする時間を見つけるための努力してください。

そのためINTPは、

- 主に、自分の内界で思考機能を用い、ものごとを分析し、論理的な結論に到達します。
- 主に、外界で直観機能を用い、可能性や意味を見出します。

指向しない心を用いるということは

あなたが指向していない心、感覚機能と感情機能を頻度高く用いなければならない場合、それはあなたにとって自然で心地よい状態ではなく機能させているということになります。その場合、居心地が悪かったり、徒労感があったり、なんとなくフラストレーションを感じることもあるかもしれません。それが過度になると、INTPを指向するあなたは、最初は、過剰に筋道やロジックにこだわり、次に不適切なあらし方であらわしてしまいそうな自分自身の強い感情で圧倒されることがあります。

自分のバランスを取り戻すために、次のことを試みてください。

- 自分が指向していない機能、感覚機能と感情機能、を頻繁に使用しなければならない場合、できるだけ多くの休憩をとってみてください。
- そして、あなたの指向する方法、直観機能と思考機能、を使用できる、自分にとって壮快なことをする時間を見つけるための努力してください。

そのためENTPは、

- 主に、外界で直観機能を用い、可能性や意味を見出します。
- 主に、自分の内界で思考機能を用い、ものごとを分析し、論理的な結論に到達します。

指向しない心を用いるということは

あなたが指向していない心、感覚機能と感情機能を頻度高く用いなければならない場合、それはあなたにとって自然で心地よい状態ではなく機能させているということになります。その場合、居心地が悪かったり、徒労感があったり、なんとなくフラストレーションを感じることもあるかもしれません。それが過度になると、ENTPを指向するあなたは、最初は、つぎからつぎに着手するプロジェクトを非効率なままでに変えはじめ、次に自分の中にある否定的な事実で圧倒されたり、身体的な不具合が突然やたらと気になることがあります。

自分のバランスを取り戻すために、次のことを試みてください。

- 自分が指向していない機能、感覚機能と感情機能、を頻繁に使用しなければならない場合、できるだけ多くの休憩をとってみてください。
- あなたの指向する方法、直観機能と思考機能、を使用できる、自分にとって壮快なことをする時間を見つけるための努力してください。

そのためENTJは、

- 主に、外界で思考機能を用い、自分の分析結果や論理的な意思決定について他者に伝えます。
- 主に、内界で直観機能を用い、何が本来の真理なのかについての統合されたビジョンを発展させます。

指向しない心を用いるということは

あなたが指向していない心、感覚機能と感情機能を頻度高く用いなければならない場合、それはあなたにとって自然で心地よい状態ではなく機能させているということになります。その場合、居心地が悪かったり、徒労感があったり、なんとなくフラストレーションを感じることもあるかもしれません。それが過度になると、ENTJを指向するあなたは、最初は過剰に、ものごとを制圧したくなったり、やたら批判的になりますが、次に、自分が評価されていないと感じ、突然傷つき、絶望を覚えることがあります。

自分のバランスを取り戻すために、次のことを試みてください。

- 自分が指向していない機能、感覚機能と感情機能、を頻繁に使用しなければならない場合、できるだけ多くの休憩をとってみてください。
- そして、あなたの指向する方法、直観機能と思考機能、を使用できる、自分にとって壮快なことをする時間を見つけるための努力してください。

あなたのタイプを効果的に用いるために

ISTJは、感覚と思考を指向することによって、多くの場合

- 事実や経験を実際に用いることに興味をもちます。
- そしてそれらをもとに、論理的な結論に達します。

ISTJは、指向しない直観機能と感情機能にはほとんどエネルギーを注がない傾向があります。そのため、それらの機能が未開拓の場合が多く、それらが有効かもしれない状況で使用するとき、適切に機能しないことがあります。

ISTJは、

- 自分の感覚機能に頼りすぎている場合に、全体像や、いまある情報が提示する他の意味や新たな可能性を見逃す可能性があります。
- そして、思考機能に偏重している場合、人をほめるべきときにそうすることを忘れ、自分の意思決定が他者に及ぼす影響に気づかないことがあります。

しかし、そもそも、一人ひとりの指向とは、その人の生活の中で、自然な方法で発達するといわれています。そして、人々は、多くの場合、年齢を重ねる過程で、自分にとってなじみのない心の部分に興味を持ち、自然と使うようになるといわれています。特に人生の中年期以降は、自分が若かったころには、ほとんど引きつけられていなかったことがらやものごとに、より多くの時間やエネルギーを割くようになります。ISTJの場合は、ものごとをすすめるときにいままでとは異なった新しいやり方を考えたり、人との関係の中で個人的なつながりや深まりに、大きな楽しみを見出したりします。

あなたのタイプを効果的に用いるために

ISTPは、思考と感覚を指向することによって、多くの場合

- 事実と体験に基づいた結論に達します。
- 事実や経験を実際に用いることに興味をもちます。

ISTPは、指向しない直観機能と感情機能にはほとんどエネルギーを注がない傾向があります。そのため、それらの機能が未開拓の場合が多く、それらが有効かもしれない状況で使用するときに、適切に機能しないことがあります。

ISTPは、

- 思考機能に偏重している場合、人をほめるべきときにそうすることを忘れ、自分の意思決定が他者に及ぼす影響に気づかないことがあります。
- 自分の感覚機能に頼りすぎている場合に、全体像や、いまある情報が提示する他の意味や新たな可能性を見逃す可能性があります。

しかし、そもそも、一人ひとりの指向とは、その人の生活の中で、自然な方法で発達するといわれています。そして、人々は、多くの場合、年齢を重ねる過程で、自分にとってなじみのない心の部分に興味を持ち、自然と使うようになるといわれています。そして、人々は、多くの場合、年齢を重ねる過程で、自分にとってなじみのない心の部分に興味を持ち、自然と使うようになるといわれています。ISTPの場合は、人との関係の中で個人的なつながりが深まっていくことに喜びを見出したり、ものごとをすすめるときにいままでとは異なった新しいやり方を考える際に、大きな楽しみを見出したりします。

あなたのタイプを効果的に用いるために

ESTPは、思考と感覚を指向することによって、多くの場合

- 事実や経験を実際に用いることに興味をもちます。
- そしてそれらをもとに、論理的な結論に達します。

ESTPは、指向しない直観機能と感情機能にはほとんどエネルギーを注がない傾向があります。そのため、それらの機能が未開拓の場合が多く、それらが有効かもしれない状況で使用するとき、適切に機能しないことがあります。

ESTPは、

- 自分の感覚機能に頼りすぎている場合に、全体像や、いまある情報が提示する他の意味や新たな可能性を見逃す可能性があります。
- そして、思考機能に偏重している場合、人をほめるべきときにそうすることを忘れ、自分の意思決定が他者に及ぼす影響に気づかないことがあります。

しかし、そもそも、一人ひとりの指向とは、その人の生活の中で、自然な方法で発達するといわれています。そして、人々は、多くの場合、年齢を重ねる過程で、自分にとってなじみのない心の部分に興味を持ち、自然と使うようになるといわれています。そして、人々は、多くの場合、年齢を重ねる過程で、自分にとってなじみのない心の部分に興味を持ち、自然と使うようになるといわれています。ESTPの場合は、ものごとをすすめるときにいままでとは異なった新しいやり方を考えたり、人との関係の中で個人的なつながりや深まりに、大きな楽しみを見出したりします。

あなたのタイプを効果的に用いるために

ESTJは、思考と感覚を指向することによって、多くの場合

- 事実と体験に基づいた結論に達します。
- 事実や経験を実際に用いることに興味をもちます。

ESTJは、指向しない直観機能と感情機能にはほとんどエネルギーを注がない傾向があります。そのため、それらの機能が未開拓の場合が多く、それらが有効かもしれない状況で使用するとき、適切に機能しないことがあります。

ESTJは、

- 思考機能に偏重している場合、人をほめるべきときにそうすることを忘れ、自分の意思決定が他者に及ぼす影響に気づかないことがあります。
- 自分の感覚機能に頼りすぎている場合に、全体像や、いまある情報が提示する他の意味や新たな可能性を見逃す可能性があります。

しかし、そもそも、一人ひとりの指向とは、その人の生活の中で、自然な方法で発達するといわれています。そして、人々は、多くの場合、年齢を重ねる過程で、自分にとってなじみのない心の部分に興味を持ち、自然と使うようになるといわれています。そして、人々は、多くの場合、年齢を重ねる過程で、自分にとってなじみのない心の部分に興味を持ち、自然と使うようになるといわれています。ESTJの場合は、人との関係の中で個人的なつながりが深まっていくことに喜びを見出したり、ものごとをすすめるときにいままでとは異なった新しいやり方を考える際に、大きな楽しみを見出したりします。

あなたのタイプを効果的に用いるために

ISFJは、感覚と感情を指向することによって、多くの場合

- 事実と体験を蓄える。
- それらを用いて、自分自身と他者との生活に、調和をもたらします。

ISFJは、指向しない直観機能と思考機能にはほとんどエネルギーを注がない傾向があります。そのため、それらの機能が未開拓の場合が多く、それらが有効かもしれない状況で使用するときに、適切に機能しないことがあります。

ISFJは、

- 自分の感覚機能に頼りすぎている場合に、全体像や、いまある情報が提示する他の意味や新たな可能性を見逃す可能性があります。
- 感情機能に偏重している場合、意思決定の落とし穴や賛否両論の両サイドのみかた、そして論理的な意味あいを見逃すこととなります。

しかし、そもそも、一人ひとりの指向とは、その人の生活の中で、自然な方法で発達するといわれています。そして、人々は、多くの場合、年齢を重ねる過程で、自分にとってなじみのない心の部分に興味を持ち、自然と使うようになるといわれています。特に人生の中年期以降は、自分が若かったころには、ほとんど引きつけられていなかったことがらやものごとにより多くの時間やエネルギーを割くようになります。ISFJの場合、ものごとを進めるときに新しい方法を考慮したり、論理だった分析や決定を必要とされる場面で大きな楽しみを見出したりします。

あなたのタイプを効果的に用いるために

ISFPは、感情と感覚を指向することによって、多くの場合

- 自分と他者との日々の生活の中に、調和をもたらし、それを維持します。
- 自分が取得した事実や実体を用います。

ISFPは、指向しない直観機能と思考機能にはほとんどエネルギーを注がない傾向があります。そのため、それらの機能が未開拓の場合が多く、それらが有効かもしれない状況で使用するとき、適切に機能しないことがあります。

ISFPは、

- 感情機能に頼りすぎると、意思決定の落とし穴や賛否両論の両サイドのみかた、そして論理的な意味あいを見逃すことになるでしょう。
- 自分の感覚機能に頼りすぎている場合に、全体像や、いまある情報が提示する他の意味や新たな可能性を見逃す可能性があります。

しかし、そもそも、一人ひとりの指向とは、その人の生活の中で、自然な方法で発達するといわれています。そして、人々は、多くの場合、年齢を重ねる過程で、自分にとってなじみのない心の部分に興味を持ち、自然と使うようになるといわれています。特に人生の中年期以降は、自分が若かったころには、ほとんど引きつけられていなかったことがらやものごとに、より多くの時間やエネルギーを割くようになります。ISFPの場合、論理だった分析や決定を必要とされる場面や、あらたなやり方を見出さねばならないときに、大きな楽しみを見出したりします。

あなたのタイプを効果的に用いるために

ESFPは、感覚と感情を指向することによって、多くの場合

- 事実と体験を蓄える。
- それらを用いて、自分自身と他者との生活に、調和をもたらします。

ESFPは、指向しない直観機能と思考機能にはほとんどエネルギーを注がない傾向があります。そのため、それらの機能が未開拓の場合が多く、それらが有効かもしれない状況で使用するとき、適切に機能しないことがあります。

ESFPは、

- 自分の感覚機能に頼りすぎている場合に、全体像や、いまある情報が提示する他の意味や新たな可能性を見逃す可能性があります。
- 感情機能に偏重している場合、意思決定の落とし穴や賛否両論の両サイドのみかた、そして論理的な意味あいを見逃すこととなります。

しかし、そもそも、一人ひとりの指向とは、その人の生活の中で、自然な方法で発達するといわれています。そして、人々は、多くの場合、年齢を重ねる過程で、自分にとってなじみのない心の部分に興味を持ち、自然と使うようになるといわれています。特に人生の中年期以降は、自分が若かったころには、ほとんど引きつけられていなかったことがらやものごとに、より多くの時間やエネルギーを割くようになります。ESFPの場合、ものごとを進めるときに新しい方法を考慮したり、論理だった分析や決定を必要とされる場面で大きな楽しみを見出したりします。

あなたのタイプを効果的に用いるために

ESFJは、感情と感覚を指向することによって、多くの場合

- 自分と他者との日々の生活の中に、調和をもたらし、それを維持します。
- 自分が取得した事実や実体を用います。

ESFJは、指向しない直観機能と思考機能にはほとんどエネルギーを注がない傾向があります。そのため、それらの機能が未開拓の場合が多く、それらが有効かもしれない状況で使用するとき、適切に機能しないことがあります。

ESFJは、

- 感情機能に頼りすぎると、意思決定の落とし穴や賛否両論の両サイドのみかた、そして論理的な意味あいを見逃すことになるでしょう。
- 自分の感覚機能に頼りすぎている場合に、全体像や、いまある情報が提示する他の意味や新たな可能性を見逃す可能性があります。

しかし、そもそも、一人ひとりの指向とは、その人の生活の中で、自然な方法で発達するといわれています。そして、人々は、多くの場合、年齢を重ねる過程で、自分にとってなじみのない心の部分に興味を持ち、自然と使うようになるといわれています。特に人生の中年期以降は、自分が若かったころには、ほとんど引きつけられていなかったことがらやものごとにより多くの時間やエネルギーを割くようになります。ESFJの場合、論理だった分析や決定を必要とされる場面や、あらたなやり方を見出さねばならないときに、大きな楽しみを見出したりします。

あなたのタイプを効果的に用いるために

INFJは、直観と感情を指向することによって、多くの場合

- あらたな考え方や可能性を探ります。
- 自分と他者との日々の生活の中に、調和をもたらし、それを維持します。

INFJは、指向しない感覚機能と思考機能にはほとんどエネルギーを注がない傾向があります。そのため、それらの機能が未開拓の場合が多く、それらが有効かもしれない状況で使用するとき、適切に機能しないことがあります。

INFJは、

- あまりに直観に偏重すると、関係する重要な事実や詳細そして、過去の体験から学べたはずのことを見逃すことがあります。
- そして感情機能に偏重している場合、意思決定の落とし穴や賛否両論の両サイドのみかた、そして論理的な意味あいを見逃すことになりがちです。

しかし、そもそも、一人ひとりの指向とは、その人の生活の中で、自然な方法で発達するといわれています。そして、人々は、多くの場合、年齢を重ねる過程で、自分にとってなじみのない心の部分に興味を持ち、自然と使うようになるといわれています。特に人生の中年期以降は、自分が若かったころには、ほとんど引きつけられていなかったことがらやものごと、より多くの時間やエネルギーを割くようになります。INFJの場合は、事実や詳細に注意を払うことや、客観的に分析を必要とすることに、より大きな楽しみを見出したりします。

あなたのタイプを効果的に用いるために

INFPは、感情と直観を指向することによって、多くの場合

- 自分と他者との日々の生活の中に、調和をもたらし、それを維持します。
- あらたな考え方や可能性を探ります。

INFPは、指向しない感覚機能と思考機能にはほとんどエネルギーを注がない傾向があります。そのため、それらの機能が未開拓の場合が多く、それらが有効かもしれない状況で使用するとき、適切に機能しないことがあります。

INFPは、

- 感情機能に頼りすぎると、意思決定の落とし穴や賛否両論の両サイドのみかた、そして論理的な意味あいを見逃すことになりがちです。
- あまりに直観に偏重すると、関係する重要な事実や詳細そして、過去の体験から学べたはずのことを見逃すことがあります。

しかし、そもそも、一人ひとりの指向とは、その人の生活の中で、自然な方法で発達するといわれています。そして、人々は、多くの場合、年齢を重ねる過程で、自分にとってなじみのない心の部分に興味を持ち、自然と使うようになるといわれています。特に人生の中年期以降は、自分が若かったころには、ほとんど引きつけられていなかったことがらやものごと、より多くの時間やエネルギーを割くようになります。INFPの場合、論理だった分析や決定を必要とされる場面や、あらたなやり方を見出さねばならないときに、大きな楽しみを見出したりします。

あなたのタイプを効果的に用いるために

ENFPは、直観と感情を指向することによって、多くの場合

- あらたな考え方や可能性を探ります。
- 自分と他者との日々の生活の中に、調和をもたらします。

ENFPは、指向しない感覚機能と思考機能にはほとんどエネルギーを注がない傾向があります。そのため、それらの機能が未開拓の場合が多く、それらが有効かもしれない状況で使用するときに、適切に機能しないことがあります。

ENFPは、

- あまりに直観に偏重すると、関係する重要な事実や詳細そして、過去の体験から学べたはずのことに見逃すことがあります。
- 感情機能に偏重している場合、意思決定の落とし穴や賛否両論の両サイドのみかた、そして論理的な意味あいを見逃すこととなります。

しかし、そもそも、一人ひとりの指向とは、その人の生活の中で、自然な方法で発達するといわれています。そして、人々は、多くの場合、年齢を重ねる過程で、自分にとってなじみのない心の部分に興味を持ち、自然と使うようになるといわれています。特に人生の中年期以降は、自分が若かったころには、ほとんど引きつけられていなかったことがらやものごとに、より多くの時間やエネルギーを割くようになります。ENFPの場合、事実や詳細に注意を払うことがらや、客観的に分析を必要とすることに、より大きな楽しみを見出したりします。

あなたのタイプを効果的に用いるために

ENFJは、感情と直観を指向することによって、多くの場合

- 自分と他者との日々の生活の中に、調和をもたらし、それを維持します。
- あらたな考え方や可能性を探ります。

ENFJは、指向しない感覚機能と思考機能にはほとんどエネルギーを注がない傾向があります。そのため、それらの機能が未開拓の場合が多く、それらが有効かもしれない状況で使用するとき、適切に機能しないことがあります。

ENFJは、

- 感情機能に頼りすぎると、意思決定の落とし穴や賛否両論の両サイドのみかた、そして論理的な意味あいを見逃すことになり得るでしょう。
- あまりに直観に偏重すると、関係する重要な事実や詳細そして、過去の体験から学べたはずのことを見逃すことがあります。

しかし、そもそも、一人ひとりの指向とは、その人の生活の中で、自然な方法で発達するといわれています。そして、人々は、多くの場合、年齢を重ねる過程で、自分にとってなじみのない心の部分に興味を持ち、自然と使うようになるといわれています。特に人生の中年期以降は、自分が若かったころには、ほとんど引きつけられていなかったことがらやものごとに、より多くの時間やエネルギーを割くようになります。ENFJの場合、論理だった分析や決定を必要とされる場面や、あらたなやり方を見出さねばならないときに、大きな楽しみを見出したりします。

あなたのタイプを効果的に用いるために

INTJは、直観と思考を指向することによって、多くの場合

- あらたな考え方や可能性を探ります。
- そしてそれらをもとに、論理的な結論に達します。

INTJは、指向しない感覚機能と感情機能にはほとんどエネルギーを注がない傾向があります。そのため、それらの機能が未開拓の場合が多く、それらが有効かもしれない状況で使用するとき、適切に機能しないことがあります。

INTJは、

- あまりに直観に偏重すると、関係する重要な事実や詳細そして、過去の体験から学べたはずのことに見逃すことがあります。
- 思考機能に偏重している場合、人をほめるべきときにそうすることを忘れ、自分の意思決定が他者に及ぼす影響に気づかないことがあります。

しかし、そもそも、一人ひとりの指向とは、その人の生活の中で、自然な方法で発達するといわれています。そして、人々は、多くの場合、年齢を重ねる過程で、自分にとってなじみのない心の部分に興味を持ち、自然と使うようになるといわれています。特に人生の中年期以降は、自分が若かったころには、ほとんど引きつけられていなかったことがらやものごとにより多くの時間やエネルギーを割くようになります。INTJの場合、事実や詳細に注意を払うことがらや、個人的な結びつきや人間関係の深まりに、より大きな楽しみを見出したりします。

あなたのタイプを効果的に用いるために

INTPは、思考と直観を指向することによって、多くの場合

- 論理的な結論に達します。
- あらたな考え方や可能性を探ります。

INTPは、指向しない感覚機能と感情機能にはほとんどエネルギーを注がない傾向があります。そのため、それらの機能が未開拓の場合が多く、それらが有効かもしれない状況で使用するとき、適切に機能しないことがあります。

INTPは、

- 思考機能に偏重している場合、人をほめるべきときにそうすることを忘れ、自分の意思決定が他者に及ぼす影響に気づかないことがあります。
- あまりに直観に偏重すると、関係する重要な事実や詳細そして、過去の体験から学べたはずのことを見逃すことがあります。

しかし、そもそも、一人ひとりの指向とは、その人の生活の中で、自然な方法で発達するといわれています。そして、人々は、多くの場合、年齢を重ねる過程で、自分にとってなじみのない心の部分に興味を持ち、自然と使うようになるといわれています。特に人生の中年期以降は、自分が若かったころには、ほとんど引きつけられていなかったことがらやものごとに、より多くの時間やエネルギーを割くようになります。INTPの場合、個人的な結びつきや人間関係の深まり、そして事実や詳細に注意を払うことが必要とされることがらに、より大きな楽しみを見出したりします。

あなたのタイプを効果的に用いるために

ENTPは、直観と思考を指向することによって、多くの場合

- あらたな考え方や可能性を探ります。
- そしてそれらをもとに、論理的な結論に達します。

ENTPは、指向しない感覚機能と感情機能にはほとんどエネルギーを注がない傾向があります。そのため、これらの機能が未開拓の場合が多く、それらが有効かもしれない状況で使用するときに、適切に機能しないことがあります。

ENTPは、

- あまりに直観に偏重すると、関係する重要な事実や詳細そして、過去の体験から学べたはずのことを見逃すことがあります。
- 思考機能に偏重している場合、人をほめるべきときにそうすることを忘れ、自分の意思決定が他者に及ぼす影響に気づかないことがあります。

しかし、そもそも、一人ひとりの指向とは、その人の生活の中で、自然な方法で発達するといわれています。そして、人々は、多くの場合、年齢を重ねる過程で、自分にとってなじみのない心の部分に興味を持ち、自然と使うようになるといわれています。特に人生の中年期以降は、自分が若かったころには、ほとんど引きつけられていなかったことがらやものごとにより多くの時間やエネルギーを割くようになります。ENTPの場合、事実や詳細に注意を払うことがらや、個人的な結びつきや人間関係の深まりに、より大きな楽しみを見出したりします。

あなたのタイプを効果的に用いるために

ENTJは、思考と直観を指向することによって、多くの場合

- 論理的な結論に達します。
- あらたな考え方や可能性を探ります。

ENTJは、指向しない感覚機能と感情機能にはほとんどエネルギーを注がない傾向があります。そのため、それらの機能が未開拓の場合が多く、それらが有効かもしれない状況で使用するとき、適切に機能しないことがあります。

ENTJは、

- 思考機能に偏重している場合、人をほめるべきときにそうすることを忘れ、自分の意思決定が他者に及ぼす影響に気づかないことがあります。
- あまりに直観に偏重すると、関係する重要な事実や詳細そして、過去の体験から学べたはずのことを見逃すことがあります。

しかし、そもそも、一人ひとりの指向とは、その人の生活の中で、自然な方法で発達するといわれています。そして、人々は、多くの場合、年齢を重ねる過程で、自分にとってなじみのない心の部分に興味を持ち、自然と使うようになるといわれています。特に人生の中年期以降は、自分が若かったころには、ほとんど引きつけられていなかったことがらやものごとに、より多くの時間やエネルギーを割くようになります。ENTJの場合、個人的な結びつきや人間関係の深まり、そして事実や詳細に注意を払うことが必要とされることがらに、より大きな楽しみを見出したりします。

あなた自身をより発揮するための各ファセットの役割

状況によって、あなたが指向しない心を使用せざるを得ないときがあります。各ファセットは、そんな自分にとって自然でないアプローチをあえて使うときに指針を与えてくれます。まずは状況を査定し、どのファセットを用いるのが適切か、そしてそのファセットのどちらの極のほうを用いるのがより適切か、特定することから始めてください。

- もしあなたが、その適切と判断した指標において、1つあるいは1つ以上のファセットが、アウトオブプリファレンスであるなら、まずはアウトオブプリファレンスのファセットと関係する行動や振る舞いを用いるようにしてください。
- もし、適切と判断した指標におけるあなたの結果がミッドゾーンであるなら、今度はどちらの極のほうが、その場の状況により適切か決定し、その極と関係する行動や振る舞いを用いるようにしてください。
- いったん、より良い対応をとることができた場合、自分の成長のために、あなたの快適なやりかたにもどることはあえてしないようにしてください。

次に二つの例を示します。

- あなたが、もしあなたの自然な情報収集のスタイル(感覚機能指向)が適切でないかもしれない状況にある場合、あなたの具象的なアプローチ(具象指標のインプリファレンス)を修正し、その対極の抽象指標のアプローチを用いて、事実の情報の意味および含意を考慮してみましょう。

次に二つの例を示します。

- あなたが、もしあなたの自然な情報収集スタイル(感覚機能指向)が適切でないかもしれない状況にある場合、具象的-抽象的な両アプローチ(ミッドゾーン)を用いて、現実問題どちらのほうがよりよい情報を得られるかを検討してみましょう。それは、事実それ自体に焦点を当て(具象指標)、それら自体に意味がありうるのかの可能性を見る(抽象指標)という方法となります。

次に二つの例を示します。

- もしあなたが、あなたの自然な情報収集スタイル(感覚機能指向)が適切でないかもしれない状況にある場合、最も重要な意味を見出すために、抽象的なアプローチ(抽象指標のアウトオブプリファレンス)を用いてみましょう。

次に二つの例を示します。

- もしあなたの自然な情報収集スタイル(直観機能指向)が適切でないかもしれない状況にある場合は、最も重要な事実に着実に焦点があうために、具象的なアプローチ(具象指標のアウトオブプリファレンス)を用いてみてください。

次に二つの例を示します。

- もしあなたが、あなたの自然な情報収集スタイル(直観機能指向)が適切でないかもしれない状況にある場合、具象的-抽象的な両アプローチ(ミッドゾーン)を用いて、現実問題どちらのほうがよりよい情報を得られるかを検討してみましょう。それは、事実それ自体に焦点を当て(具象指標)、それら自体に意味がありうるかの可能性を見る(抽象指標)という方法となります。

次に二つの例を示します。

- もし、あなたが、あなたの自然な情報収集スタイル(直観機能指向)が適切でないかもしれない状況にある場合は、逃したかもしれない重要な事実および詳細を考慮することで(具象指標)あなたの抽象的なアプローチ(抽象指標のインプリファレンス)で得られた情報を修正してみてください。

- もし、あなたが、あなたが決めた方法で物事を終える(判断的態度)のではなく状況に合わせる必要があるかもしれない状況にある場合、あなたのスケジュールにそったアプローチ(計画完遂指標のインプリファレンス)を、予期しない出来事に開かれ続ける(臨機応変指標)ことが、いまのこの特定の状況でよりよい結果につながるかもしれないと自分に言い聞かせて修正してみてください。

- あなたが決めた方法でものごとを終える(判断的態度)のではなく、状況に適応させる必要があるかもしれない状況にいる場合、計画完遂と臨機応変指標のミッドゾーンのアプローチをとり、この状況が、決めたことを維持すること(計画完遂指標)と予期しない出来事に関われ続けること(臨機応変指標)のほうがよいのか、どちらか決めてかかるのではなく、まずは状況を精査してください。

- もしあなたが、枠組みにそってものごとを終える(判断的態度指向)のではなく、状況に適応させる必要があるかもしれない状況にある場合、実際にものごとを達成するために、あなたのアウトオブプリファレンスである臨機応変指標のアプローチをとり、状況に耳を任せながら柔軟に適応する方法を試してみましょう。

- もしあなたが、あなたのやりかたでものごとをすすめる方法を(知覚的態度指向)適応させる必要があるかもしれない状況にある場合、あなたのアウトオブプリファレンスの計画完遂指標のアプローチを用いて、いくつかやらねばならないルーティンの業務を確認してみてください。

- もしあなたが、あなたのやりかたでものごとをすすめる方法を(知覚的態度指向)適応させる必要があるかもしれない状況にある場合、あなたの計画完遂指標と臨機応変指標のミッドゾーンのアプローチを用いて、決まったことをそのまま維持することが必要か、または状況に身を任せて対応するほうがよいのか、状況を精査してみましょう。

- もしあなたがあなたのやりかたでものごとをすすめていく(知覚的態度)方法を適応させる必要があるかもしれない状況にある場合、この状況では、計画遂行指標のアプローチをとるほうが、よりよい成果が出ると、自分にいきかせて、あなたのインプリファレンスである臨機応変指標のアプローチを修正してみてください。

STEP I™とSTEP II™の結果を統合してとらえた場合の見方

STEP IとSTEP IIを総合すると、あなたのタイプは、

STEP I™とSTEP II™の結果を統合してとらえた場合の見方

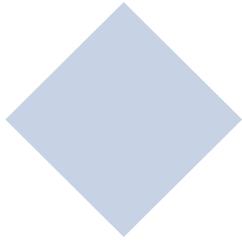
STEP Iの報告されたタイプとSTEP IIのアウトオブプリファレンスファセットの結果を組み合わせると、あなたのタイプは、

STEP I™とSTEP II™の結果を統合してとらえた場合の見方

STEP Iの検証されたタイプ(ベストフィットタイプ)とSTEP IIのアウトオブプリファレンスファセットを組み合わせると、あなたのタイプは、

STEP I™とSTEP II™の結果を統合してとらえた場合の見方

STEP Iの検証されたタイプとSTEP IIのファセットの結果を総合すると、あなたのタイプは、



あなたの結果には、MBTIの指向に関連したファセットすべてがインプリファレンスだったか、あるいはミッドゾーンのファセットが数件ありました。もしあなたのSTEP I報告タイプとSTEP IIファセットがほとんどインプリファレンスの場合、あなたにはあなたのMBTIのタイプの特徴のほとんどが備わっているといえるでしょう。そのため、あなたが指向するタイプにおけるあなたの個人的な独自性は、STEP IIの指標では説明できなかったと思われます。

あなたの結果には、MBTIの指向に関連したファセットすべてがインプリファレンスだったか、あるいはミッドゾーンのファセットが数件ありました。STEP IIファセットがほとんどインプリファレンスであった場合、あなたはあなたが指向するMBTIのタイプの特徴のほとんどを備えているといえます。そのため、あなたが指向するタイプにおけるあなたの個人的な独自性は、STEP IIの指標では説明できなかったと思われます。

このレポートの情報をすべて読み、あなたのことが説明されていないと感じた場合、もしかしたら、MBTIのタイプ自体が異なっている場合と、指向するファセットが異なっている可能性があります。あなたが、自分に最もフィットするベストフィットタイプを見つけるためには、

- MBTIの有資格者の更なる支援を受けながら、自分にフィットしていないかもしれない4指標と、ファセットにおけるミッドゾーンの指標に着目してみてください。
- そして、結果の反対の指向であった場合のタイプ記述を読んでみてください。
- MBTI有資格者に質問をしたり、相談したりしながら理論と自分の実際の結び付けを更に行ってみてください。
- 自分自身を客観的にとらえたときに、他者があなたがどのように見えているかについて検証してみるのもヒントとなるかもしれません。

このレポートの情報をすべて読み、あなたのことが説明されていないと感じた場合、もしかしたら、MBTIのタイプ自体が異なっている場合と、指向するファセットが異なっている可能性があります。あなたが、自分に最もフィットするベストフィットタイプを見つけるためには、

- フィットしないと思ったMBTIの指標と、いくつかのアウトオブプリファレンスの結果かミッドゾーン結果がでて
いるファセットの指標に着目してください。
- そして、結果の反対の指向であった場合のタイプ記述を読んでみてください。
- MBTI有資格者に質問をしたり、相談したりしながら理論と自分の実際の結び付けを更に行ってみてください。
- 自分自身を客観的にとらえたときに、他者があなたがどのように見えているかについて検証してみるのもヒントとなるかもしれません。

このレポートの情報をすべて読み、あなたのことが説明されていないと感じた場合、もしかしたら、MBTIのタイプ自体が異なっている場合と、指向するファセットが異なっている可能性があります。自分にもっともしっかりくるタイプ、ベストフィットタイプを見つけるために、

- じっくりこないと考えたすべてのファセットとミッドゾーンの結果がでたファセットに注目してください。
- MBTI有資格者に質問をしたり、相談したりしながら理論と自分の実際の結び付けを更に行ってみてください。
- 自分自身を客観的にとらえたときに、他者にあなたがどのように見えているかについて検証してみるのもヒントとなるかもしれません。

ものごとをより理解するためのタイプの使い方

タイプを知り、それをうまく活用することであなたの人生をより豊かにすることが可能となります。次にいくつか例をあげます。

- 人生において、あなた自身をよりよく理解できる指針となり、自分の意思決定の羅針盤にもなります。自分のタイプを知ることによって、あなたがどのような世界を認知し、どのように反応をしがちか、そしてそれらの強みと弱みを理解するのを助けてくれます。
- 他者を自分のスクリーンを通じてみるのではなく、他者そのものを理解するための羅針盤を得られます。タイプを知り、他者と異なってもよい、ということを実感できることで、自分に安心できるようになります。人の違いを、悩みの原因にしたり、ものごとの制約に捉えるのではなく、むしろ広がりのあるものと見なすことが可能となります。
- より広い視野を得ることができます。タイプというレンズを通じて、あなた自身や他の人を見ることは、他の視点を偏見なく評価する助けになります。そして、あなたの見方やあなたの考え方がただ一つの正解では必ずしもないということが、行き詰まりを未然に防いでくれます。いつも正しい、あるいはいつも間違っている見方は存在しないということが見え、常に視野を広く保つことが可能となります。

このレポートを最後まで是非熟読してください。そして日常生活の中で、自分自身や他者をタイプという視点から観察することで、人の多様性がより豊かに捉えられ、建設的に用いることを可能にします。

あなたの報告結果の概要

STEP 1™:あなたの4文字タイプ

ISTJを指向する人は、誠実で、もの静かで、一度着手したことは確実に遂げる傾向があります。すべてが整理整頓され正確であるように取り計らいます。実際的で、整然としていて、事実に着目しそれを蓄え、現実的かつ論理的にものごとをとらえます。ISTJを指向する人は、何をすべきか気づき、それを一度やるときめたら反対があっても、横道にそれたりせず、やり遂げます。

あなたの報告結果の概要

STEP 1™:あなたの4文字タイプ

ISTPを指向する人は、冷静な観察者で、もの静かで、内に秘めています。自分と物事を客体的に興味を示し、観察し分析します。努力の浪費を回避するために、効率を求め解決の近道を見出します。どのようにまたなぜものが機能するのかについての因果関係に関心を持ち、筋道だった原理原則をもとに事実を整理して理解することに興味を持ちます。

あなたの報告結果の概要

STEP 1™:あなたの4文字タイプ

ESTPを指向する人は、格式ばらず、状況に対して臨機応変で、即行動に移す現実主義者であることが多くあります。いまここでおきている問題に即対処し解決することを好みます。将来何が起きるかについて心配するよりも、いまこの瞬間瞬間におきていることを楽しみます。説明をするより行動するほうが快適です。実際にものを分解したり、組み立てたりすることを楽しみます。

あなたの報告結果の概要

STEP 1™:あなたの4文字タイプ

ESTJを指向する人は、筋道だってものごとを考え、現実的で実践的で、事実に着目して効率的に動く傾向があります。自分も他者も体系だてたり、組織化することを好みます。やるときめたことは必ずやり遂げるために、自分も他者もそれぞれの役割を果たすことを期待し信頼します。実際に行動に移す際に、人そのものよりも、人の機能や課題達成や課題の進捗のほうに着目する傾向があります。ESTJを指向する人は、自分にとってわけのわからないことには興味を示しません。

あなたの報告結果の概要

STEP 1™: あなたの4文字タイプ

ISFJを指向する人は、良識的で、自分の責任を負い、静かだが、人あたりが良い傾向があります。自分の義務を果たすために忠実に働きます。ISFJを指向する人は、労をいとわず、徹底して正確であるために必要な詳細をひとつひとつ確認しながらものごとをすすめます。グループで行う行事や業務において、その場に安定をもたらします。大切な人や組織に忠実で、思慮深く、他者がどのように感じているか敏感で、関心がむきます。

あなたの報告結果の概要

STEP 1™:あなたの4文字タイプ

ISFPを指向する人は、控えめだが、人あたりが良く、他者や自分の気持ちに敏感で、思いやりがあり、忠実な傾向があります。自分の能力やスキルに対して謙虚で、他者に自分の見解や価値観を強要せず、対立を回避します。状況に対して臨機応変で、柔軟で、静かにものごとをすすめます。いまこの瞬間をひそかに楽しみ、他者がリラックスできるように配慮します。

あなたの報告結果の概要

STEP 1™:あなたの4文字タイプ

ESFPを指向する人は、人と率先してかかわることを好み、ものごとに熱心で、格式ばらず、まずは他者を受け容れ、そして人あたりが良い傾向があります。ほとんどすべてのものごとや人とのかかわりそのものを楽しみ、自分が自らまず楽しむことによって、他者を楽しませます。社交的で、自分の周囲で何が起きているのかいろんなできごとをそのつどそのつど瞬時に把握し、それらにすぐに関わろうとします。良識ある態度で人やものごとと接します。

あなたの報告結果の概要

STEP 1™:あなたの4文字タイプ

ESFJは、他者を思いやり、話し好きで、良心的だが、やると決めたらやり遂げ、生まれながらの協力者です。人と人との間の和が大切なため、その場に自ら調和をもたらします。ESFJを指向する人は、人と共に仕事をするのが好み、誰かが喜ぶことや良いことをしたいと考えています。励ましと賞賛が必要で、直接目に見えて人々やその人の生活に影響することを好みます。

あなたの報告結果の概要

STEP 1™: あなたの4文字タイプ

INFJは、静かに力に満ちており、熱心だが良心的で、他者を配慮する傾向があります。辛抱強く独創性をもって動きます。遂行したいと思う、より大きな目的や使命によって、動機付けられます。普遍的に役立つことをもたらすことに明確な自信があるため、それが尊重されることが多くあります。

あなたの報告結果の概要

STEP 1™: あなたの4文字タイプ

INFPは、静かで、相手の気持ちを自分の気持ちのように捉え、共感し、状況に適応しながら、忠実な傾向があります。親しくなるまで、自分の中にある深い関心ごとや自分の理想を分かち合うことはしません。ものごとを学んだり、考えたり、一人ですすめることに関心がありますが、しばしば、その過程で人とかかわりのほうに熱中することがあります。

あなたの報告結果の概要

STEP 1™:あなたの4文字タイプ

ENFPは、あたたかな熱心さがあり、活気にあふれ、想像をめぐらしながら革新的に試みるべき新しい可能性を常に見出します。あらゆる困難がおきても、すばやく案を提供し、困っている人をあらゆる手をつかって支援しようとしています。彼らは、しばしば前もって準備をすることではなく、即座に作る能力を頼みとします。

あなたの報告結果の概要

STEP 1™:あなたの4文字タイプ

ENFJを指向する人は、人と関わるのが好きで、巧みに人とやりとりし、受け止め、責任を担う傾向があります。他者が何を思い望むかに関心を持ち、その人たちの気持ちに対して配慮し、敬いながら応えます。人の集まりの中にいることを楽しみ、他者がその人の可能性を開花させたり、成長させることを喜んで支援します。

あなたの報告結果の概要

STEP 1™:あなたの4文字タイプ

INTJを指向する人は、独立心を持ち、ものごとの複雑なつながりを見出し、個性的な傾向があります。自分のなかに浮かんだ考えやビジョンによって突き動かされます。物事に対して懐疑的で、鑑識眼を持ち、断定することから、ときおり頑固になります。自分の専門知識の領域では、他者からの支援の有無に関わらず、仕組みを作り出し、組織化し、プロジェクトを実行します。

あなたの報告結果の概要

STEP 1™:あなたの4文字タイプ

INTPを指向する人は、自分も他者も物事も客体に捉え、鑑識眼をもち、解明のために論理的に分析する傾向があります。彼らは、複雑な問題を解決することが好きで、議論の欠点を容易に指摘することが必要です。自分でものごとを考えたり、解決策を見出すことに興味があるため、他者との社交やおしゃべりはどちらかという好みません。INTPを指向するひとは、対象から距離をおき、静かで、仮説を検証するようなアプローチを用いてものごとを理解することが快適と感ずます。

あなたの報告結果の概要

STEP 1™: あなたの4文字タイプ

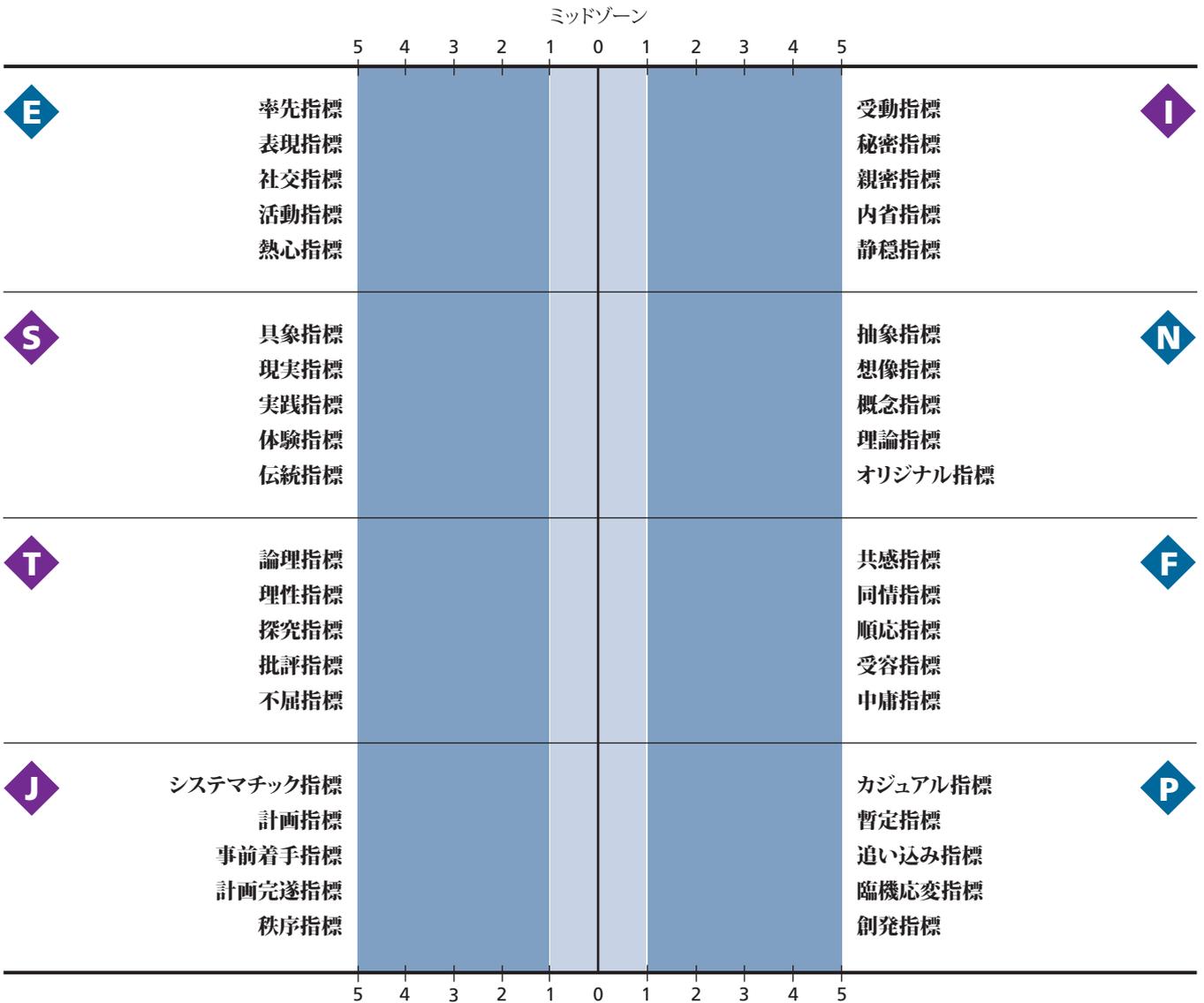
ENTPを指向する人は、理解が早く、迅速で、革新的で、多種多様なことに興味をもつ傾向があります。機敏かつ率直であり、問題の賛否両方の考え方を楽しまます。挑戦を必要とする新たな難しい問題の解決に対しては資源が豊富だが、ルーチン作業を怠る傾向があります。自分が望むものに対して論理的に説明可能な理由を見つけることに熟練しています。

あなたの報告結果の概要

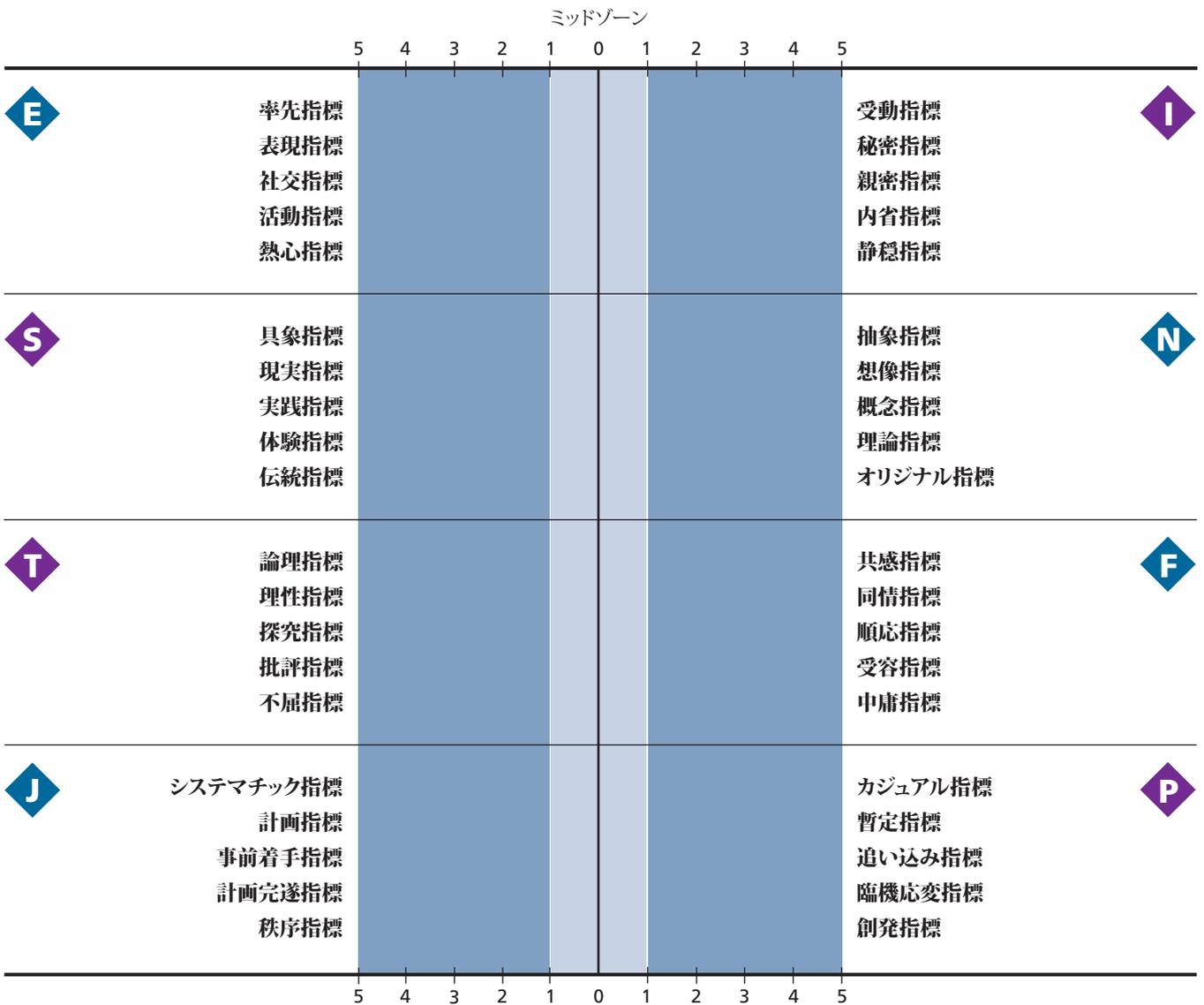
STEP 1™:あなたの4文字タイプ

ENTJを指向する人は、ものごとを決めることに毅然としており、かつ率直である傾向があります。人々やプロジェクトに対して率先して責任を負います。まずは、ものごとを論理的に分析して批評する傾向があります。ENTJを指向する人は、戦略的な計画に基づいて構造だって完遂させます。彼らは、考えることより行動を好み、人々よりタスクに、より多くの注意を払います。

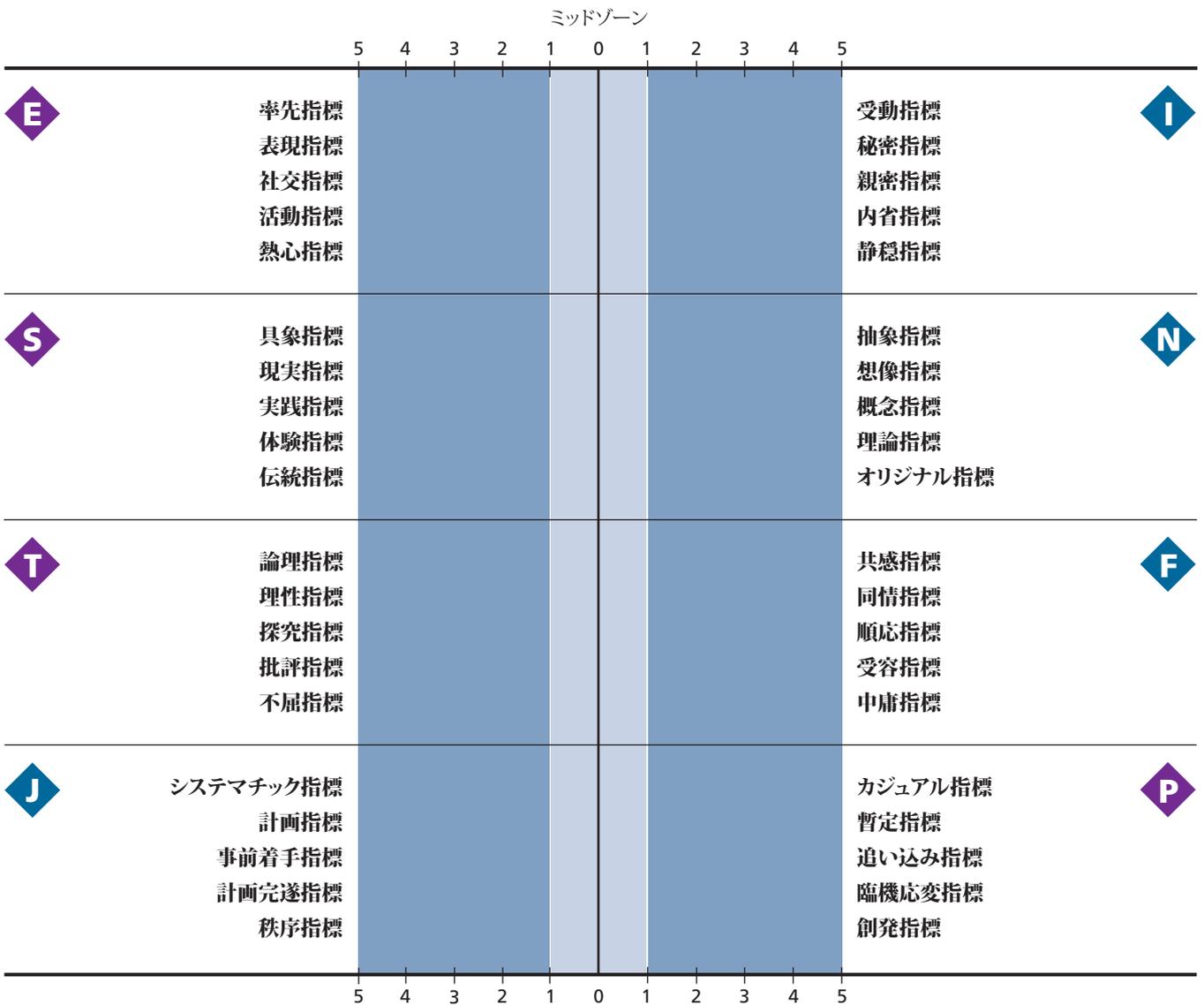
STEP II™:20のファセットのあなたの結果



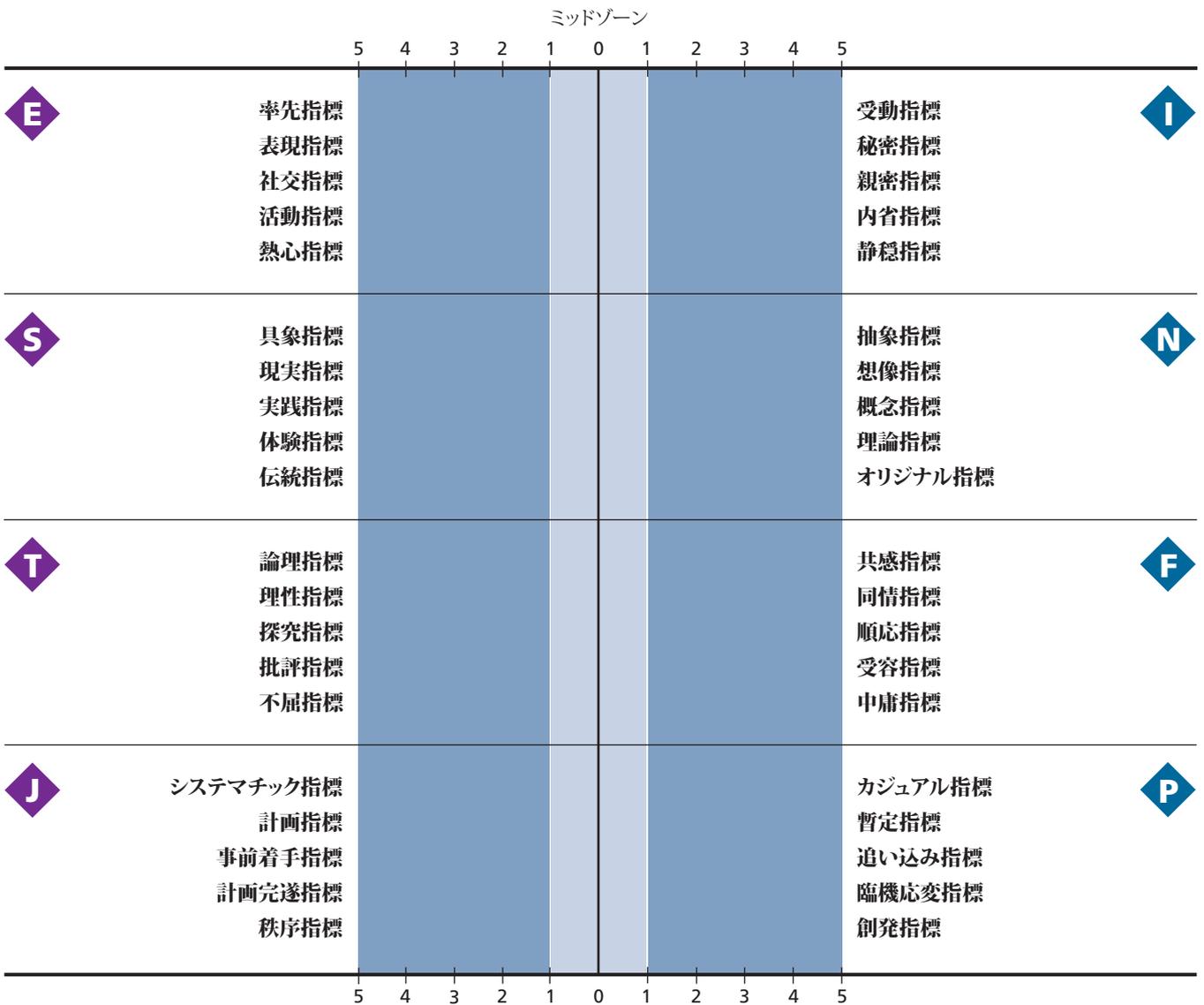
STEP II™:20のファセットのあなたの結果



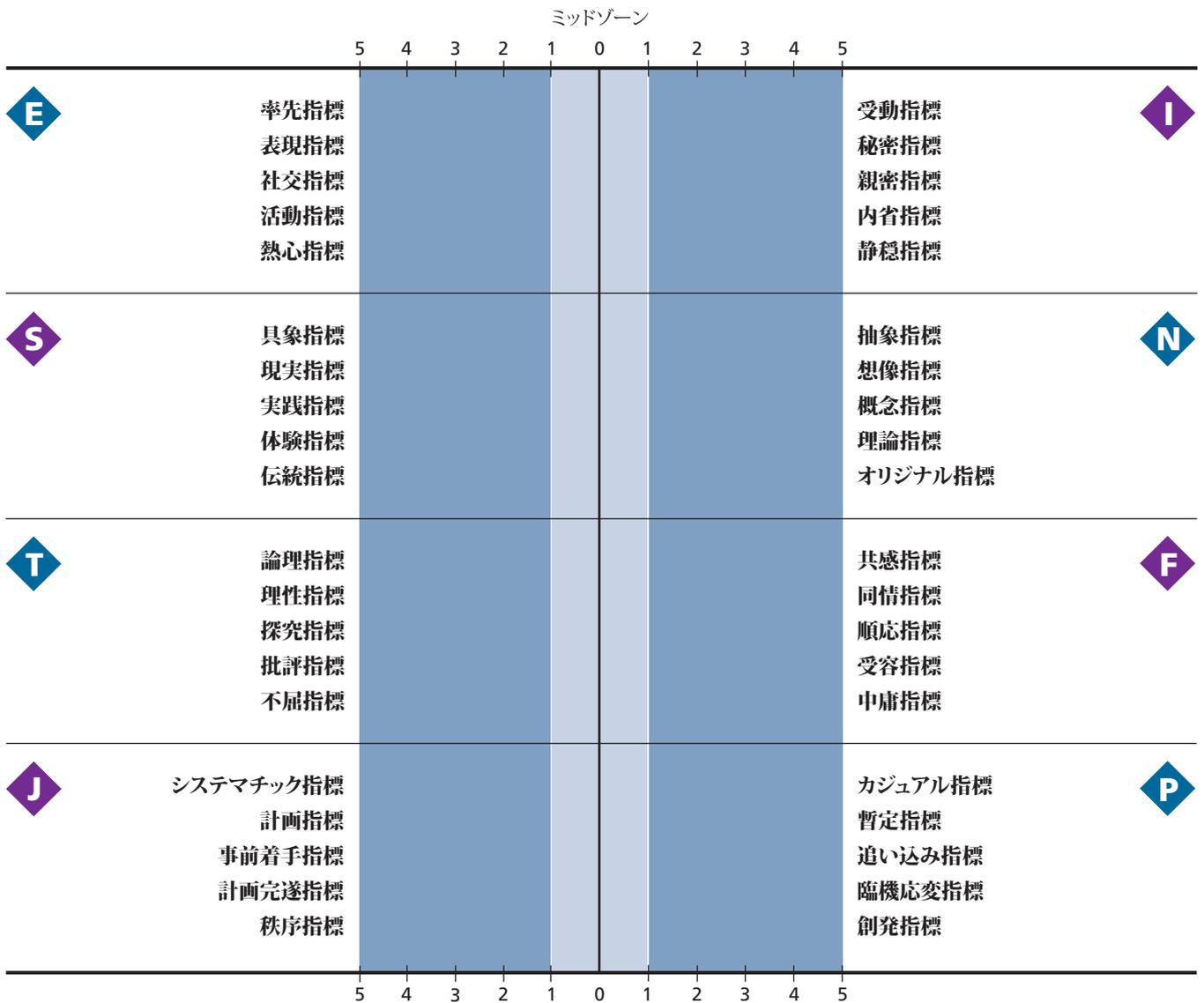
STEP II™:20のファセットのあなたの結果



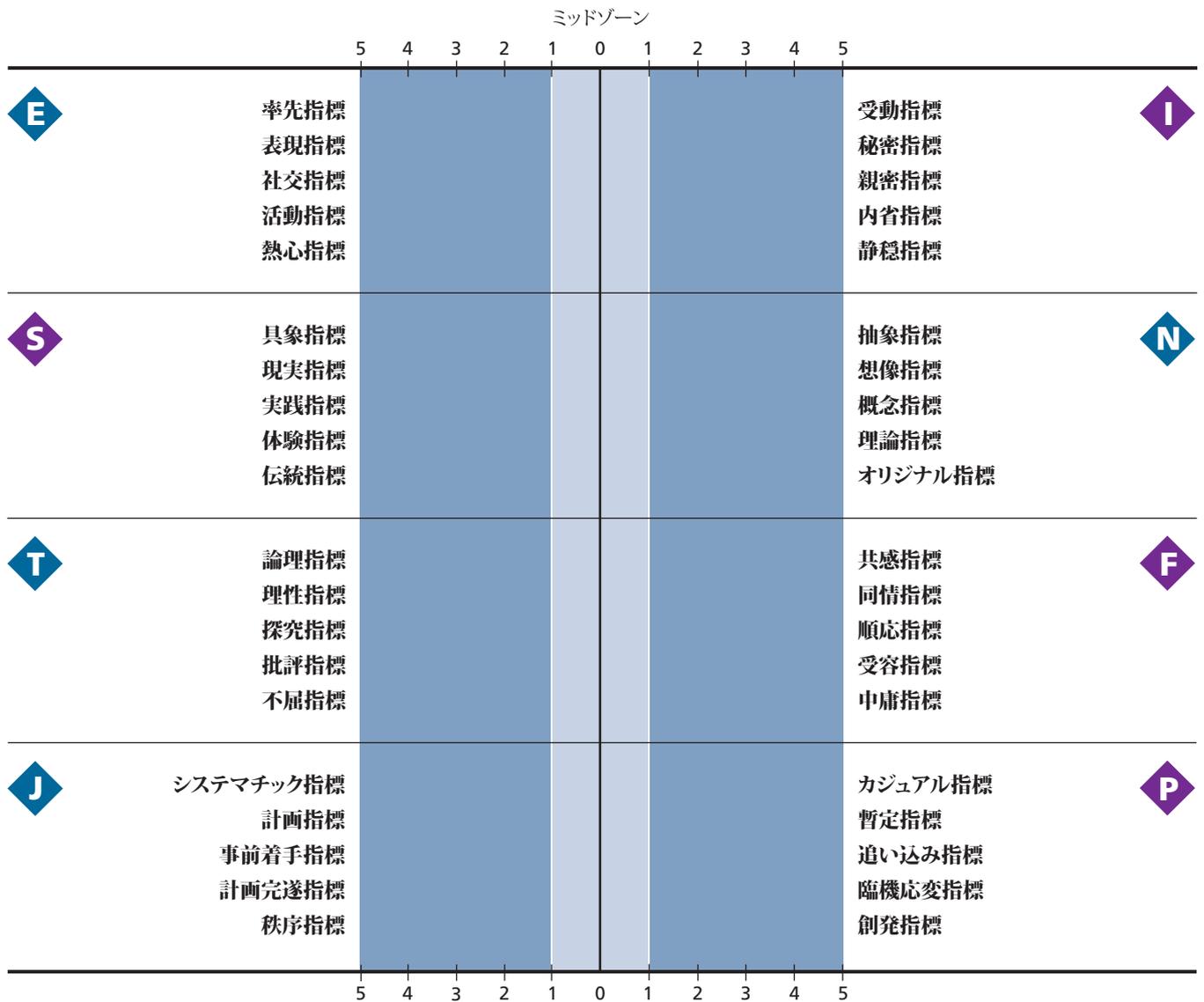
STEP II™:20のファセットのあなたの結果



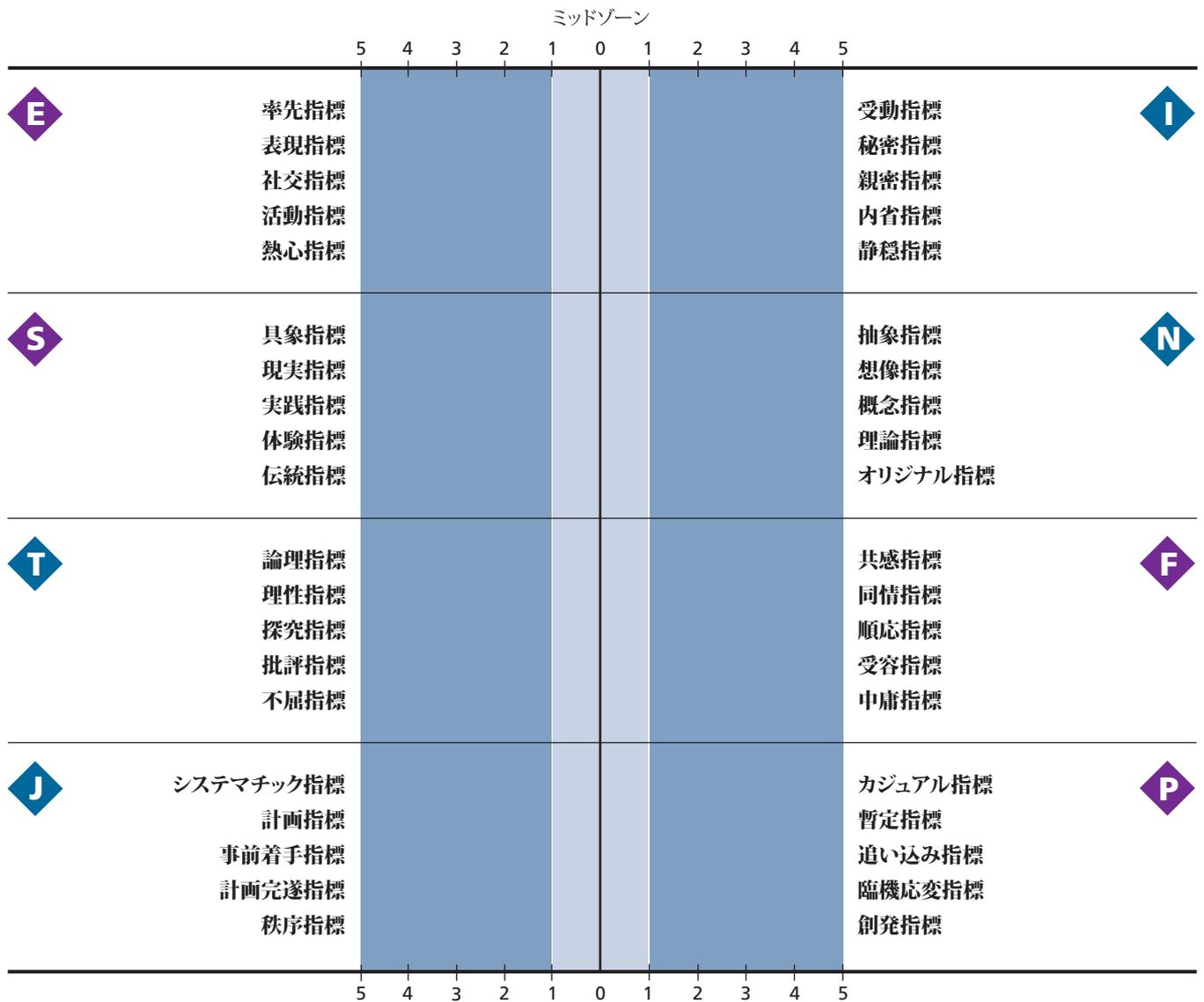
STEP II™:20のファセットのあなたの結果



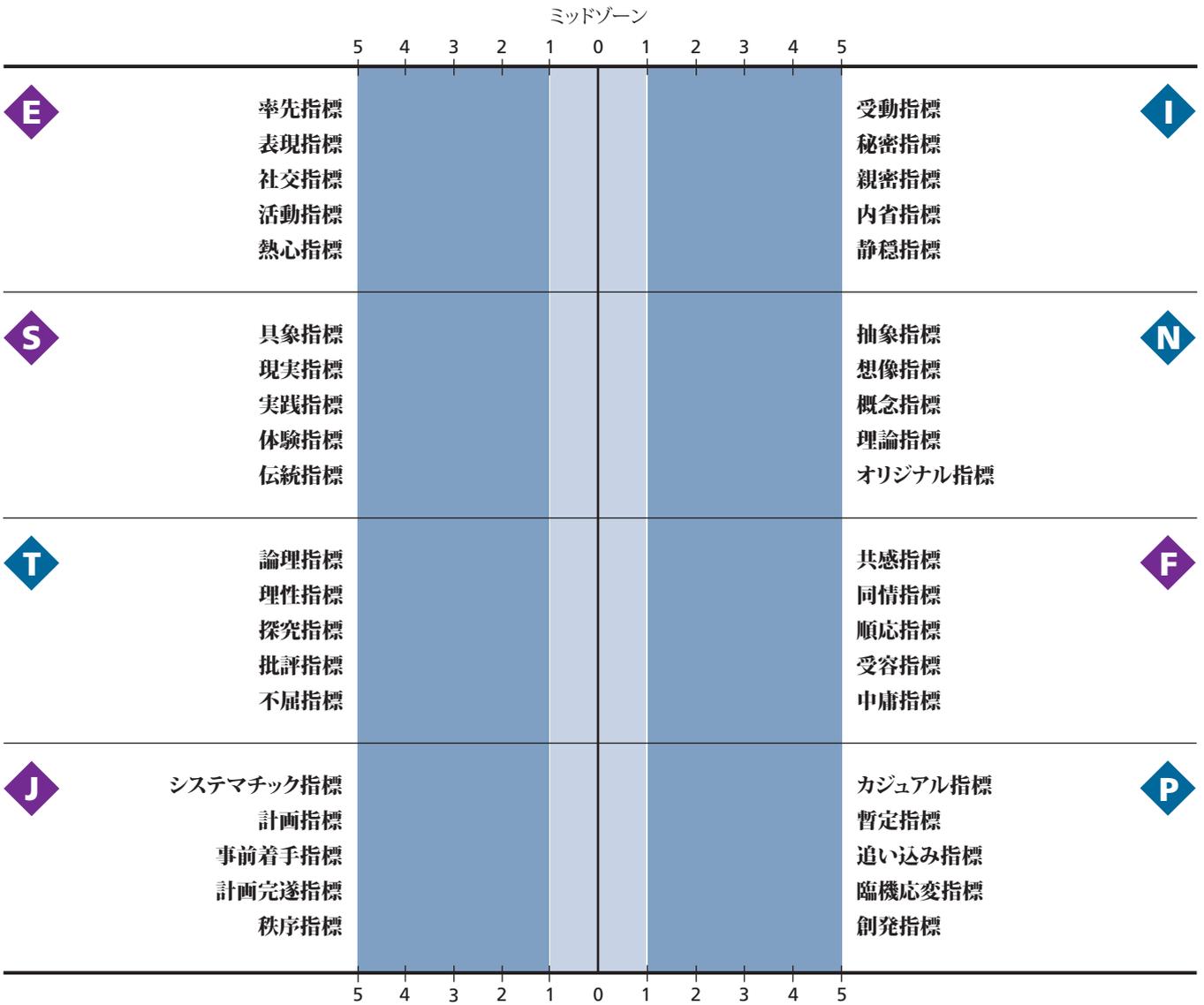
STEP II™:20のファセットのあなたの結果



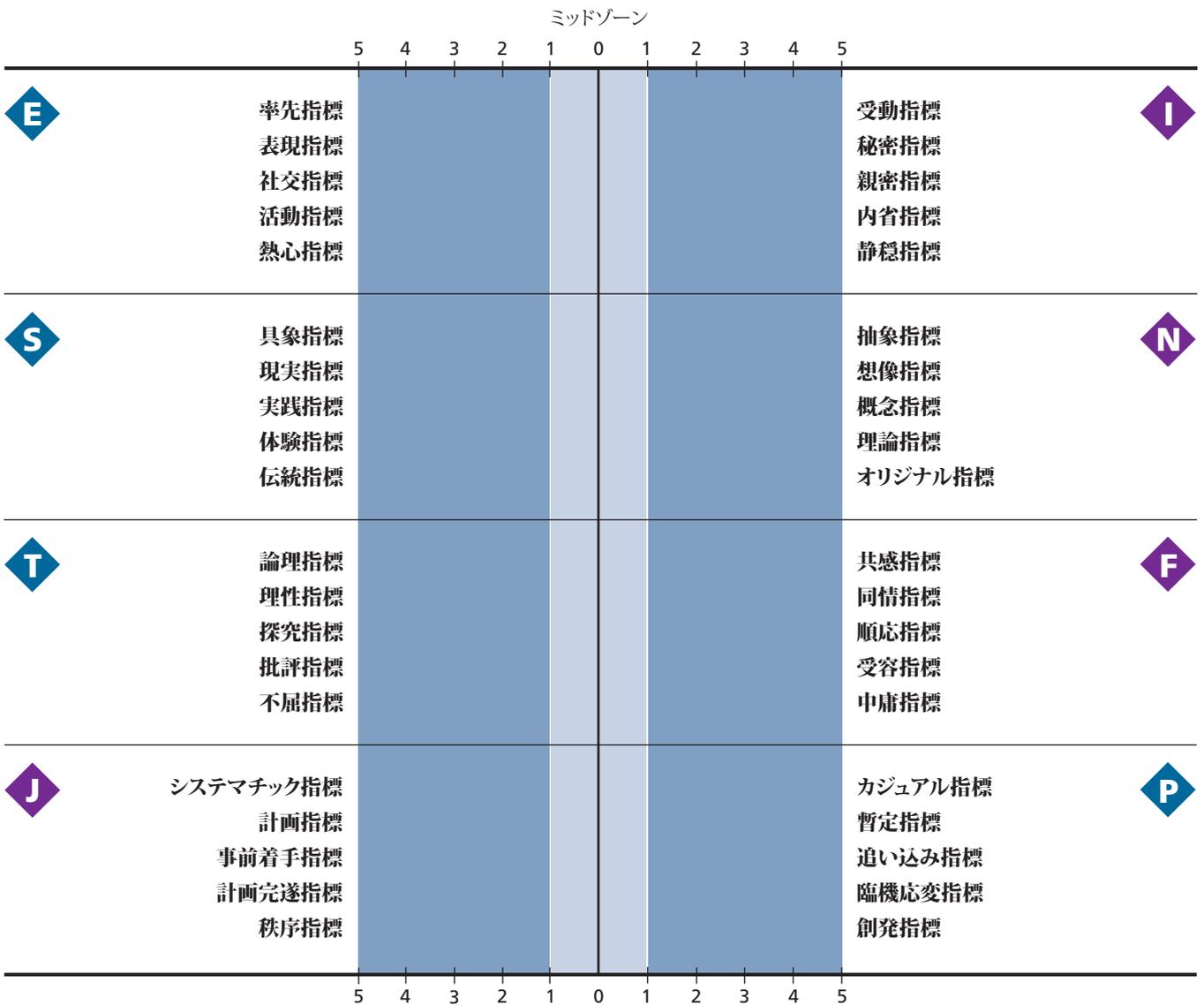
STEP II™:20のファセットのあなたの結果



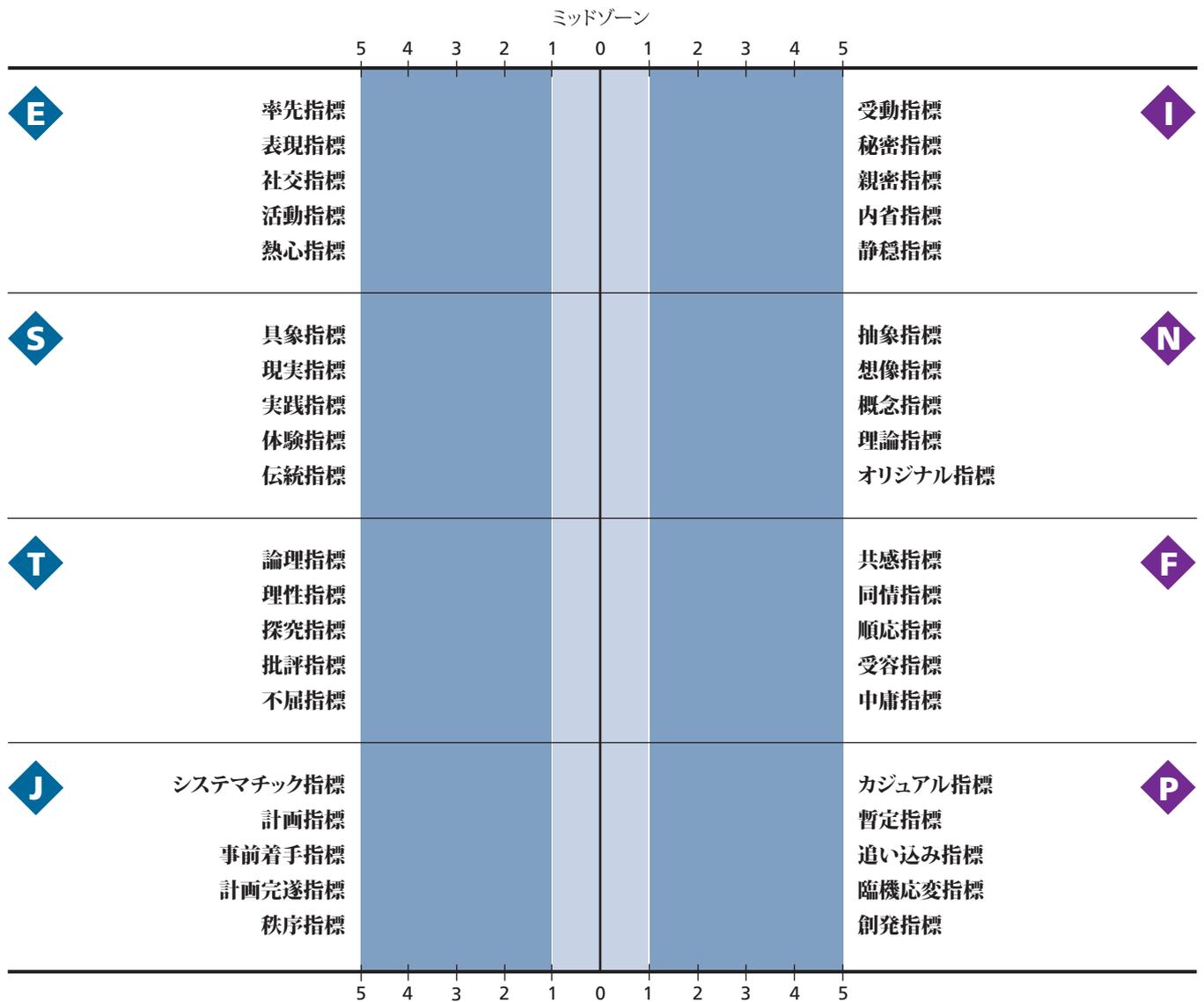
STEP II™:20のファセットのあなたの結果



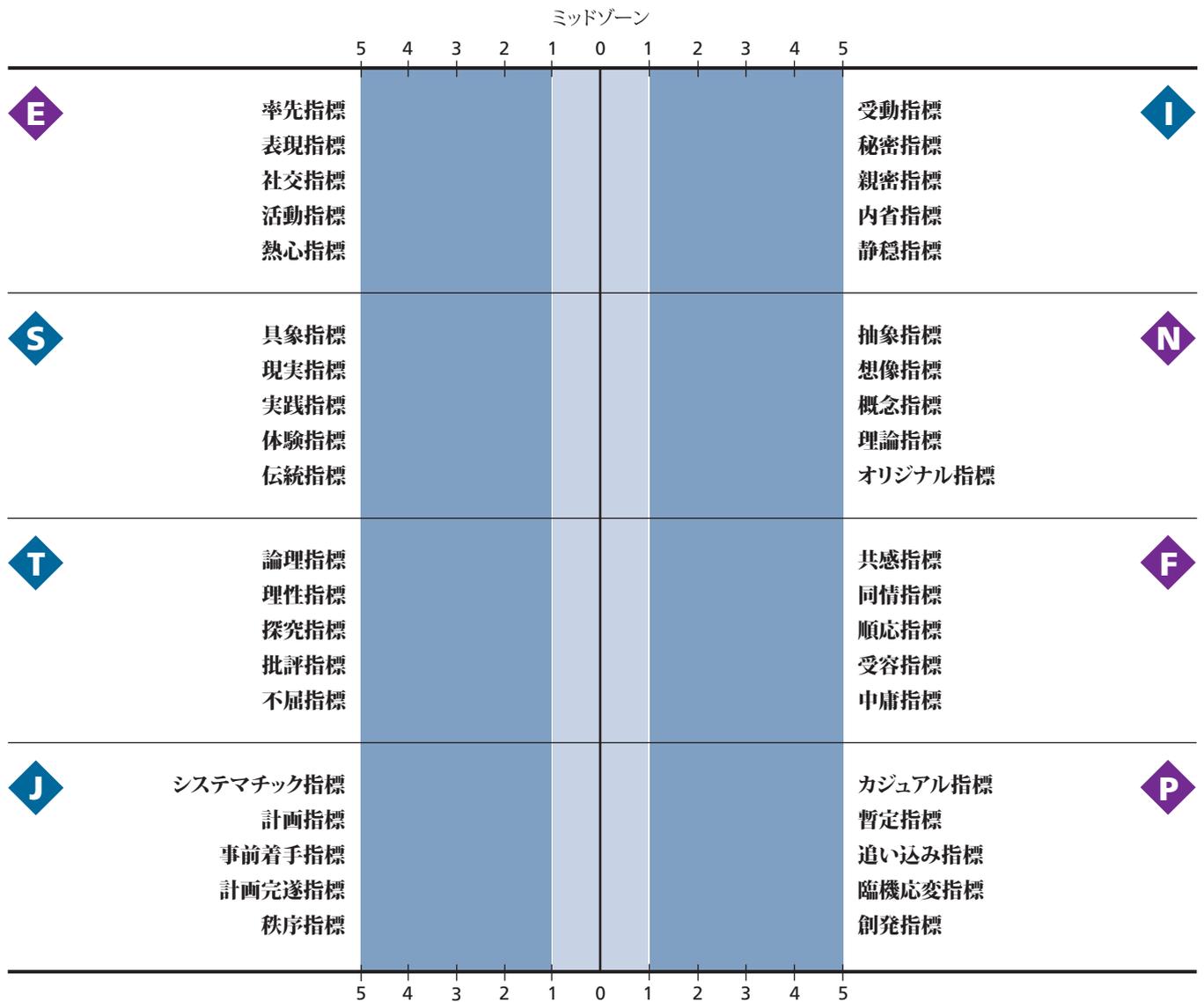
STEP II™:20のファセットのあなたの結果



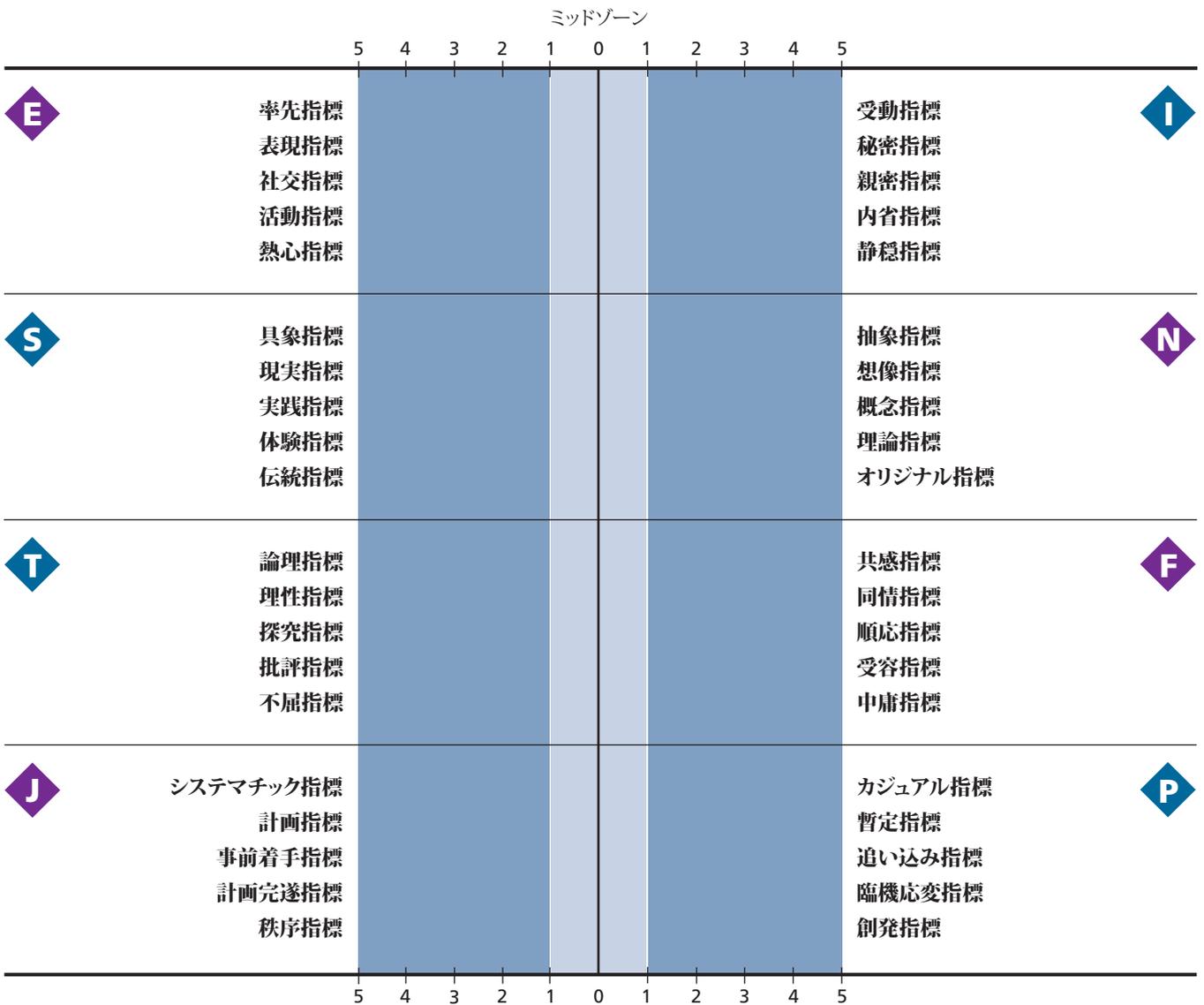
STEP II™:20のファセットのあなたの結果



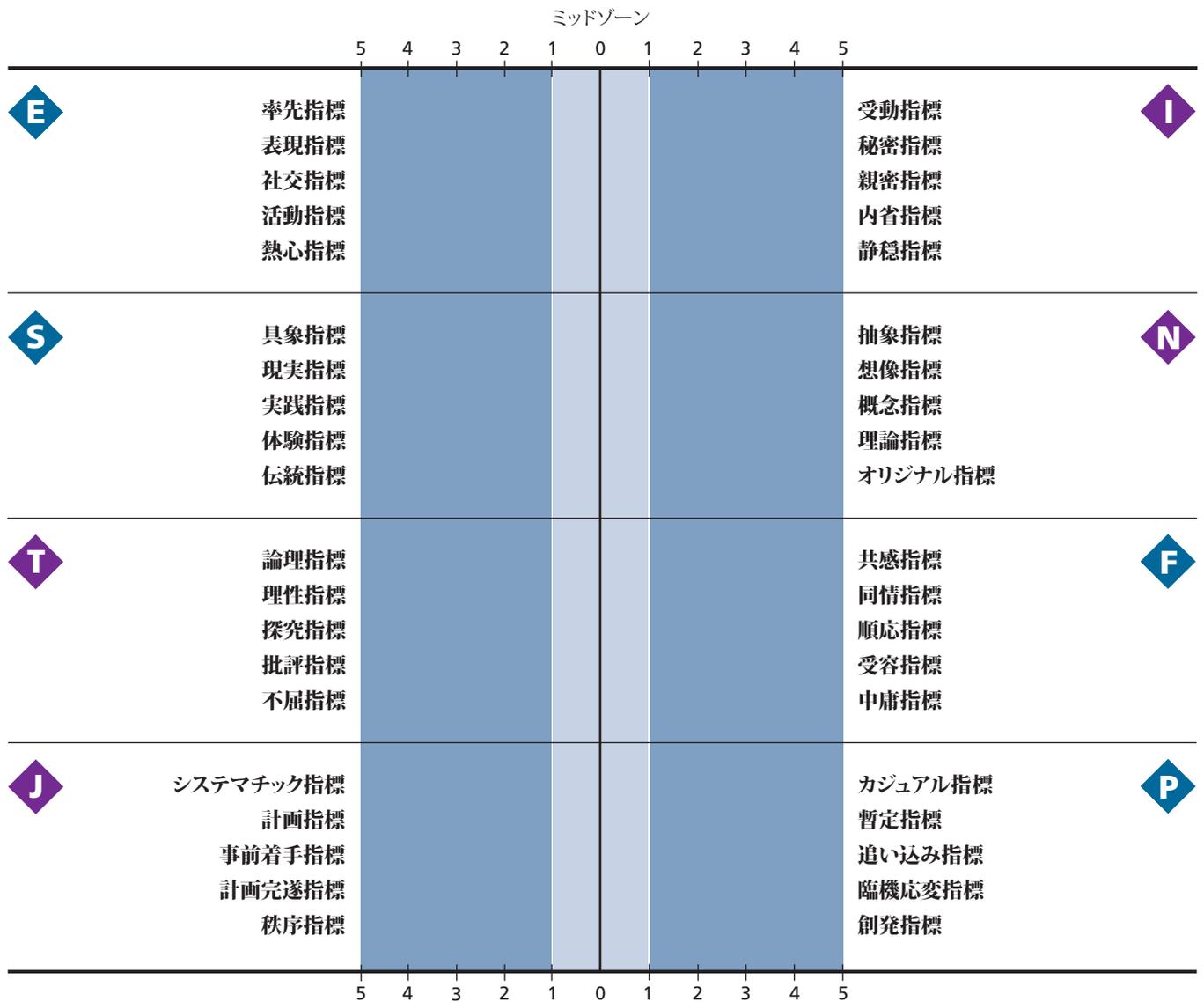
STEP II™:20のファセットのあなたの結果



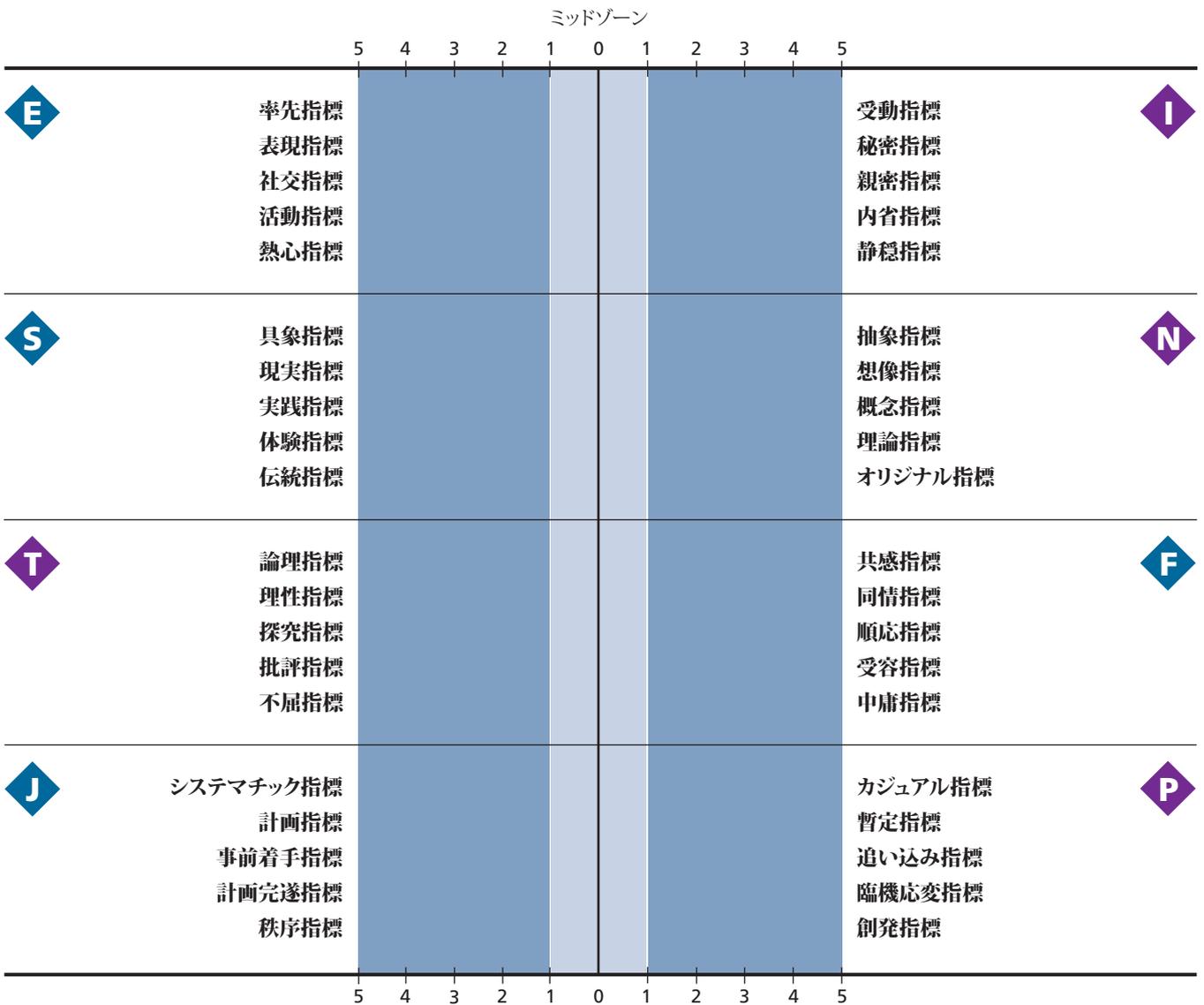
STEP II™:20のファセットのあなたの結果



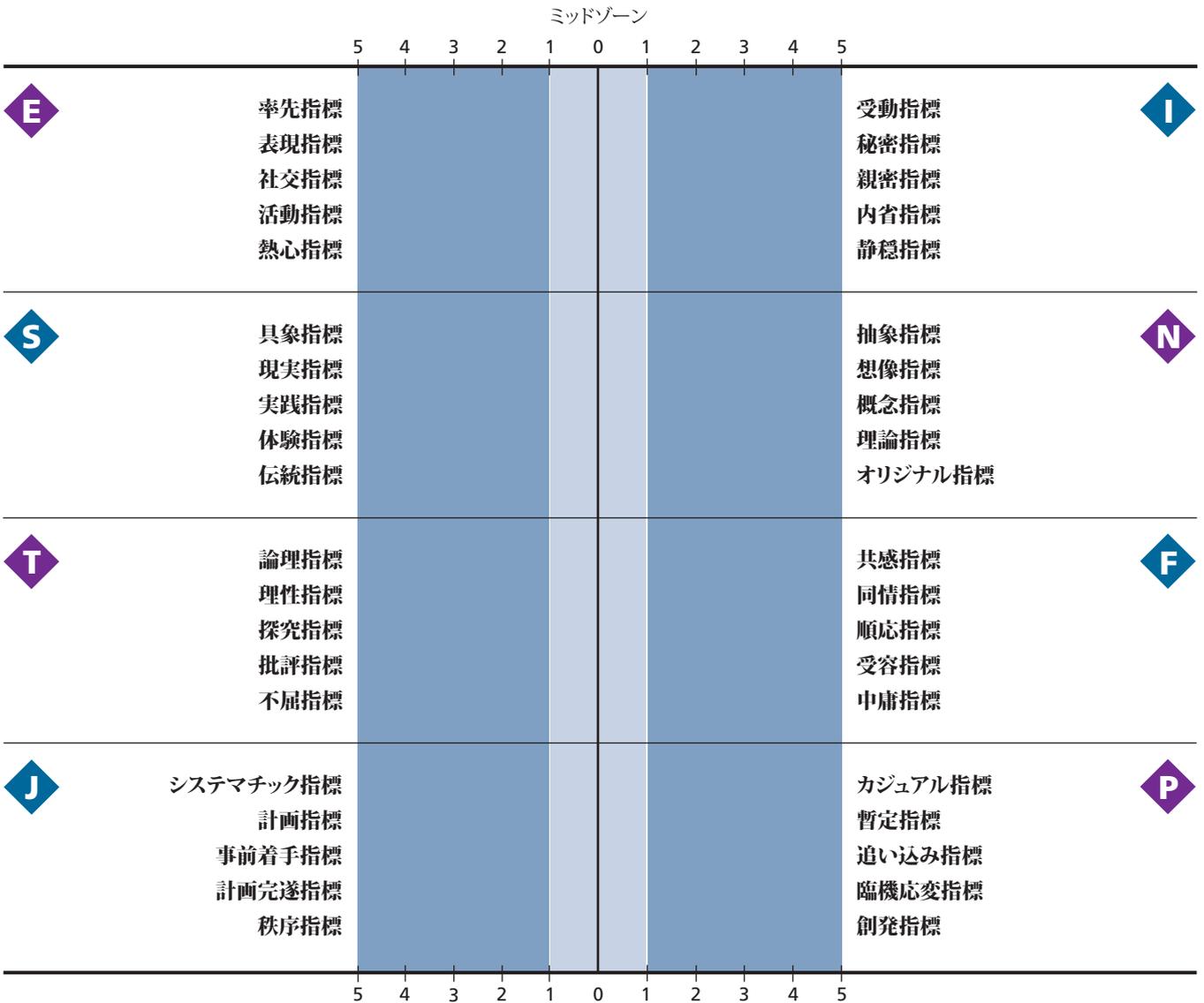
STEP II™:20のファセットのあなたの結果



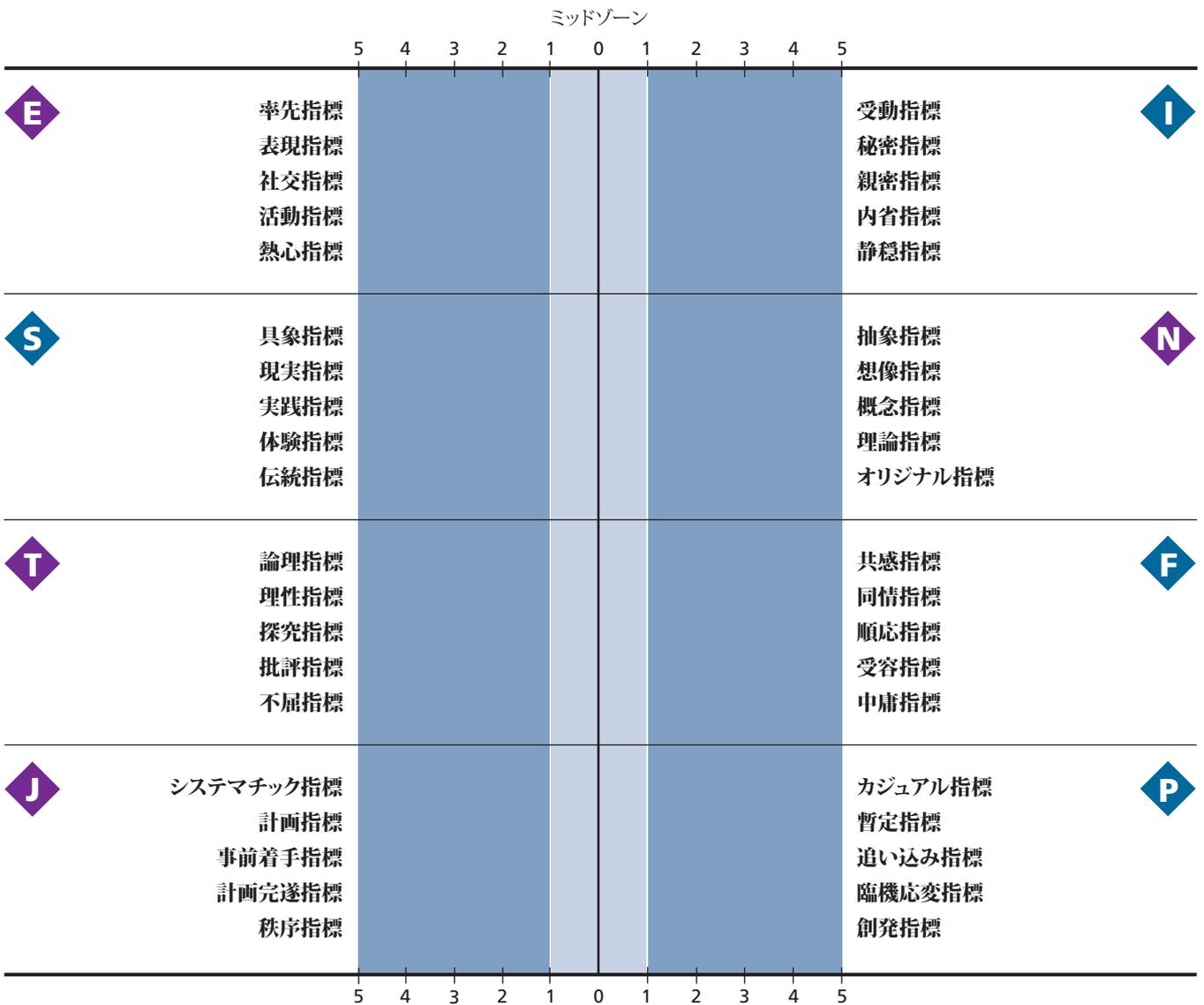
STEP II™:20のファセットのあなたの結果



STEP II™:20のファセットのあなたの結果



STEP II™:20のファセットのあなたの結果

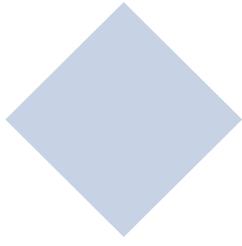


STEP IとSTEP IIを総合すると、あなたのタイプは、

STEP Iの検証されたタイプとSTEP IIのファセットの結果を総合すると、あなたのタイプは、

STEP Iの報告されたタイプとSTEP IIのアウトオブプリファレンスファセットの結果を組み合わせると、あなたのタイプは、

STEP Iの検証されたタイプ(ベストフィットタイプ)とSTEP IIのアウトオブプリファレンスファセットを組み合わせると、あなたのタイプは、





CPP, Inc. | 800-624-1764 | www.cpp.com

著作権については1ページを参照下さい。



JPP, Inc. | 03-5363-0517 | www.jpjapan.com

著作権については1ページを参照下さい。



CPP, Inc. | 800-624-1764 | www.cpp.com

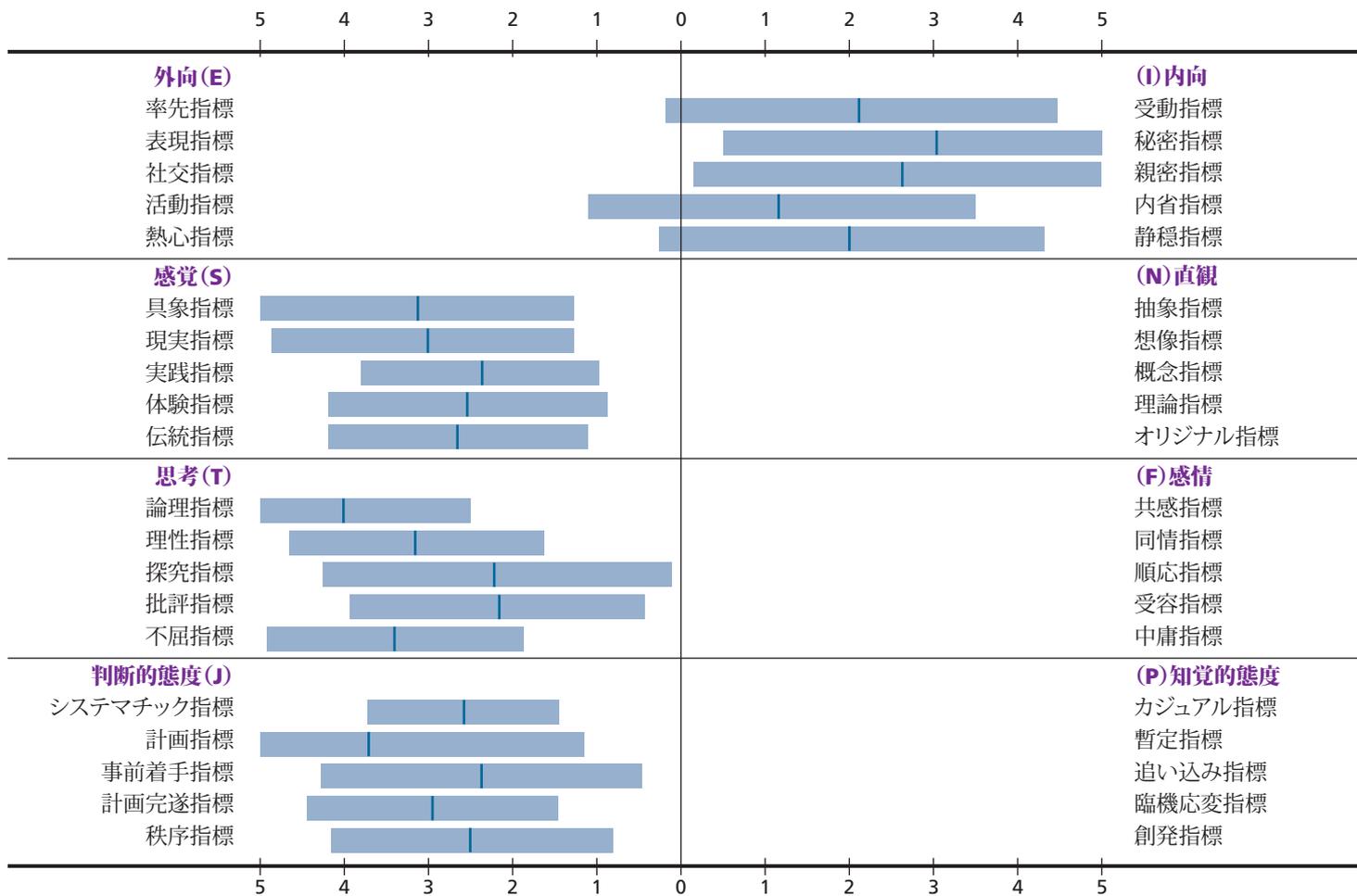
著作権については1ページを参照下さい。

認定ユーザー用資料

報告タイプのプリファレンス・クラリティ・インデックス

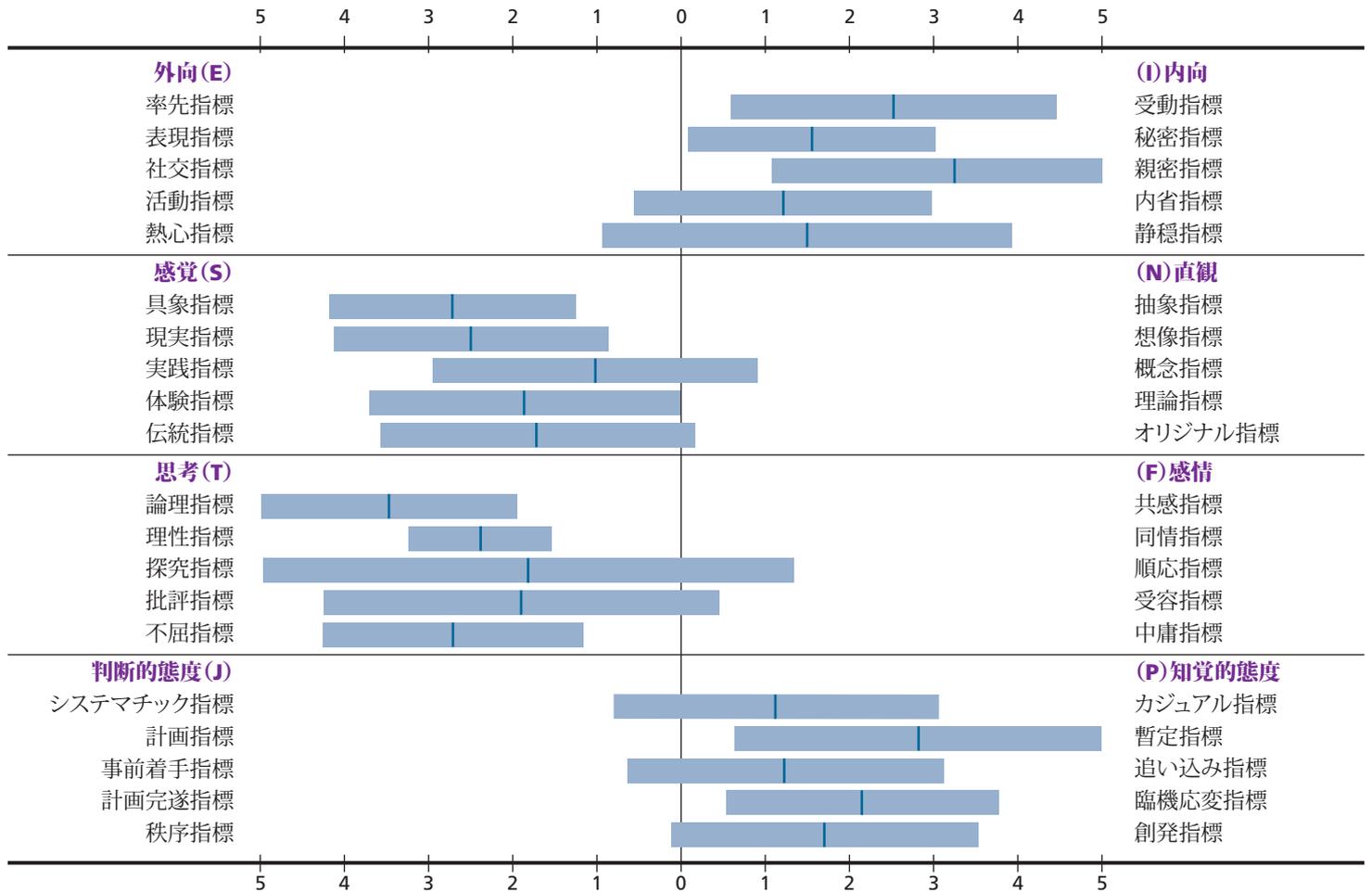
他のISTJのファセットの得点の平均範囲

下記の棒グラフは、国のサンプルベースで算出されたISTJタイプの得点の平均の範囲を示しています。-1から+1は、標準偏差をあらわしています。各々のグラフの縦線は、ISTJの平均得点を示しています。太字の数字は、回答者のスコアを示します。



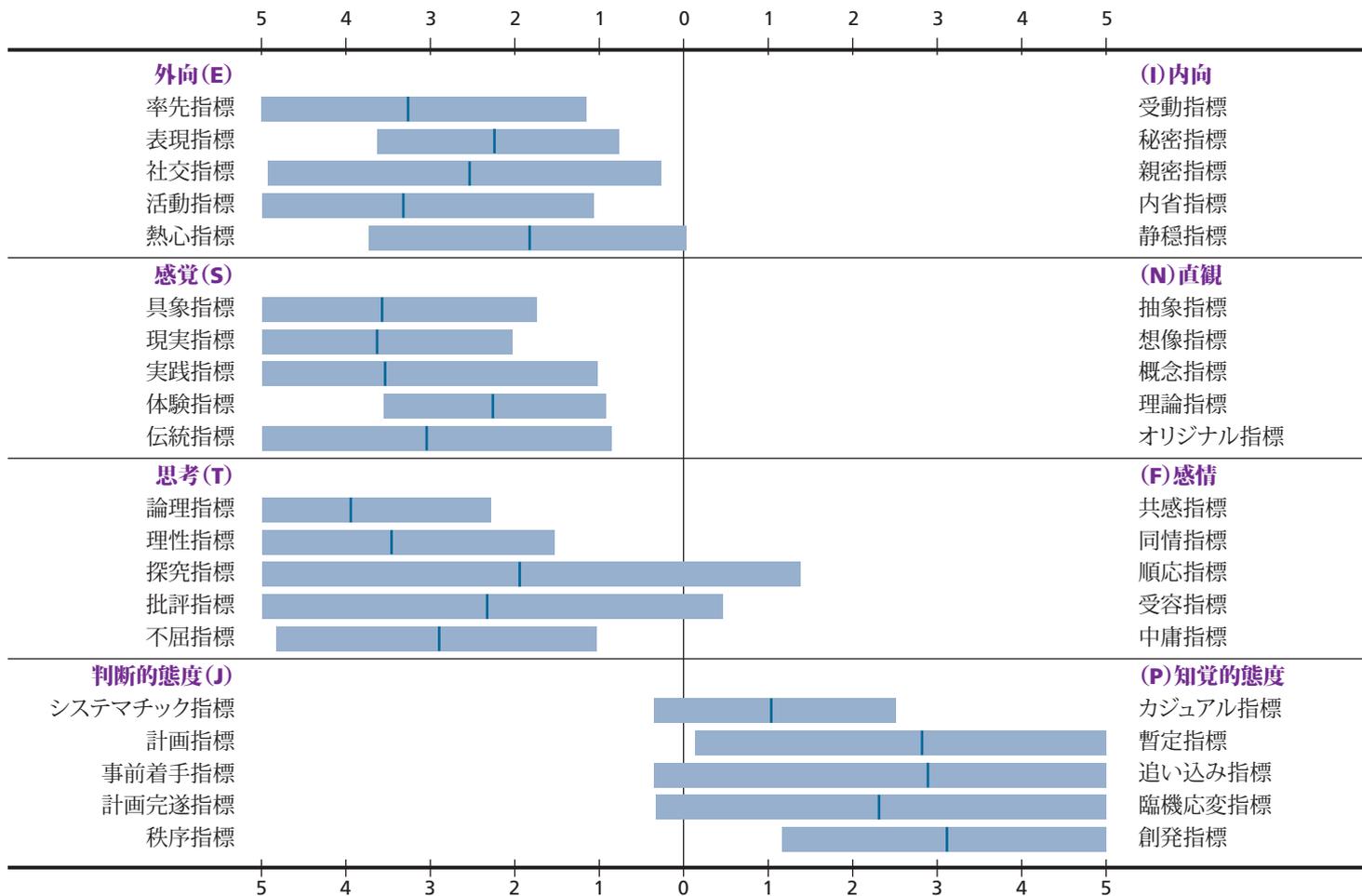
他のISTPのファセットの得点の平均範囲

下記の棒グラフは、国のサンプルベースで算出されたISTPタイプの得点の平均の範囲を示しています。-1から+1は、標準偏差をあらわしています。各々のグラフの縦線は、ISTPの平均得点を示しています。太字の数字は、回答者のスコアを示します。



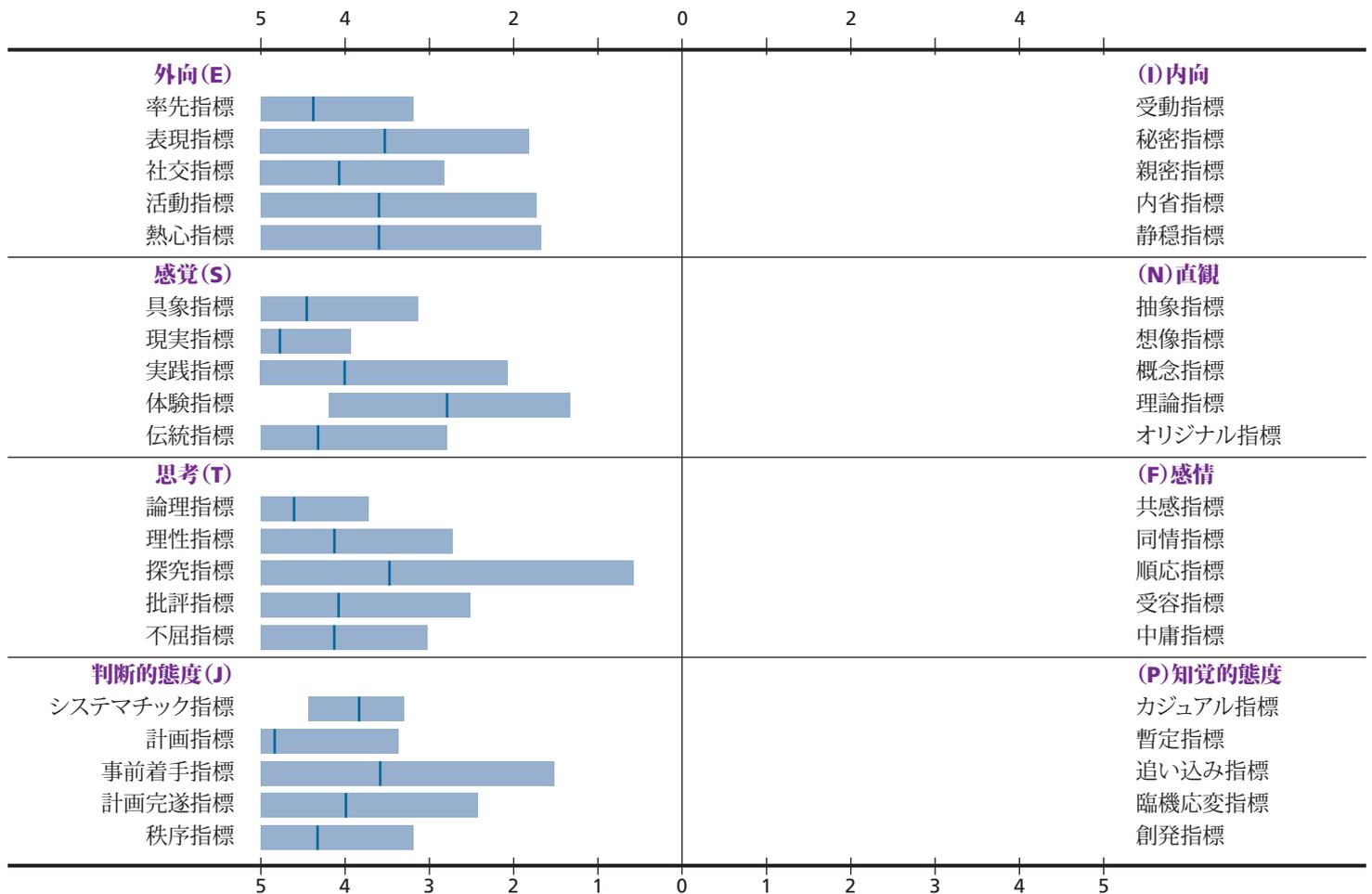
他のESTPのファセットの得点の平均範囲

下記の棒グラフは、国のサンプルベースで算出されたESTPタイプの得点の平均の範囲を示しています。-1から+1は、標準偏差をあらわしています。各々のグラフの縦線は、ESTPの平均得点を示しています。太字の数字は、回答者のスコアを示します。



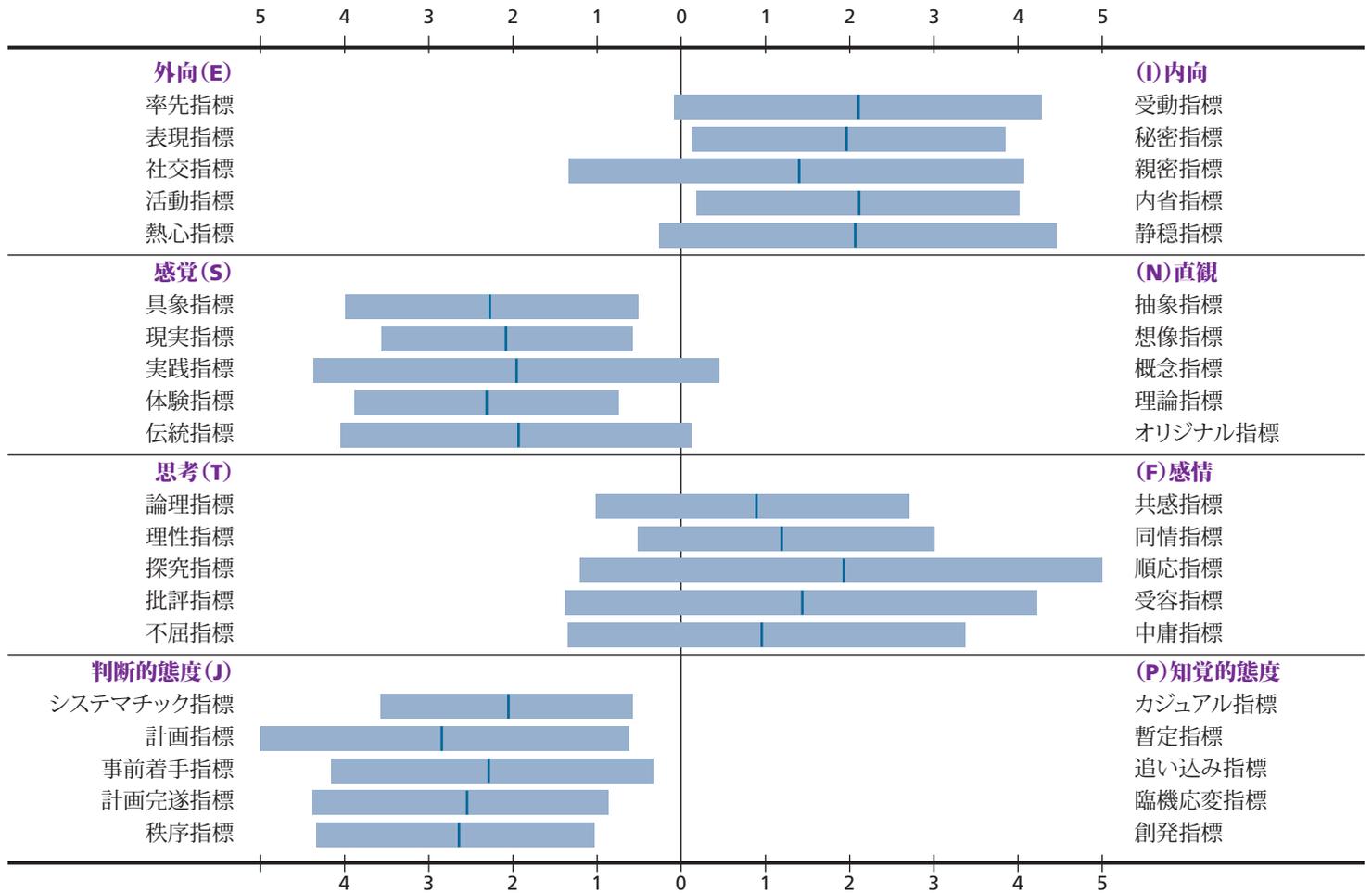
他のESTJのファセットの得点の平均範囲

下記の棒グラフは、国のサンプルベースで算出されたESTJタイプの得点の平均の範囲を示しています。-1から+1は、標準偏差をあらわしています。各々のグラフの縦線は、ESTJの平均得点を示しています。太字の数字は、回答者のスコアを示します。



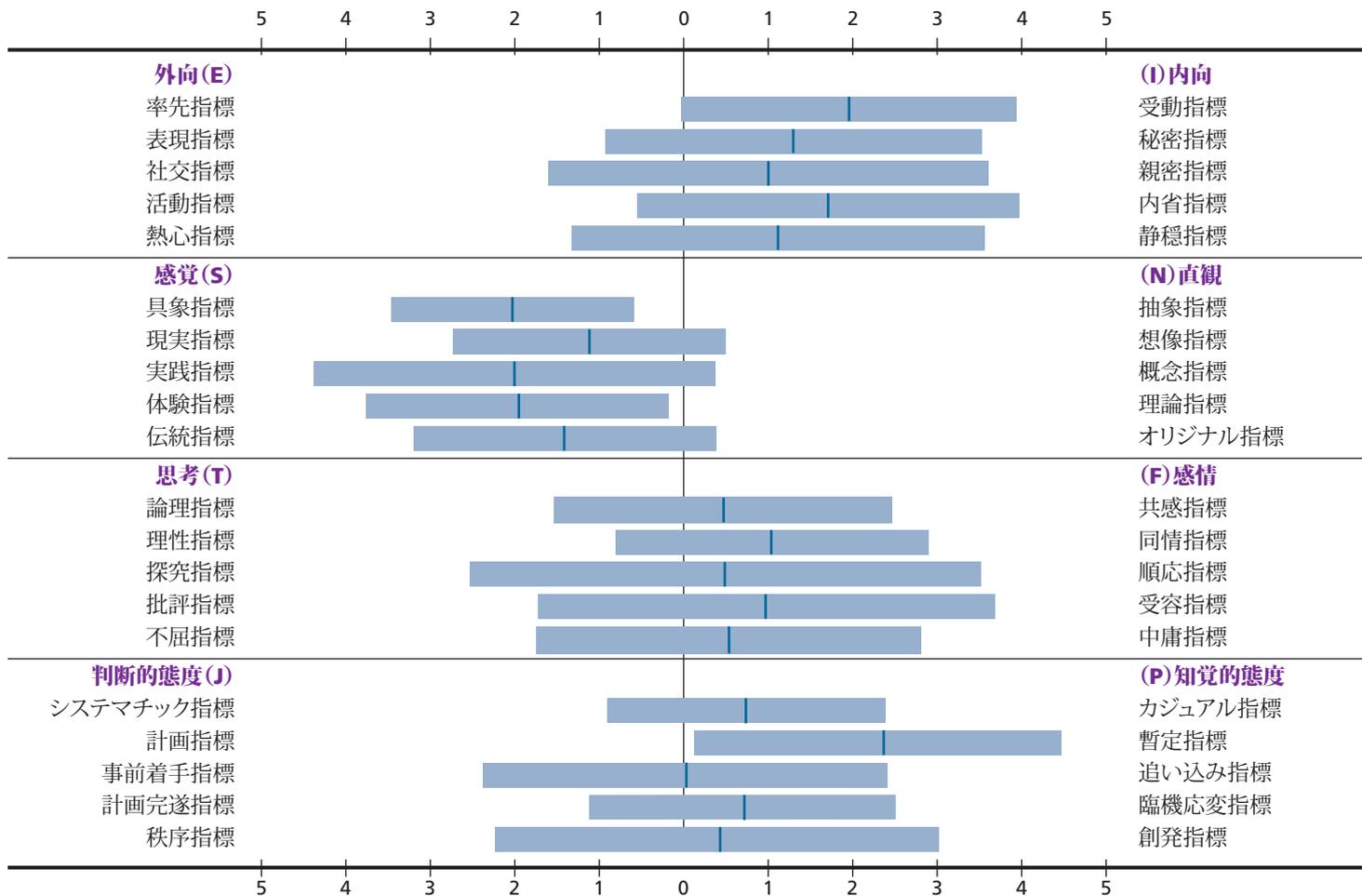
他のISFJのファセットの得点の平均範囲

下記の棒グラフは、国のサンプルベースで算出されたISFJタイプの得点の平均の範囲を示しています。-1から+1は、標準偏差をあらわしています。各々のグラフの縦線は、ISFJの平均得点を示しています。太字の数字は、回答者のスコアを示します。



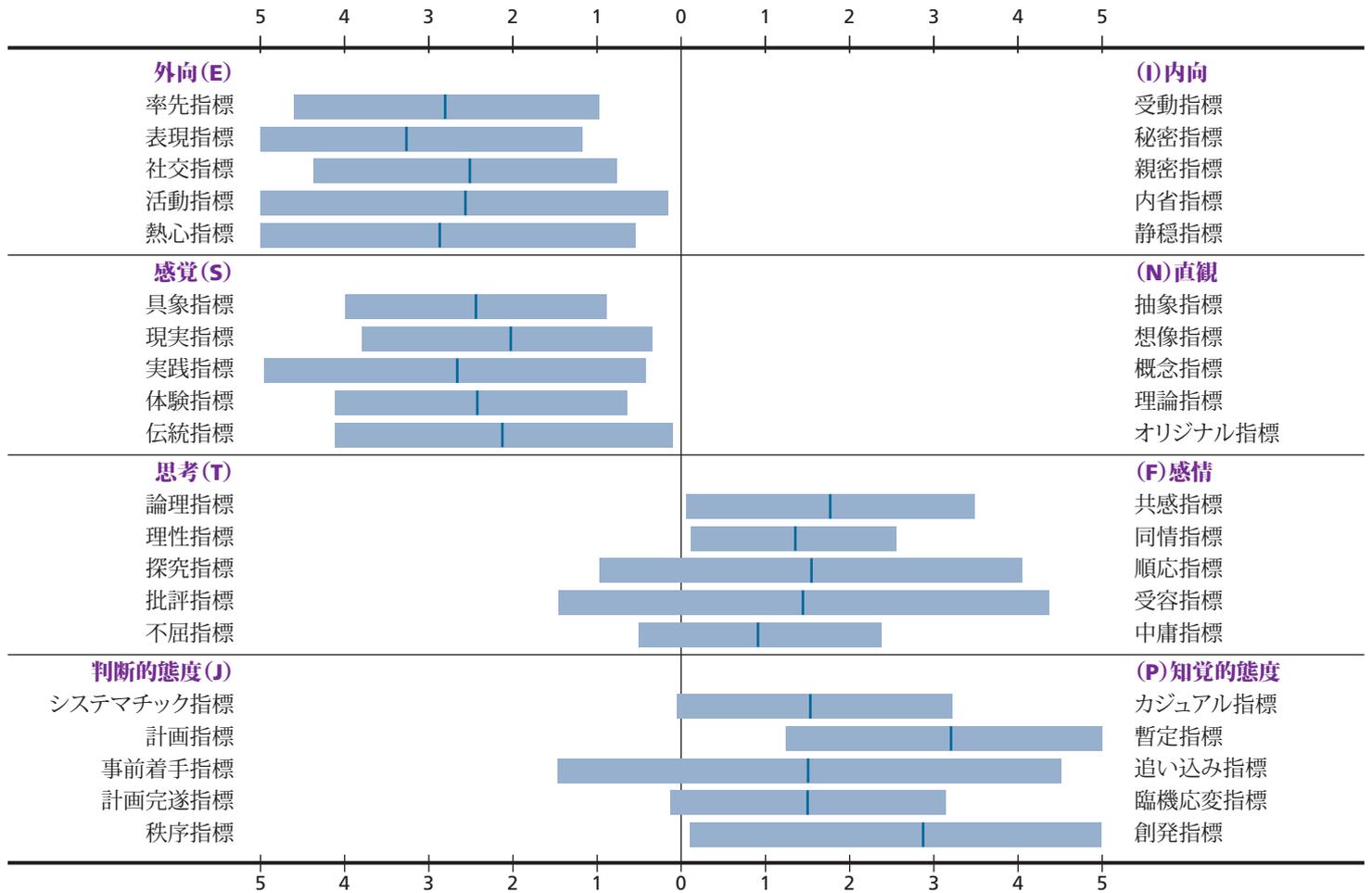
他のISFPのファセットの得点の平均範囲

下記の棒グラフは、国のサンプルベースで算出されたISFPタイプの得点の平均の範囲を示しています。-1から+1は、標準偏差をあらわしています。各々のグラフの縦線は、ISFPの平均得点を示しています。太字の数字は、回答者のスコアを示します。



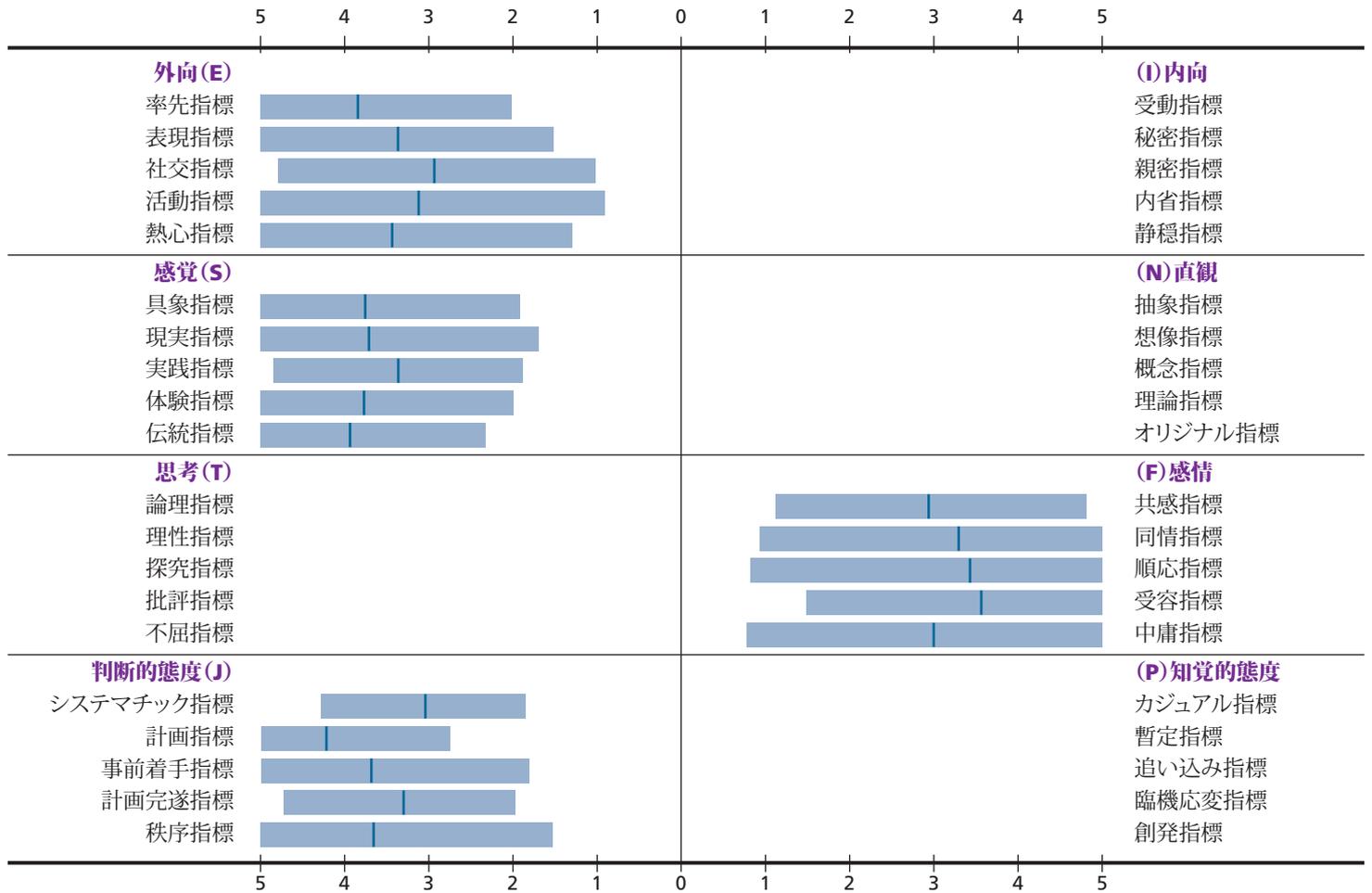
他のESFPのファセットの得点の平均範囲

下記の棒グラフは、国のサンプルベースで算出されたESFPタイプの得点の平均の範囲を示しています。-1から+1は、標準偏差をあらわしています。各々のグラフの縦線はESFPの平均得点を示しています。太字の数字は、回答者のスコアを示します。



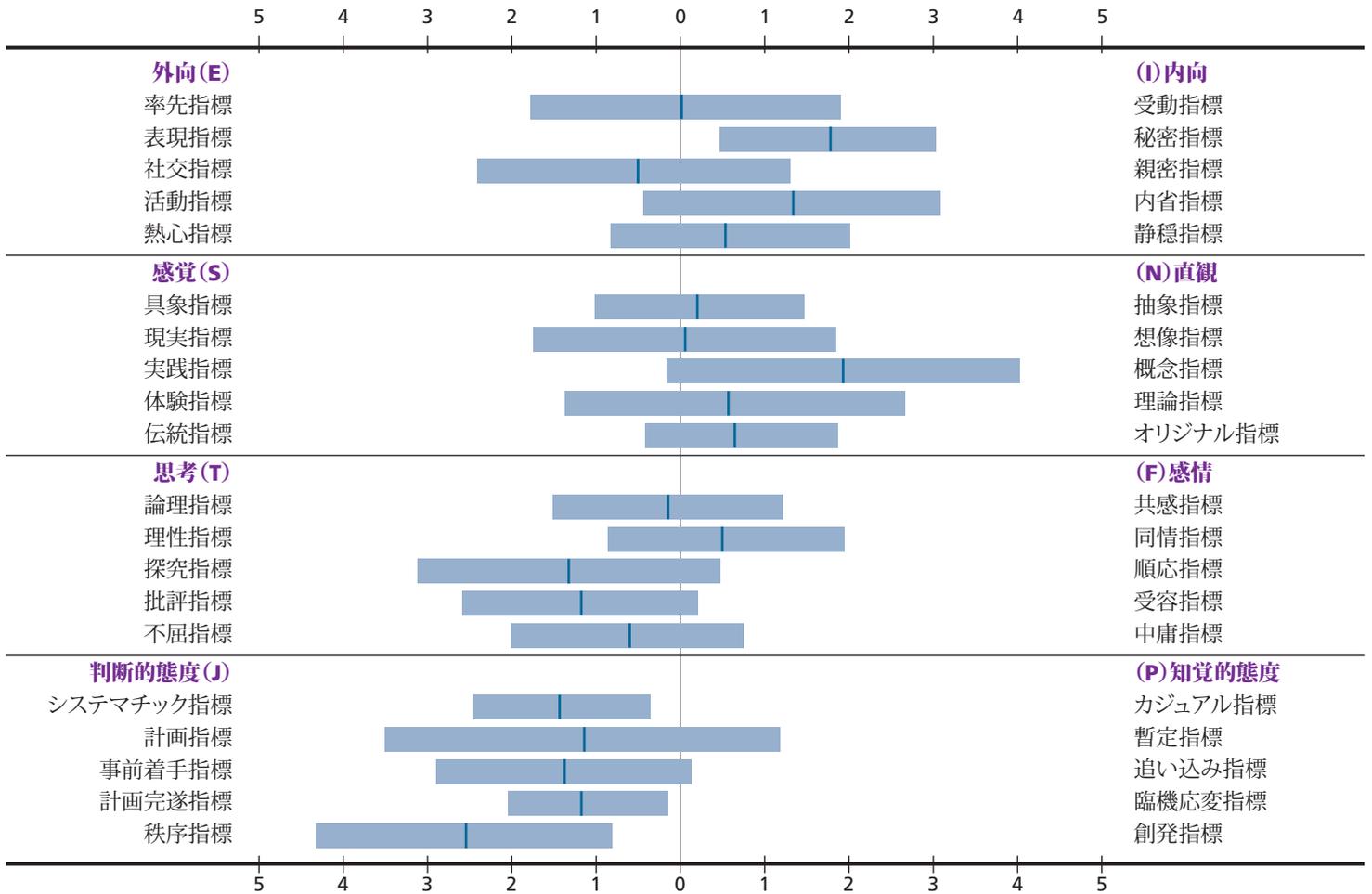
他のESFJのファセットの得点の平均範囲

下記の棒グラフは、国のサンプルベースで算出されたESFJタイプの得点の平均の範囲を示しています。-1から+1は、標準偏差をあらわしています。各々のグラフの縦線は、ESFJの平均得点を示しています。太字の数字は、回答者のスコアを示します。



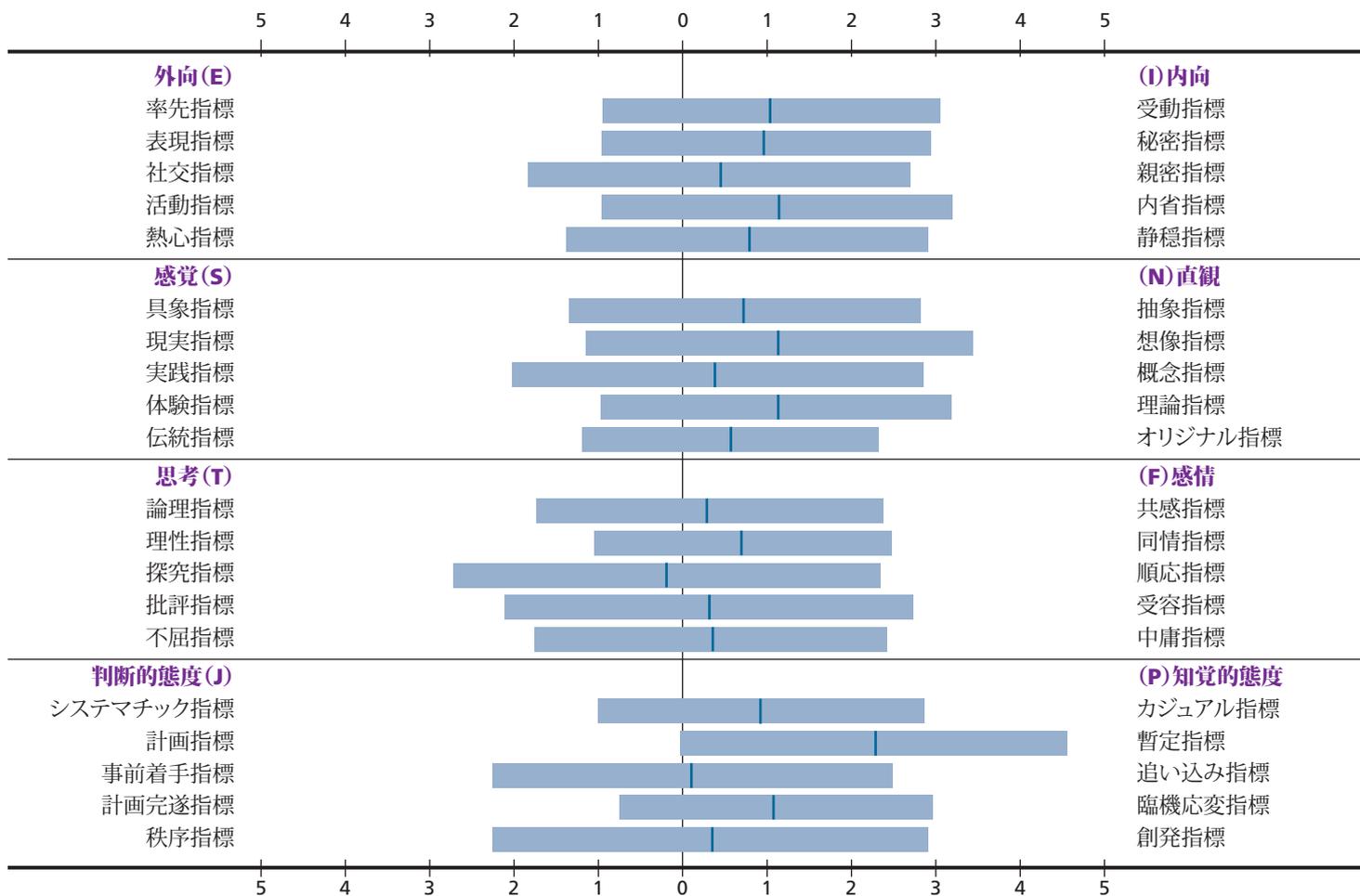
他のINFJのファセットの得点の平均範囲

下記の棒グラフは、国のサンプルベースで算出されたINFJタイプの得点の平均の範囲を示しています。-1から+1は、標準偏差をあらわしています。各々のグラフの縦線は、INFJの平均得点を示しています。太字の数字は、回答者のスコアを示します。



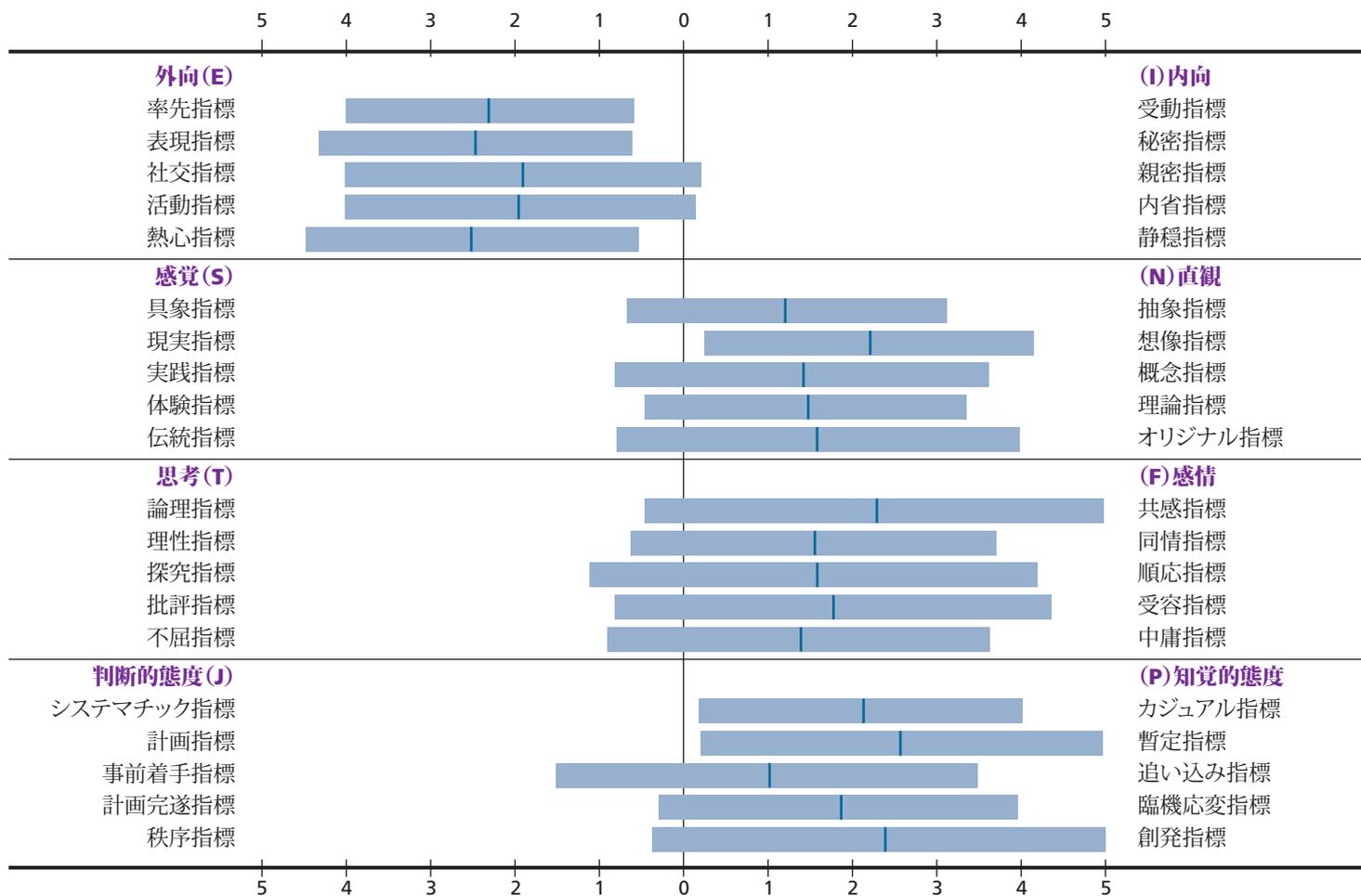
他のINFPのファセットの得点の平均範囲

下記の棒グラフは、国のサンプルベースで算出されたINFPタイプの得点の平均の範囲を示しています。-1から+1は、標準偏差をあらわしています。各々のグラフの縦線は、INFPの平均得点を示しています。太字の数字は、回答者のスコアを示します。



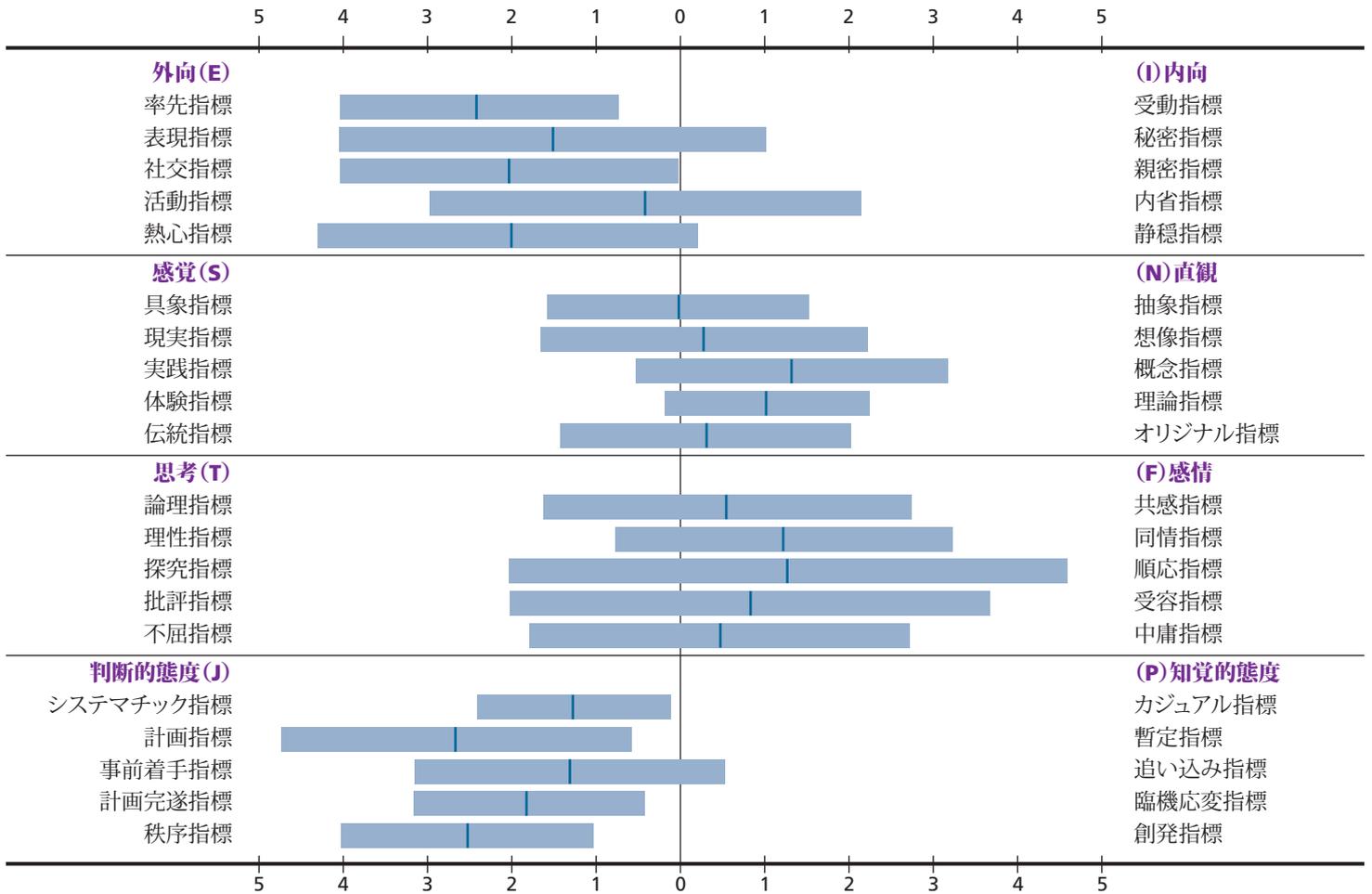
他のENFPのファセットの得点の平均範囲

下記の棒グラフは、国のサンプルベースで算出されたENFPタイプの得点の平均の範囲を示しています。-1から+1は、標準偏差をあらわしています。各々のグラフの縦線は、ENFPの平均得点を示しています。太字の数字は、回答者のスコアを示します。



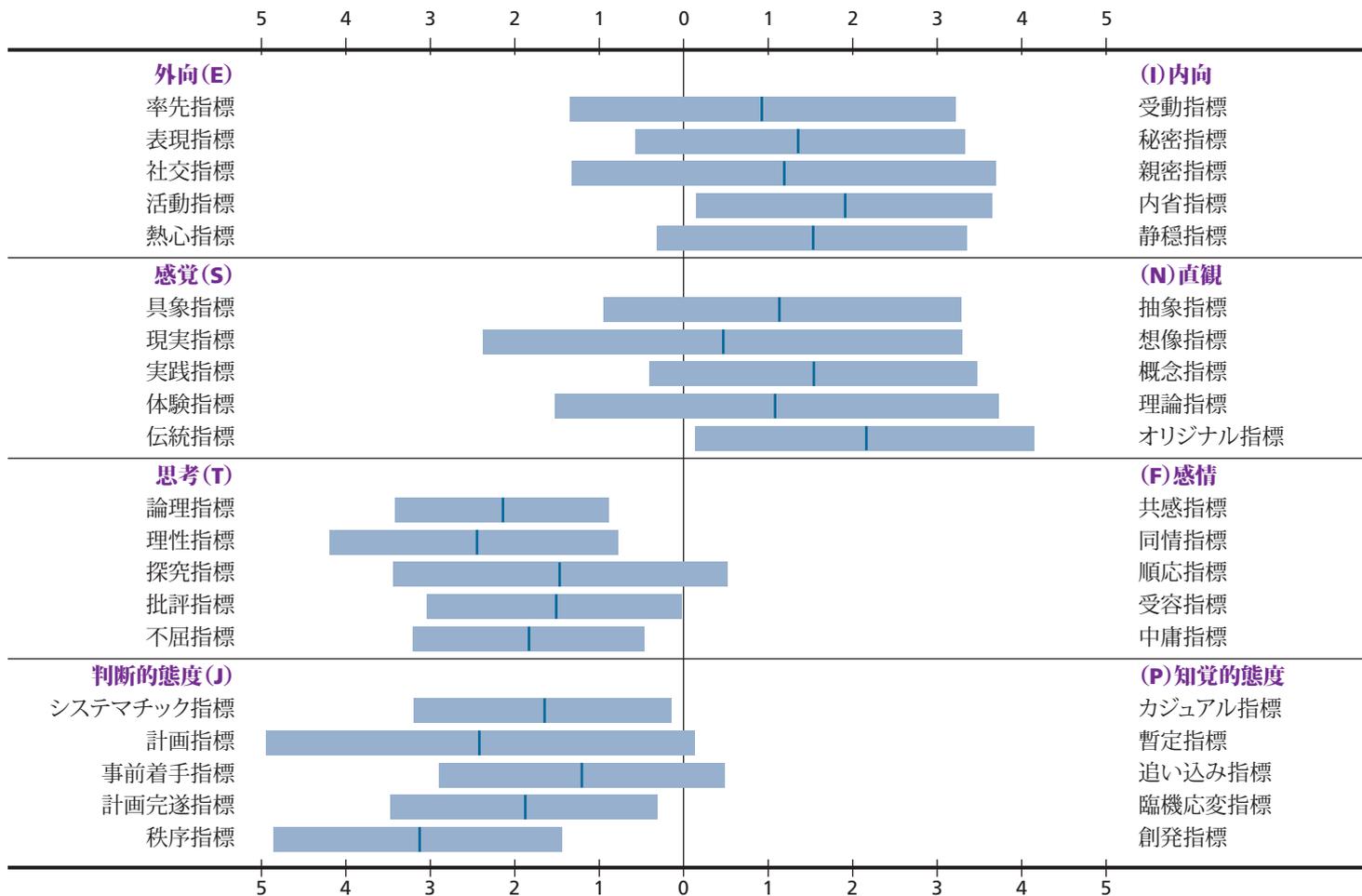
他のENFJのファセットの得点の平均範囲

下記の棒グラフは、国のサンプルベースで算出されたENFJタイプの得点の平均の範囲を示しています。-1から+1は、標準偏差をあらわしています。各々のグラフの縦線は、ENFJの平均得点を示しています。太字の数字は、回答者のスコアを示します。



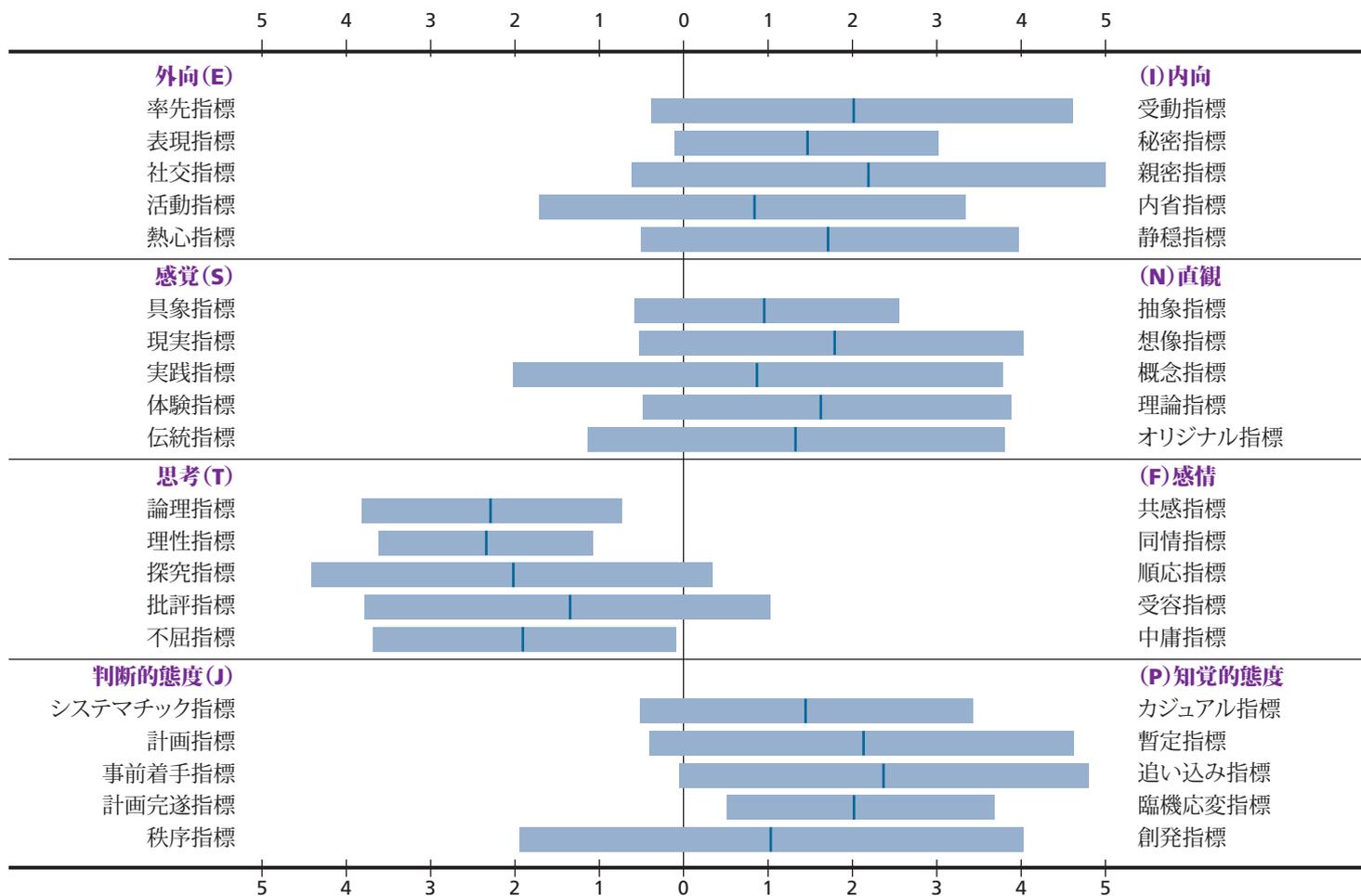
他のINTJのファセットの得点の平均範囲

下記の棒グラフは、国のサンプルベースで算出されたINTJタイプの得点の平均の範囲を示しています。-1から+1は、標準偏差をあらわしています。各々のグラフの縦線は、INTJの平均得点を示しています。太字の数字は、回答者のスコアを示します。



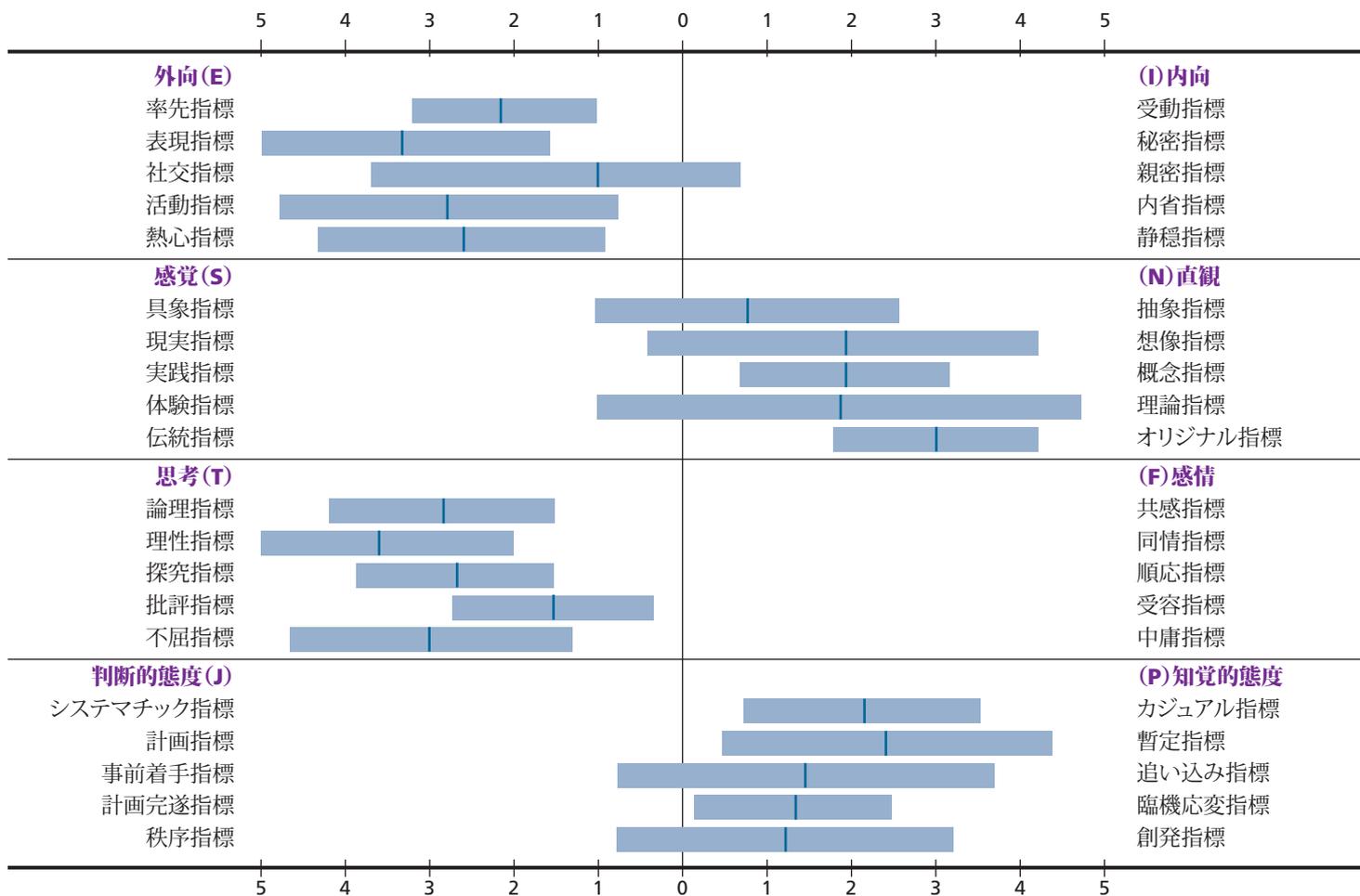
他のINTPのファセットの得点の平均範囲

下記の棒グラフは、国のサンプルベースで算出されたINTPタイプの得点の平均の範囲を示しています。-1から+1は、標準偏差をあらわしています。各々のグラフの縦線は、INTPの平均得点を示しています。太字の数字は、回答者のスコアを示します。



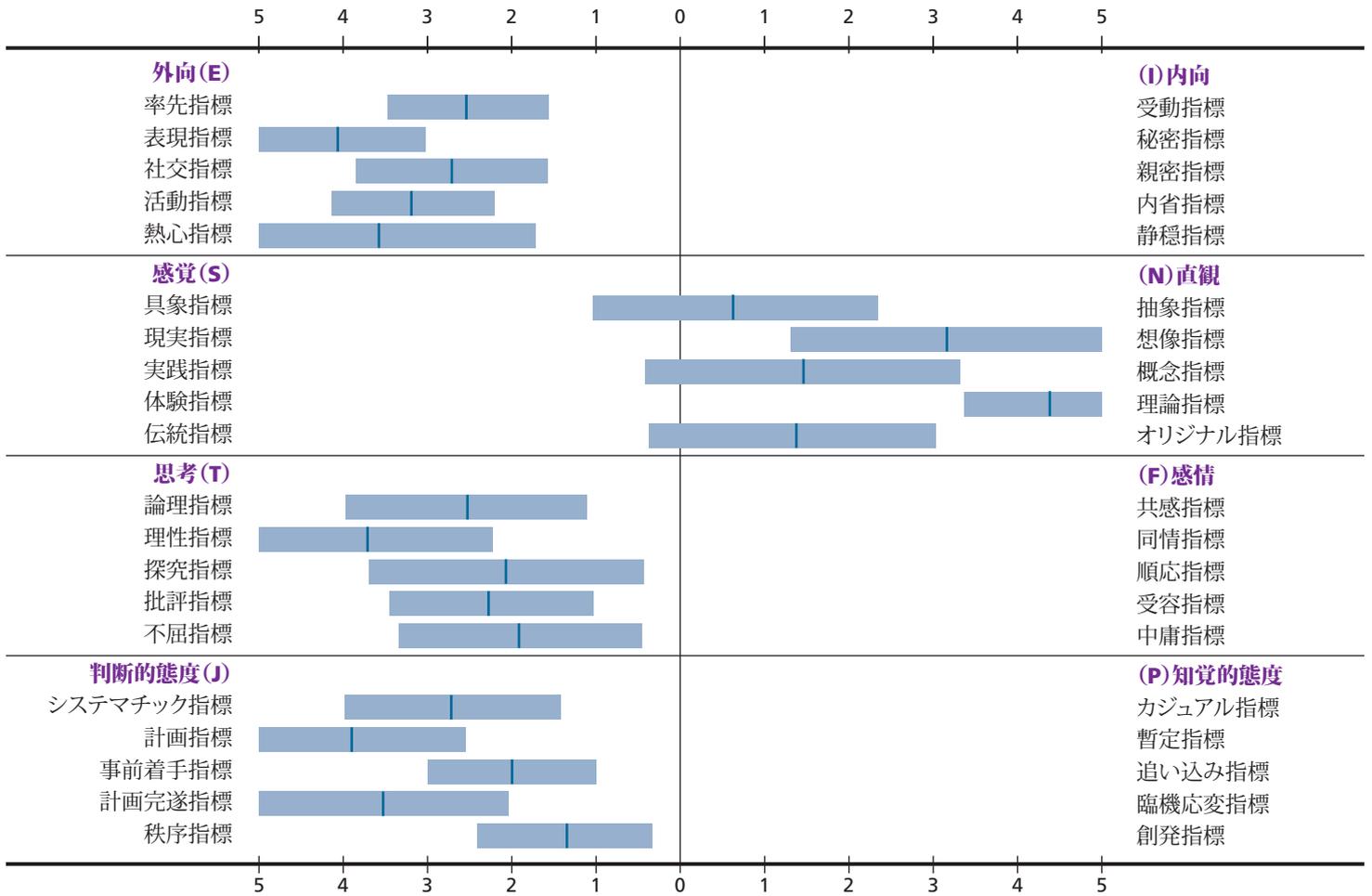
他のENTPのファセットの得点の平均範囲

下記の棒グラフは、国のサンプルベースで算出されたENTPタイプの得点の平均の範囲を示しています。-1から+1は、標準偏差をあらわしています。各々のグラフの縦線は、ENTPの平均得点を示しています。太字の数字は、回答者のスコアを示します。



他のENTJのファセットの得点の平均範囲

下記の棒グラフは、国のサンプルベースで算出されたENTJタイプの得点の平均の範囲を示しています。-1から+1は、標準偏差をあらわしています。各々のグラフの縦線は、ENTJの平均得点を示しています。太字の数字は、回答者のスコアを示す。



極指数

ポリリティ・インデックスは、0から100までの値を取り、プロフィールの中での回答者のファセットスコアの一貫性を示しています。たいいていの場合、成人は、50から65の値をとりませんが、それより高い値をとることは珍しくありません。45より下の値の場合、回答者がミッドゾーンかそれに近いスコアを多く取ったことを意味しています。それについては、いくつかの解釈ができます。回答者が環境にあわせながら適切に成熟してファセットを使用している場合、あるいは、質問に単にランダムに回答している場合、あるいは自己理解が不足している場合、あるいは、どちらの指標軸を使ったらよいか決めかねている状態を意味する場合もあります。このような結果が出た場合、結果そのものの信頼性が低いこともあります。

無答数

無答があると、4文字で報告されるMBTIのタイプに影響を与えています。

無答がある場合、20指標あるSTEP IIファセットのスコアに影響を与えています。

無答がある場合、20指標あるSTEP IIファセットと4文字出あらわされるMBTIのタイプの指向得点に影響を与えています。



CPP, Inc.
800-624-1764 | www.cpp.com



JPP, Inc.
03-5363-0517 | www.jpjapan.com

Japan Psychological Press Inc.

マイヤーズブリッグスタイプインディケーター®STEP II™(Form Q)結果報告書 2009年著作権はピーターBマイヤーズ、キャサリンDマイヤーズに属します。無断複写・転載厳禁 Myers Briggs Type Indicator, MBTI, STEP I, STEP II, MBTIのロゴは、米国および他諸国において Myers & Briggs Foundation, Inc. の登録商標です。CPPのロゴは、米国および他諸国において CPP社の登録商標です。



CPP, Inc.
800-624-1764 | www.cpp.com

マイヤーズブリッグスタイプインディケーター® STEP II™(Form Q)結果報告書 2009年著作権はピーターBマイヤーズ、キャサリンDマイヤーズに属します。無断複写・転載厳禁 Myers Briggs Type Indicator, MBTI, STEP I, STEP II, MBTIのロゴは、米国および他諸国において Myers & Briggs Foundation, Inc. の登録商標です。CPPのロゴは、米国および他諸国において CPP社の登録商標です。